資料５

障がい福祉に関するアンケート調査について

Ⅰ 調査計画

【調査の目的】

本調査は、「宇和島市障がい者計画」等の策定に当たって、障害者手帳所持者等における、障がいの状況、住まいや暮らし、保健・医療、就労、保育・教育などについての現状やニーズ等を把握することを目的として実施した。

【調査対象】

市内に住所を有する身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者及び福祉サービス利用者、障がい児通所支援受給者

【調査方法】

郵送配布～郵送回収

【調査期間】

令和２（2020）年８月

【回収結果】

配布数----------500 件
有効回収数--------221 件
有効回収率--------44.2%

◆手帳種類別回収状況◆（数値部分上段は構成比%、下段は回答件数）

サンプル数	身体障害者手帳						療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			無回答
	１級	２級	３級	４級	５級	６級	A	B	１級	２級	３級	
100.0	20.8	12.2	8.1	8.6	3.2	1.4	12.2	19.9	1.4	12.7	4.1	6.3
221	46	27	18	19	7	3	27	44	3	28	9	14

注：問6回答結果より

◆居住地区別回収状況◆（数値部分上段は構成比%、下段は回答件数）

サンプル数	宇和島地区	吉田地区	三間地区	津島地区	その他	わからない	無回答
100.0	60.2	14.5	6.8	11.8	5.4	0.0	1.4
221	133	32	15	26	12	0	3

注：問3回答結果より

◆記入者について◆（数値部分上段は構成比%、下段は回答件数）

サンプル数	本人 （調査票が郵送 された宛名の方）	本人の家族	家族以外の 介助者	無回答
100.0	52.0	37.1	6.3	4.5
221	115	82	14	10

注:問1回答結果より

【報告書の見方について】

（１）集計は小数点以下第２位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。

（２）２つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は 100%を超える場合がある。

（３）数表、図表、文中に示すＮは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「Ｎ」、「該当数」を「ｎ」で表記している。

（４）図表中における障がい区分別や年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、障がい区分別でクロス集計する場合における障がい区分の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。

（５）図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。

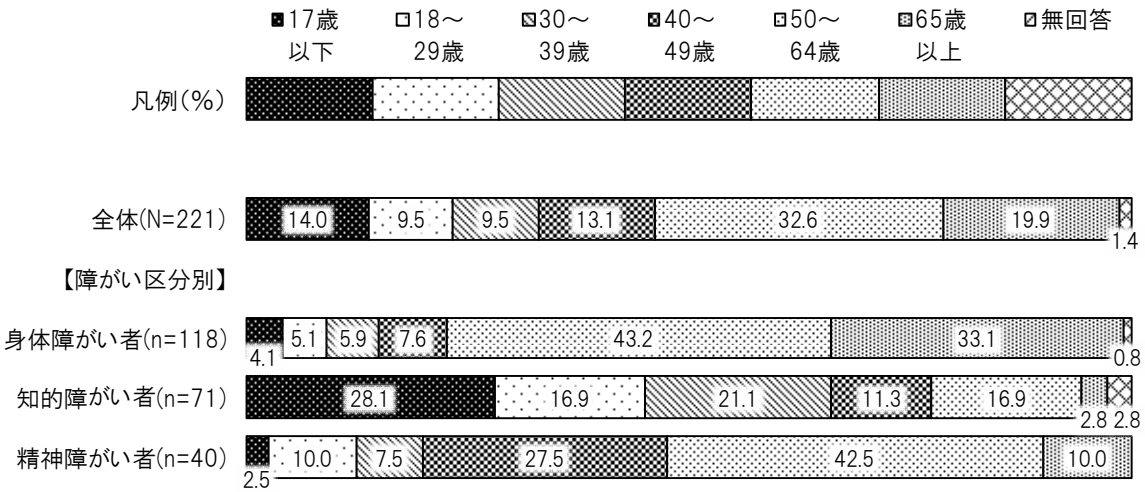
（６）この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

Ⅱ 回答者の属性

1 年齢別構成

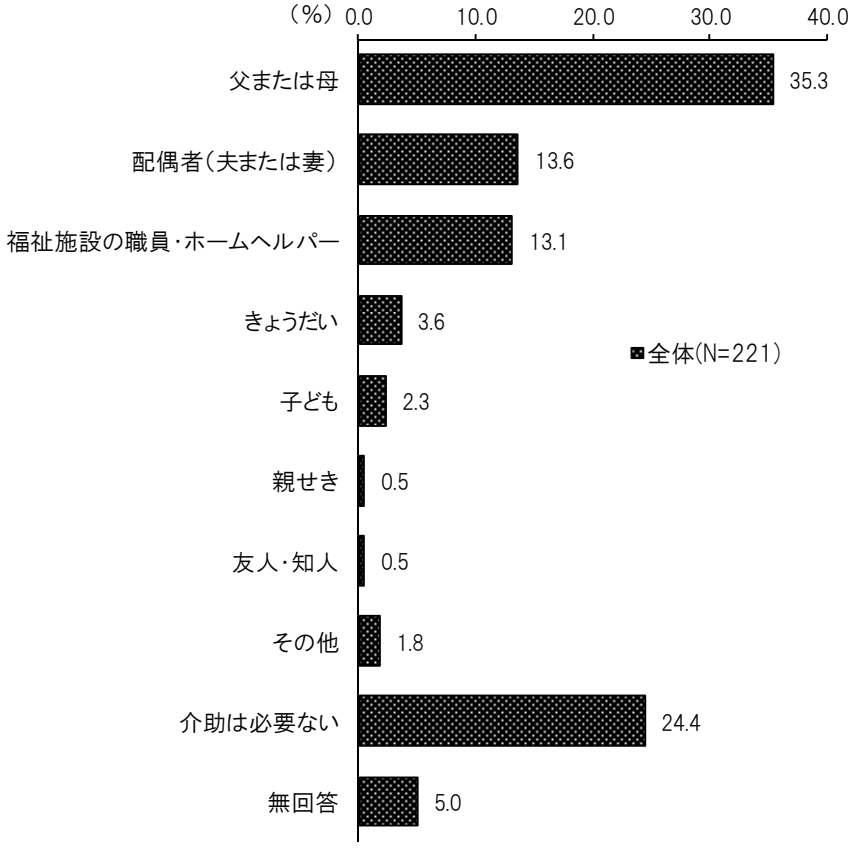
回答者の年齢別構成は、「50～64 歳」が 32.6％と最も高く、次いで「65 歳以上」(19.9％)、「17 歳以下」（14.0％）の順となっており、『50 歳以上』は合計で約半数（52.5％）を占めている。

障がい区分別では、身体障がい者で「65 歳以上」、知的障がい者で「17 歳以下」、精神障がい者で「40～49 歳」の割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。

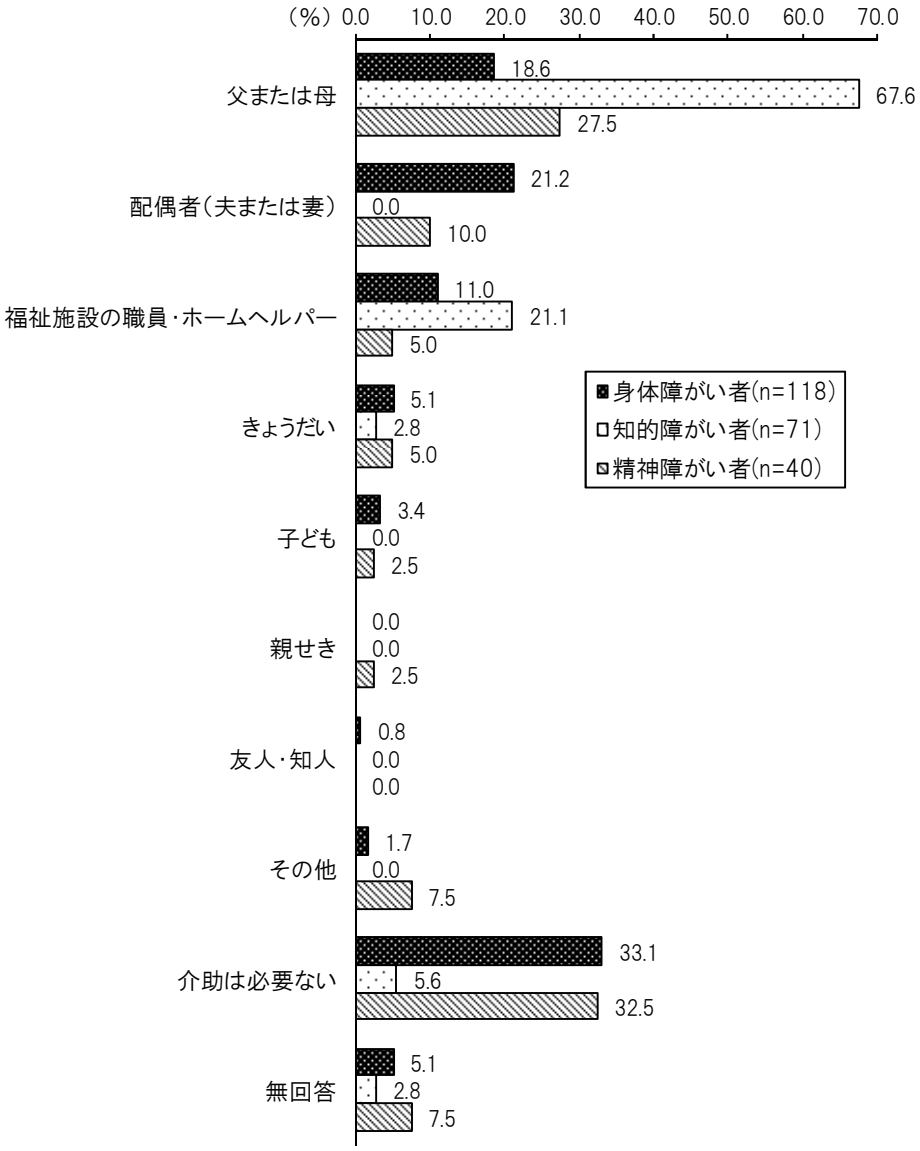


2 主な介助者

主な介助者については、「父または母」の割合が 35.3％と最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」（13.6％）、「福祉施設の職員・ホームヘルパー」（13.1％）の順となっている。一方、「介助は必要ない」は 24.4％となっている。



障がい区分別では、身体障がい者で「配偶者（夫または妻)」、知的障がい者で「父または母」「福祉施設の職員・ホームヘルパー」の割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。



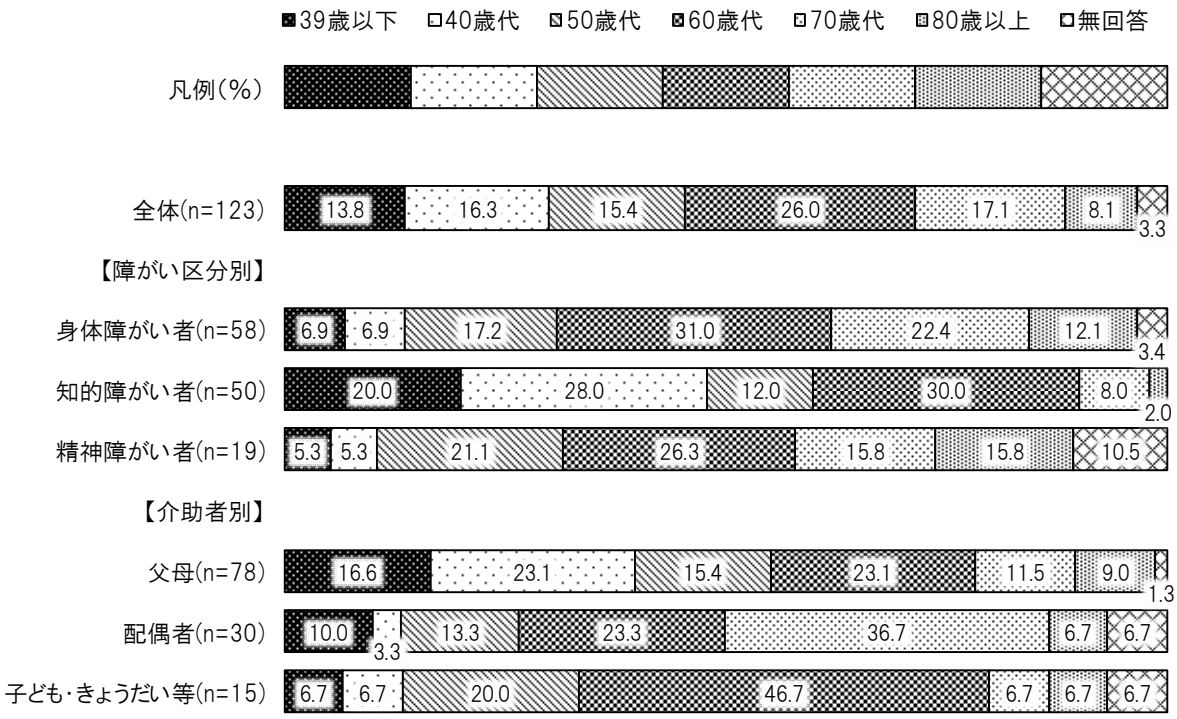
3 介助者の年齢や健康状態

①介助者の年齢

介助者の年齢については、「60 歳代」が 26.0%と最も高く、次いで「70 歳代」(17.1%)、「40 歳代」(16.3%) が続き、『60 歳以上 (合計)』で約半数 (51.2%) を占めている。

障がい区分別では、身体障がい者で「70 歳代」、知的障がい者で「39 歳以下」「40 歳代」の割合がそれぞれ他の障がいに比べて高くなっている。

介助者別でみると、父母で「40 歳代」、配偶者で「70 歳代」、子ども・きょうだい等で「60 歳代」の割合がそれぞれ他の介助者を大きく上回っている。



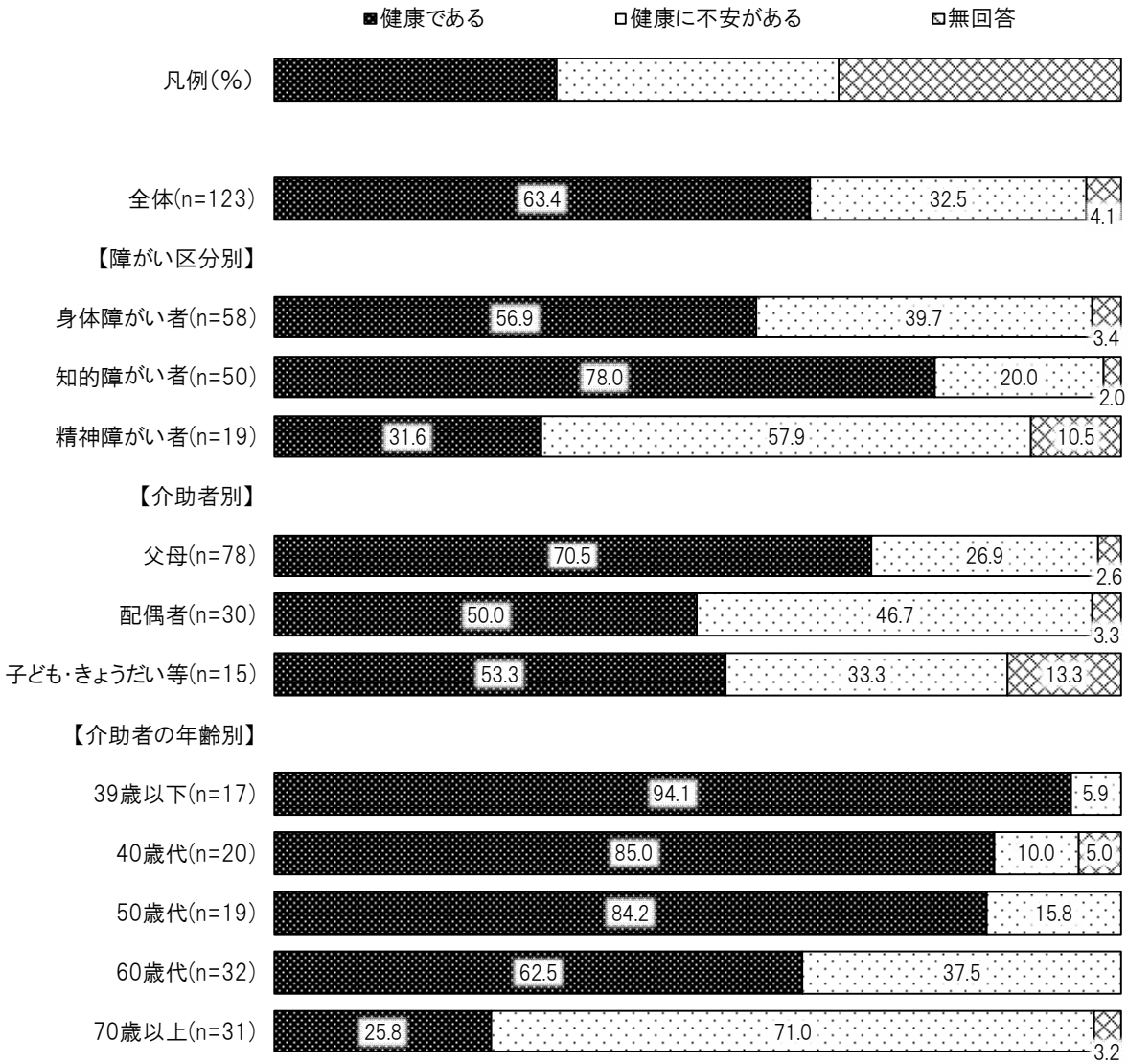
②介助者の健康状態

介助者の健康状態については、「健康である」が 63.4%、「健康に不安がある」が 32.5%となっている。

障がい区分別では、精神障がい者で「健康に不安がある」の割合が他の障がいを大きく上回っている。

介助者別でみると、配偶者で「健康に不安がある」の割合が他の介助者を大きく上回っている。

介助者の年齢別では、70 歳以上で「健康に不安がある」が約 7 割を占めている。



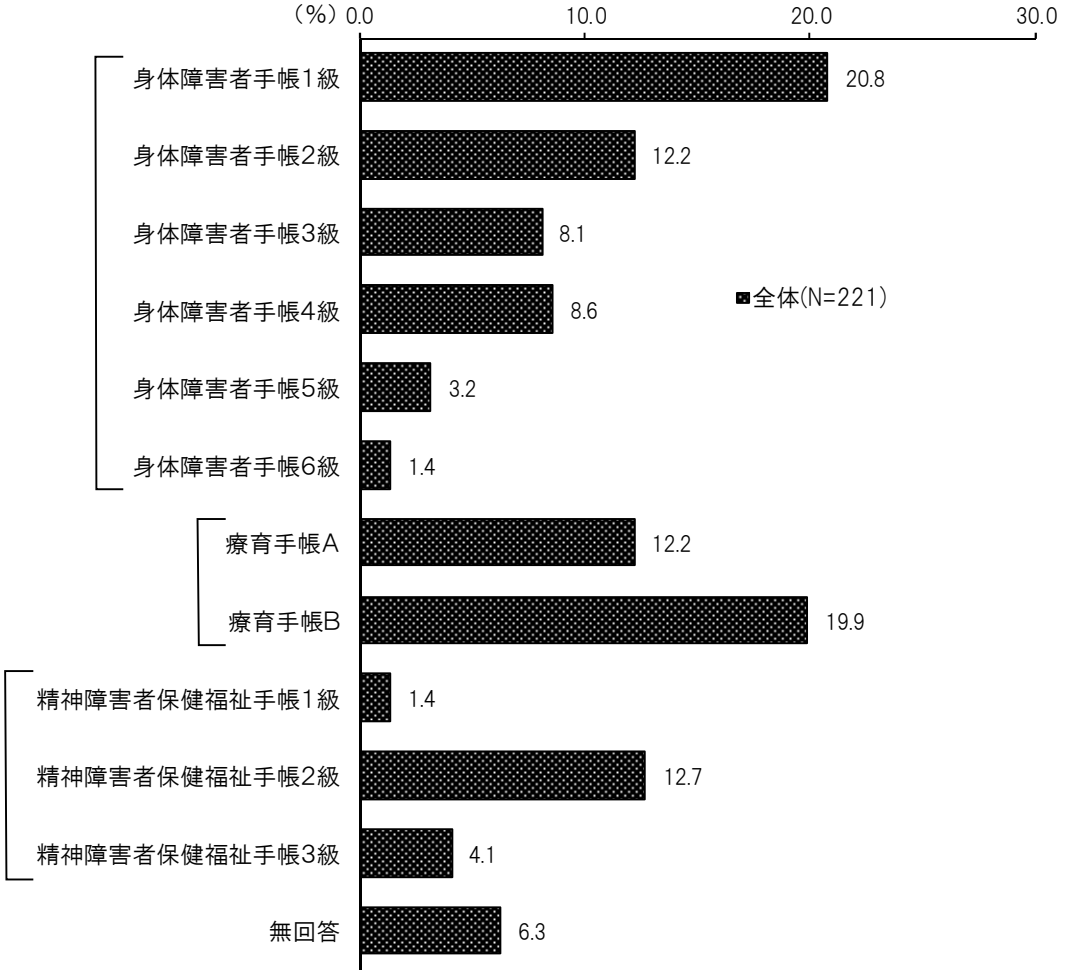
Ⅲ 調査結果

【１】障がいの状況について

１ 所持手帳の種類

問６　あなたは次の手帳をお持ちですか。（あてはまるものすべてに○）

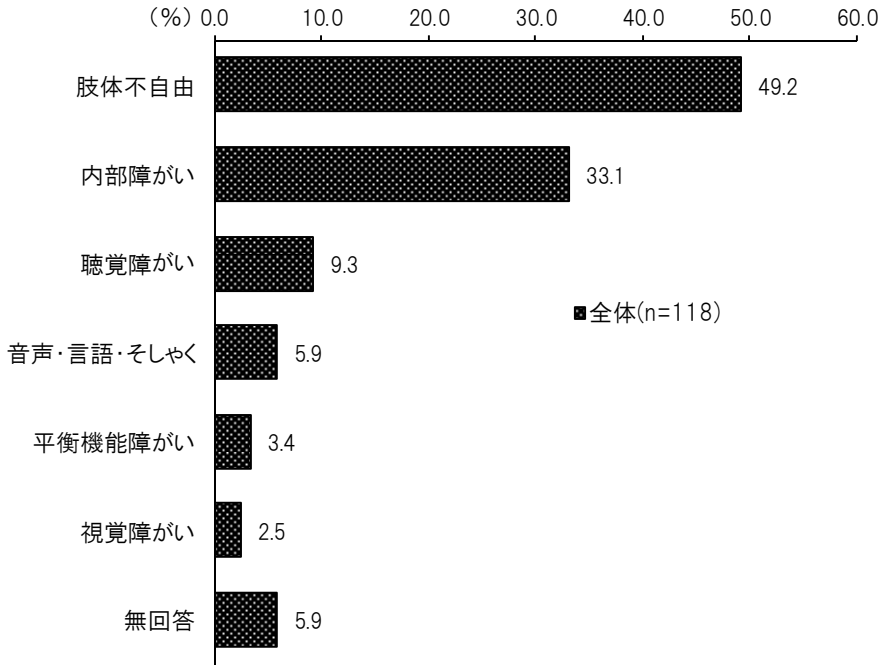
所持手帳を種類別でみると、身体障害者手帳は「１級」の割合が 20.8％と最も高く、次いで「２級」（12.2％）が続いている。また、療育手帳では「Ｂ」（19.9％）、精神障害者保健福祉手帳では「２級」（12.7％）の割合が高くなっている。



２ 身体障がい者における障がいの種類

【問６で「１～６」を選んだ方におたずねします。】
問７　手帳に記載されている障がい名をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

身体障害者手帳所持者においては、「肢体不自由」の割合が 49.2％と最も高く、次いで「内部障がい」（33.1％）、「聴覚障がい」（9.3％）の順となっている。



3 各種診断や認定の状況について

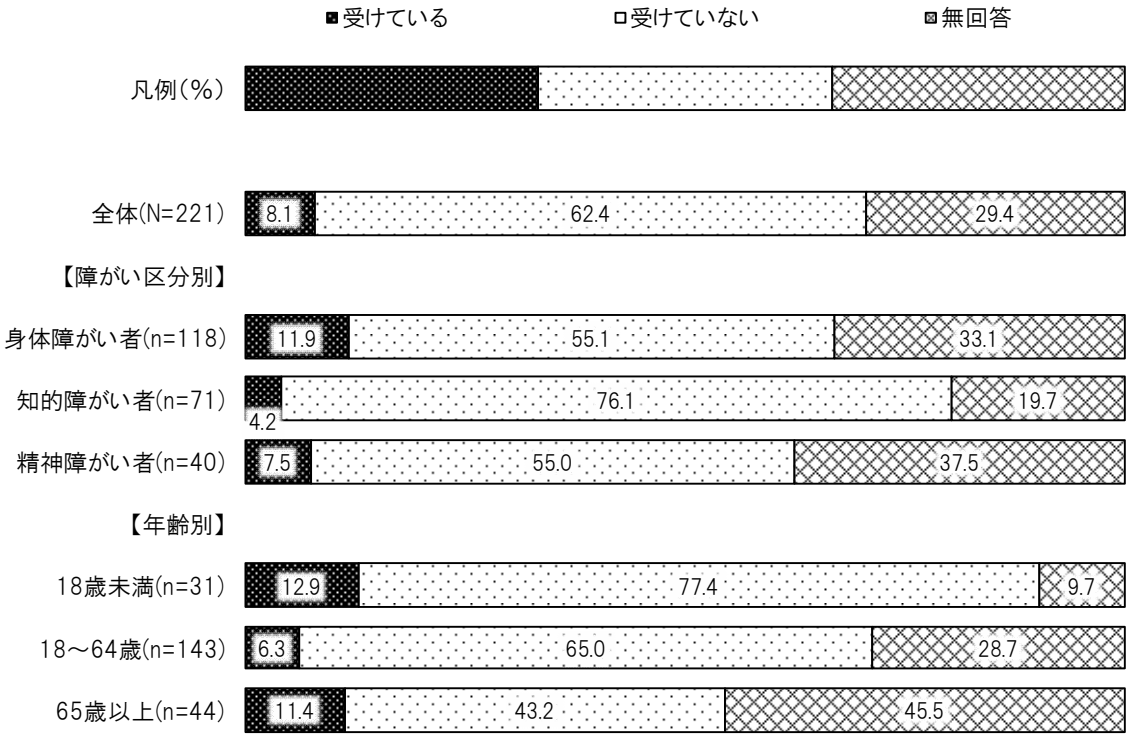
問８　あなたは、次にあげる項目それぞれについて、医師からの診断や認定などを受けていますか。（○は１つずつ）

①難病の診断

難病の診断については、「受けている」が 8.1%となっている。

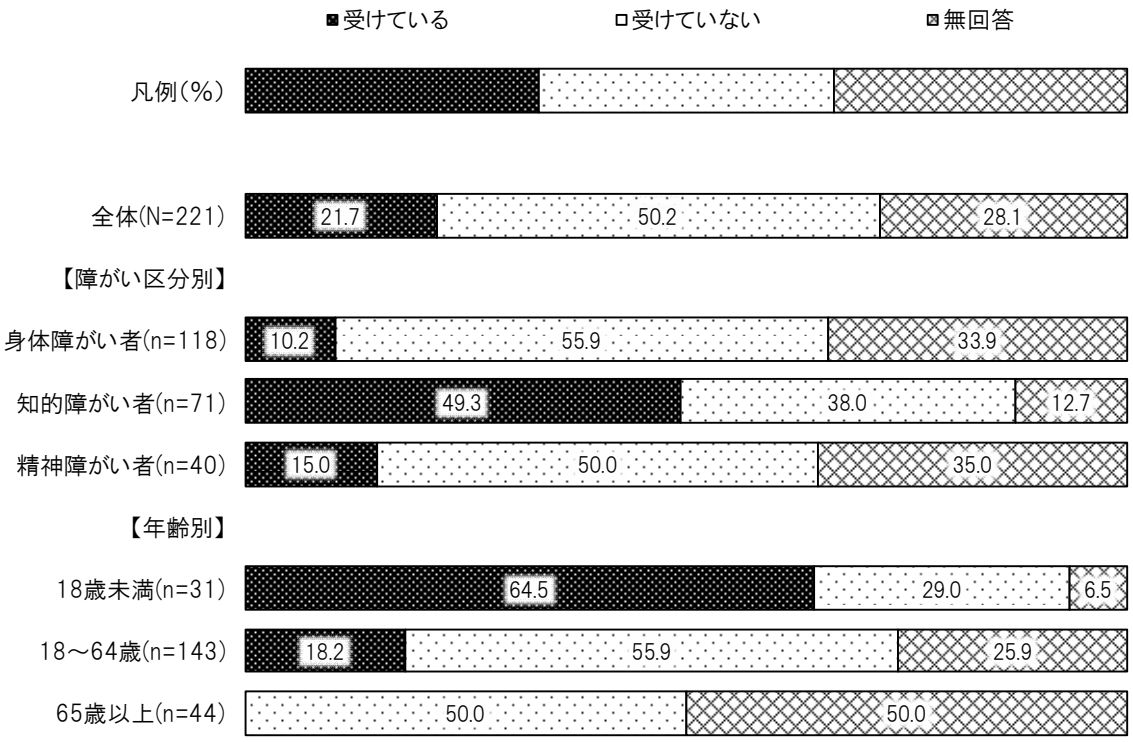
障がい区分別では、身体障がい者で「受けている」の割合が他の障がいに比べてやや高くなっている。

年齢別では、大きな差はみられない。



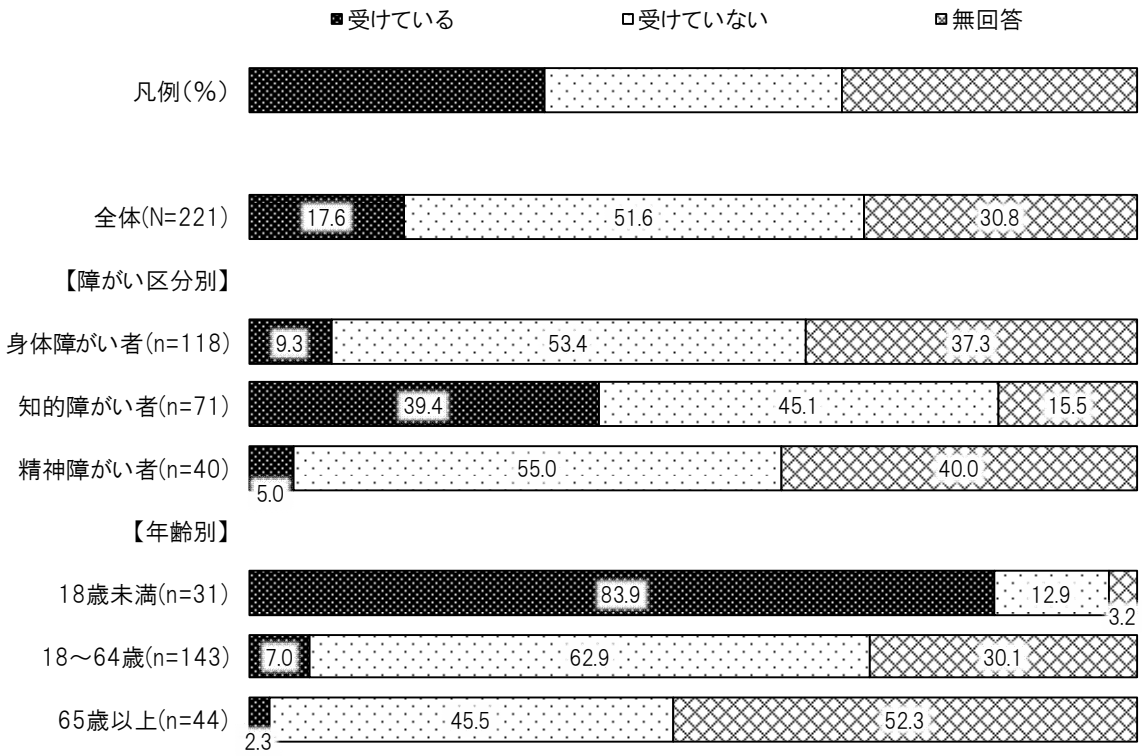
②発達障がいの診断

発達障がいの診断については、約２割（21.7%）が「受けている」と回答している。
障がい区分別では、知的障がい者の約半数が発達障がいと診断されている。
年齢別では、18 歳未満で「受けている」の割合が６割以上を占めている。



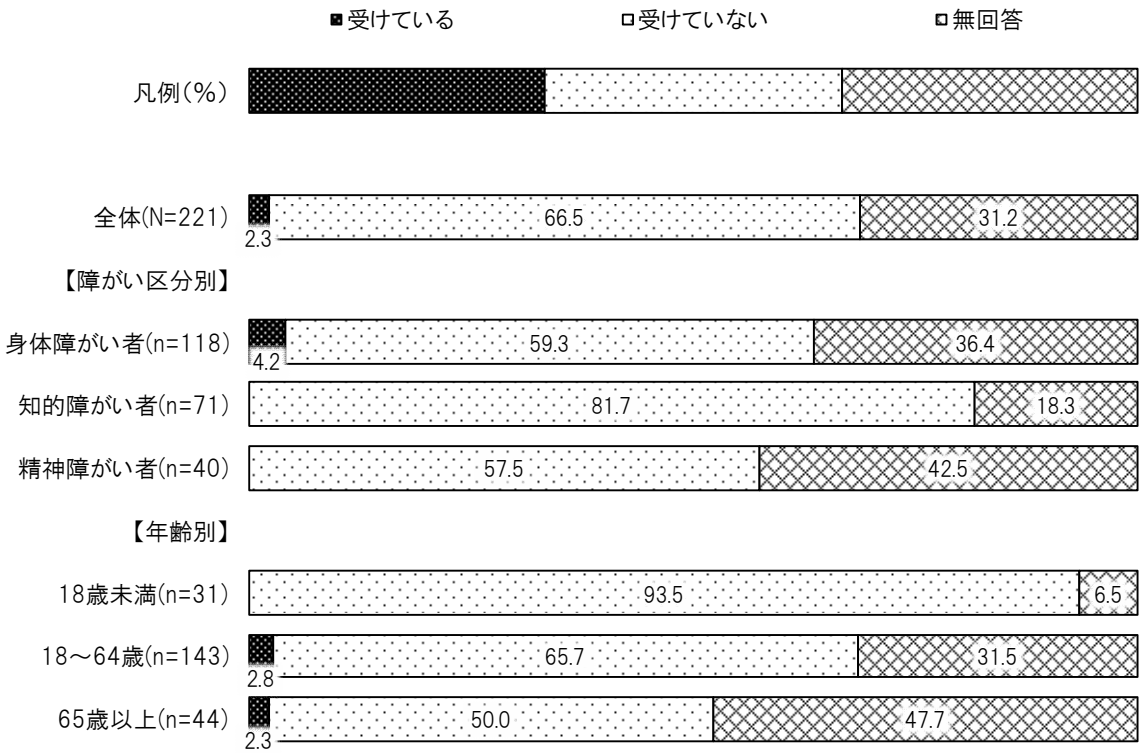
③特別児童扶養手当の受給

特別児童扶養手当の受給については、「受けている」が 17.6%となっている。
障がい区分別では、知的障がい者の約４割が特別児童扶養手当を受給している。
年齢別では、18 歳未満で「受けている」の割合が８割以上を占めている。



④高次脳機能障がいの診断

高次脳機能障がいの診断については、「受けている」が 2.3%となっている。
障がい区分別では、身体障がい者で「受けている」の割合が高くなっている。
年齢別では、大きな差はみられない。

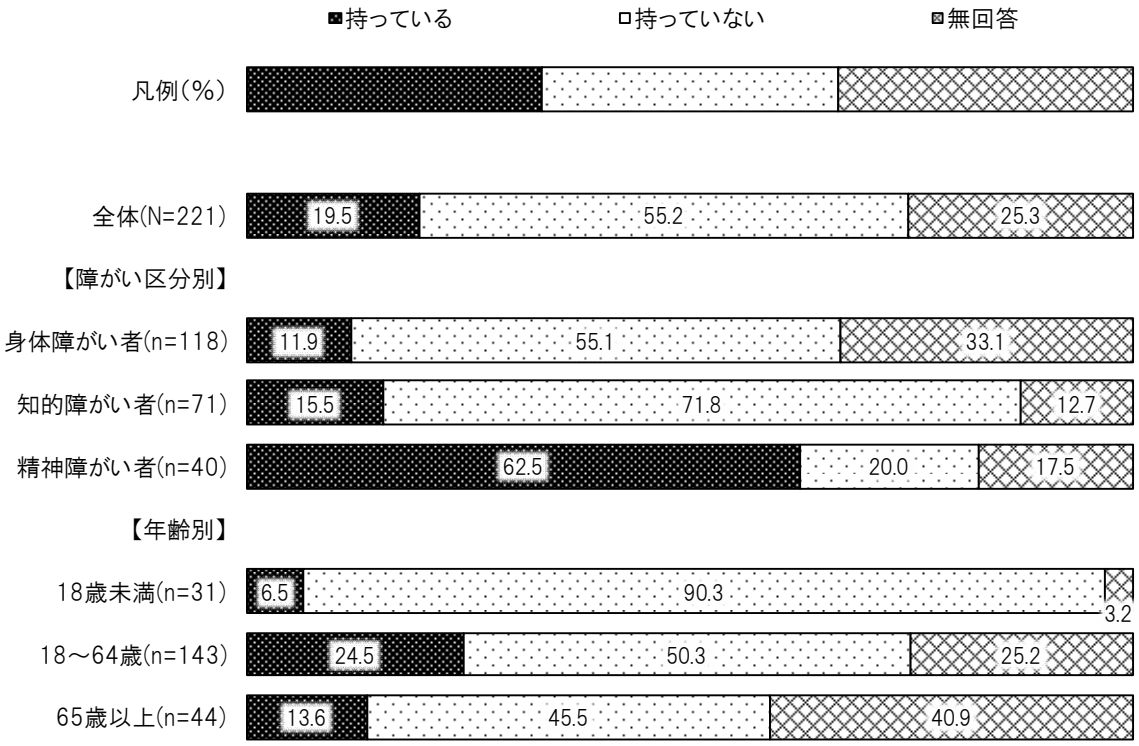


⑤自立支援医療（精神通院）の受給者証

自立支援医療（精神通院）の受給者証については、約２割（19.5%）が「持っている」と回答している。

障がい区分別では、精神障がい者の６割以上が自立支援医療（精神通院）受給者証を持っている。

年齢別では、18～64 歳で「持っている」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

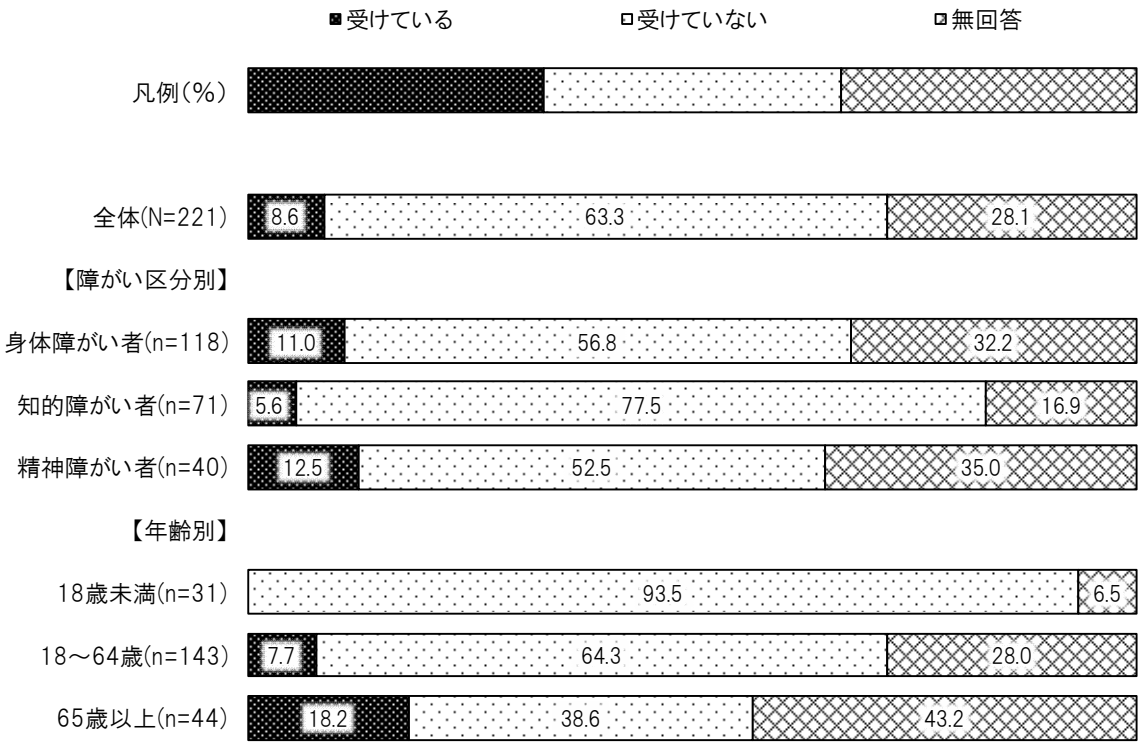


⑥介護保険制度の要支援・要介護認定

介護保険制度の認定状況については、約１割（8.6%）が「受けている」と回答している。

障がい区分別では、身体障がい者や精神障がい者で「受けている」の割合が高くなっている。

年齢別では、65 歳以上で「受けている」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

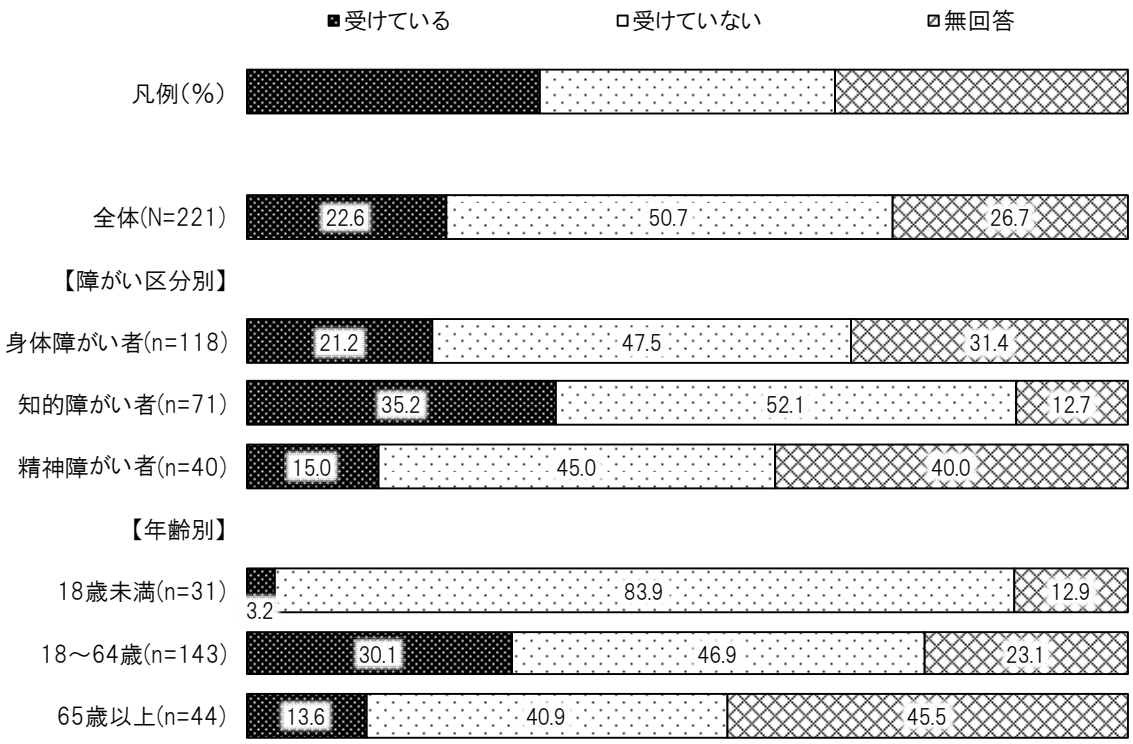


⑦障害支援区分認定

障害支援区分の認定状況については、「受けている」が 22.6%となっている。

障がい区分別では、知的障がい者で「受けている」の割合が他の障がいを大きく上回っている。

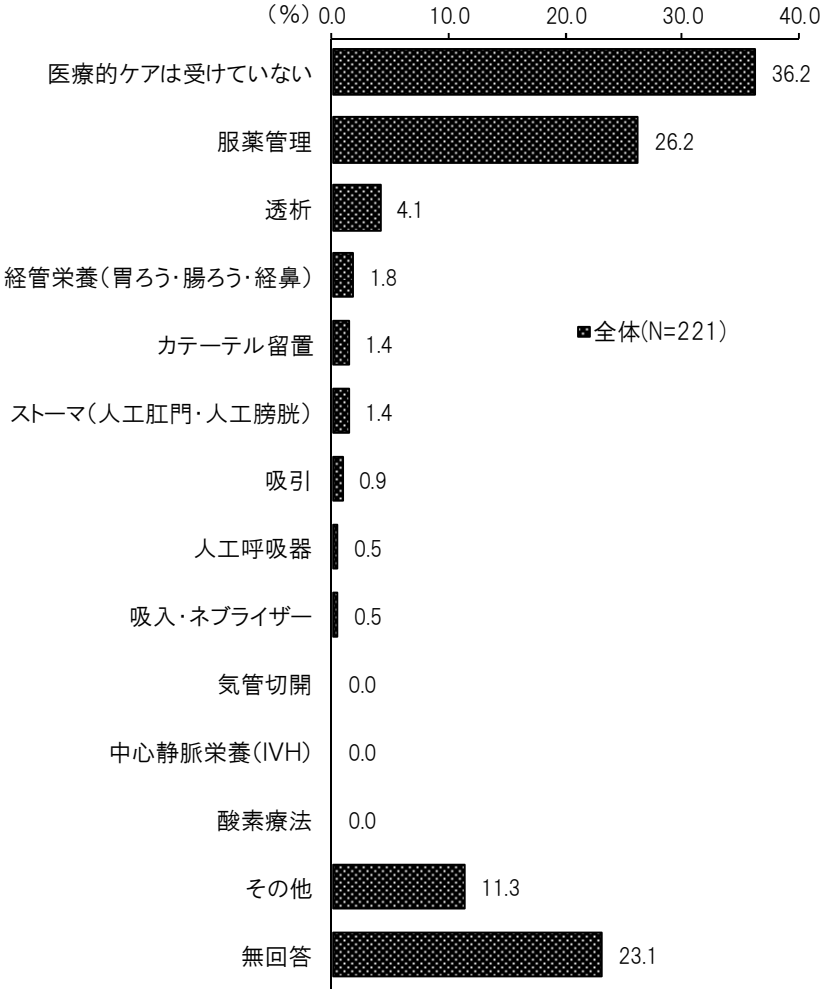
年齢別では、18～64 歳で「受けている」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



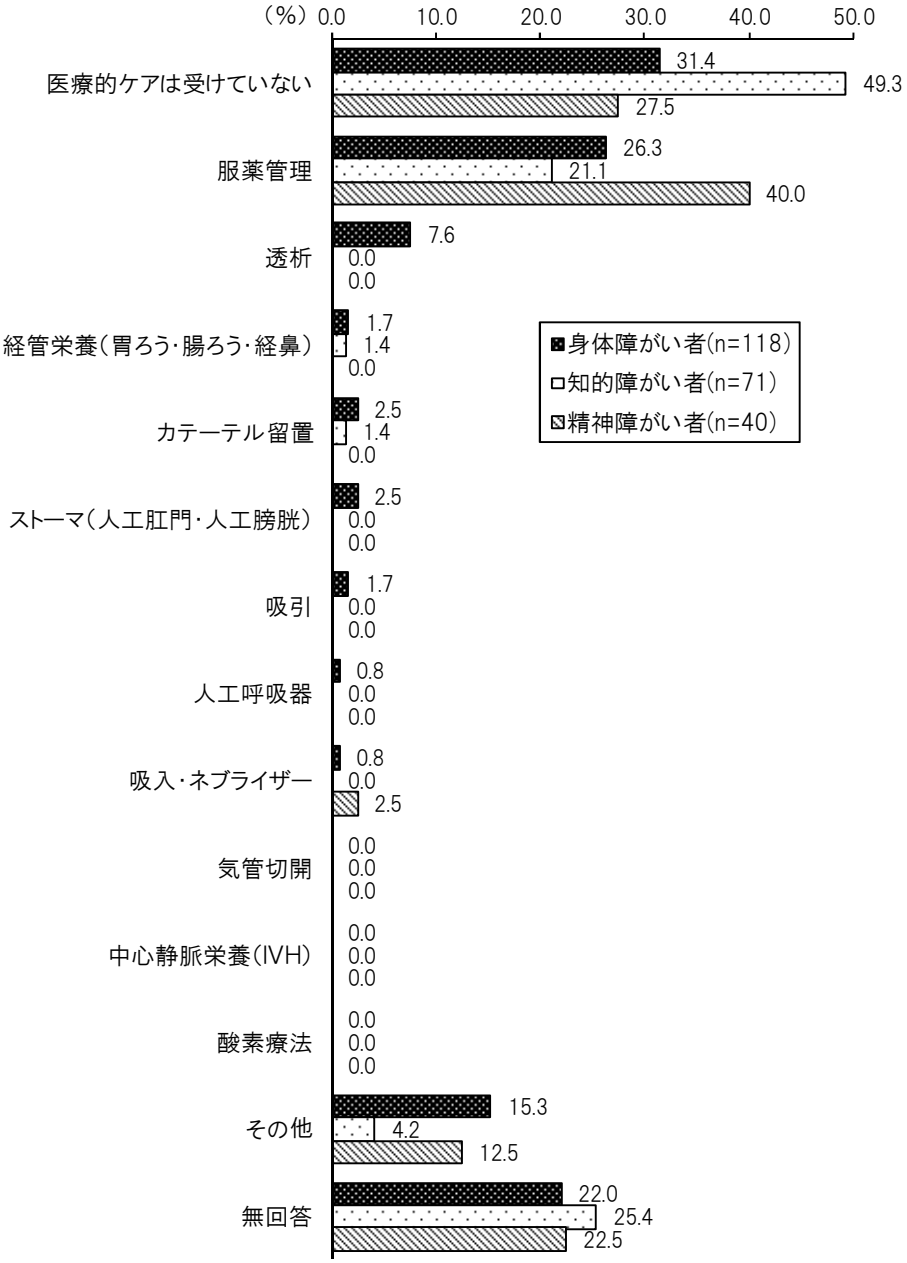
4 医療的ケアの受診状況

問９　あなたが、現在受けている医療的ケアをお答えください。
（あてはまるものすべてに○）

医療的ケアの受診状況については、「医療的ケアは受けていない」の割合が 36.2%と最も高くなっているが、医療的ケアでは「服薬管理」（26.2%）が最も高く、次いで「透析」（4.1%）が続いている。また、「その他」では「ペースメーカー」や「リハビリ」といった回答がみられた。



障がい区分別では、知的障がい者で「医療的ケアは受けていない」、精神障がい者で「服薬管理」の割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。



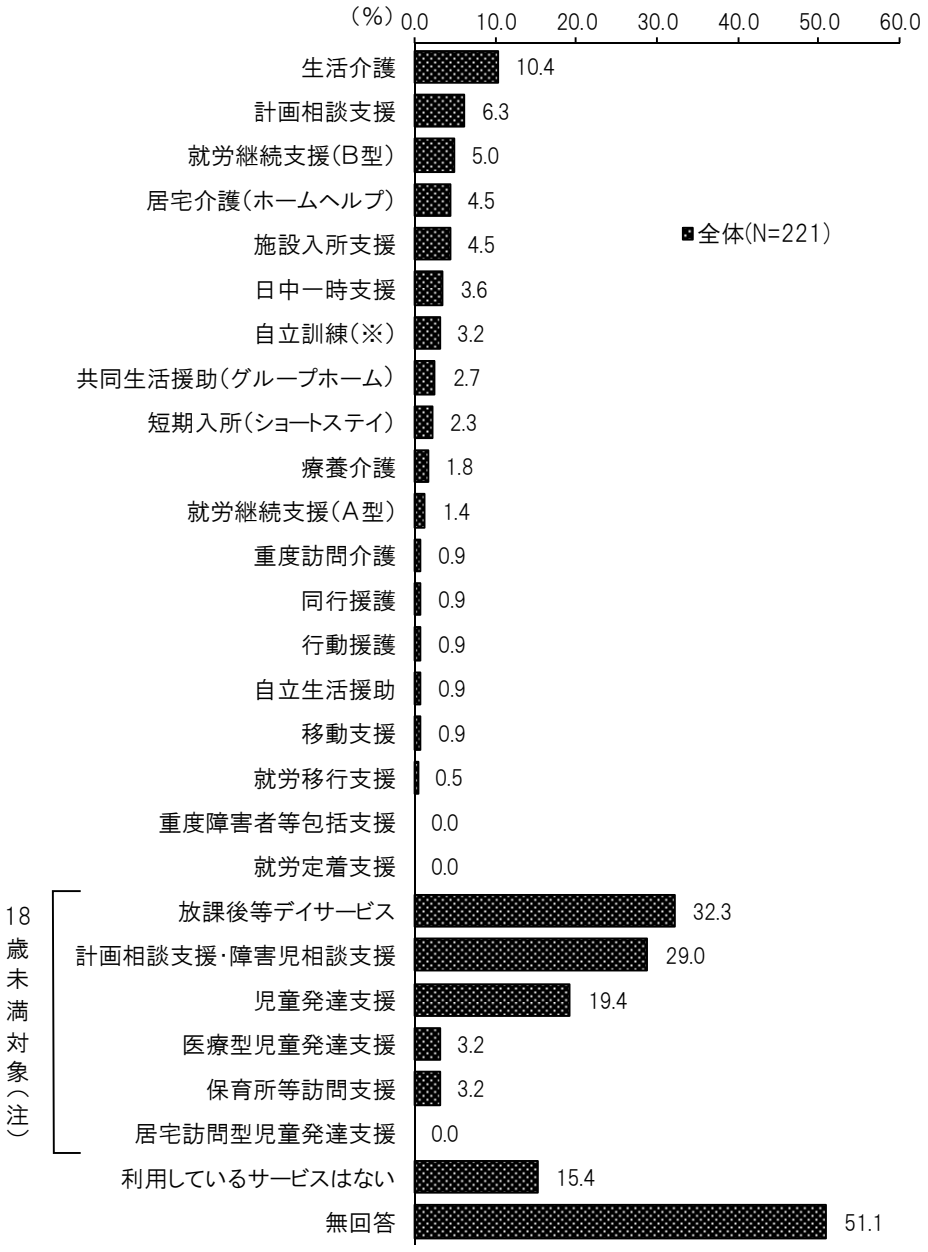
【２】障がい福祉サービスの利用について

１ 障がい福祉サービスの利用状況や利用意向

問 10　あなたが、現在利用している障がい福祉サービスについておたずねします。
①現在、利用しているサービスをすべてお答えください。
②今後新たに利用したいサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

①利用しているサービス

利用しているサービスについては、「生活介護」の割合が 10.4％と最も高く、次いで「計画相談支援」（6.3％）、「就労継続支援（Ｂ型）」（5.0％）、「居宅介護（ホームヘルプ）」「施設入所支援」（各 4.5％）の順となっている。また、18 歳未満対象のサービスでは「放課後等デイサービス」の割合が 32.3％と最も高く、次いで「計画相談支援・障害児相談支援」（29.0％）、「児童発達支援」（19.4％）の順となっている。



※自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）
注：18 歳未満対象は、18 歳未満（n=31）で集計した割合。

障がい区分別では、知的障がい者で「生活介護」の割合が他の障がいを大きく上回っている。

単位（%）	生活介護	計画相談支援	就労継続支援（B型）	居宅介護（ホームヘルプ）	施設入所支援	日中一時支援	自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）	共同生活援助（グループホーム）	短期入所（ショートステイ）	療養介護	就労継続支援（A型）
全体(N=221)	10.4	6.3	5.0	4.5	4.5	3.6	3.2	2.7	2.3	1.8	1.4
【障がい区分別】											
身体障がい者(n=118)	10.2	4.2	3.4	7.6	3.4	3.4	3.4	1.7	0.8	2.5	0.0
知的障がい者(n=71)	21.1	11.3	11.3	1.4	9.9	9.9	1.4	5.6	4.2	0.0	1.4
精神障がい者(n=40)	5.0	7.5	7.5	7.5	0.0	0.0	2.5	0.0	2.5	7.5	5.0

単位（%）	重度訪問介護	同行援護	行動援護	自立生活援助	移動支援	就労移行支援	利用しているサービスはない
全体(N=221)	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.5	15.4
【障がい区分別】							
身体障がい者(n=118)	1.7	0.8	0.8	1.7	1.7	0.0	18.6
知的障がい者(n=71)	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	5.6
精神障がい者(n=40)	0.0	5.0	0.0	2.5	2.5	2.5	17.5

注1：18 歳未満対象のサービスは、件数(n=)が少ないため表記から省略している。
注2：表中の「網掛け」は、各クロス集計（障がい区分別や年齢別など）において最も高い割合を示している。
（例／障がい区分別の場合、各障がいを比べて最も高い層に、年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。）
但し、回答割合が 10%未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。
また「無回答」は表記から省略している。（本報告書においては、以下同様）

②今後新たに利用したいサービス

今後新たに利用したいサービスについては、「自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練)」が 6.9%と最も高く、次いで「移動支援」（5.9%)、「就労移行支援」「就労継続支援（A型)」（各 5.7%)、「自立生活援助」（5.4%）の順となっている。また、18 歳未満対象のサービスでは「児童発達支援」「放課後等デイサービス」（各 12.9%）の割合が最も高く、次いで「医療型児童発達支援」（6.5%）の順となっている。

※自立訓練(機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練)
注:18 歳未満対象は、18 歳未満(n=31)で集計した割合。
「短期入所」「生活介護」「自立訓練」「就労移行支援」「就労継続支援(A型)」「施設入所支援」「計画相談支援」は、64 歳以下(n=174)で集計した割合。

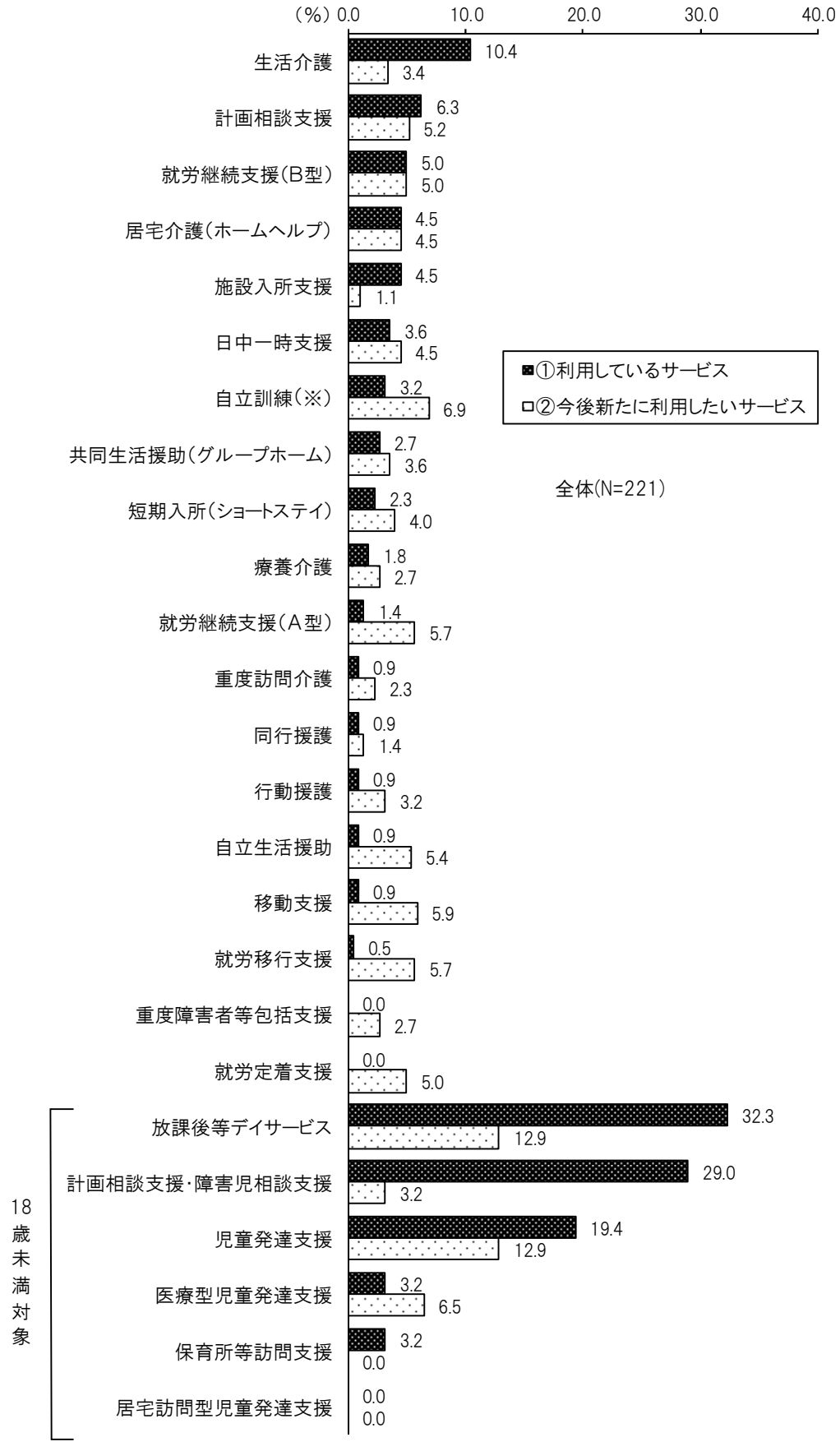
障がい区分別では、精神障がい者で「自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）」「自立生活援助」「計画相談支援」などの割合がそれぞれ他の障がいに比べて高くなっている。

単位（%）	自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）	移動支援	就労移行支援	就労継続支援（A型）	自立生活援助	計画相談支援	就労継続支援（B型）	就労定着支援	居宅介護（ホームヘルプ）	日中一時支援	短期入所（ショートステイ）	共同生活援助（グループホーム）
全体(N=221)	6.9	5.9	5.7	5.7	5.4	5.2	5.0	5.0	4.5	4.5	4.0	3.6
【障がい区分別】												
身体障がい者(n=118)	7.7	5.9	9.0	5.1	2.5	3.8	5.1	4.2	5.1	2.5	1.3	0.8
知的障がい者(n=71)	1.5	5.6	1.5	4.5	4.2	1.5	4.2	2.8	2.8	4.2	6.0	4.2
精神障がい者(n=40)	13.9	5.0	8.3	8.3	15.0	13.9	5.0	10.0	7.5	10.0	8.3	10.0

単位（%）	生活介護	行動援護	重度障害者等包括支援	療養介護	重度訪問介護	同行援護	施設入所支援	利用したいサービスはない
全体(N=221)	3.4	3.2	2.7	2.7	2.3	1.4	1.1	11.3
【障がい区分別】								
身体障がい者(n=118)	2.6	0.8	3.4	2.5	2.5	1.7	0.0	14.4
知的障がい者(n=71)	4.5	4.2	1.4	1.4	0.0	0.0	1.5	7.0
精神障がい者(n=40)	5.6	7.5	5.0	5.0	5.0	2.5	2.8	7.5

注：18 歳未満対象のサービスは、件数(n=)が少ないため表記から省略している。

【再掲／①利用しているサービスと②今後新たに利用したいサービスの比較】

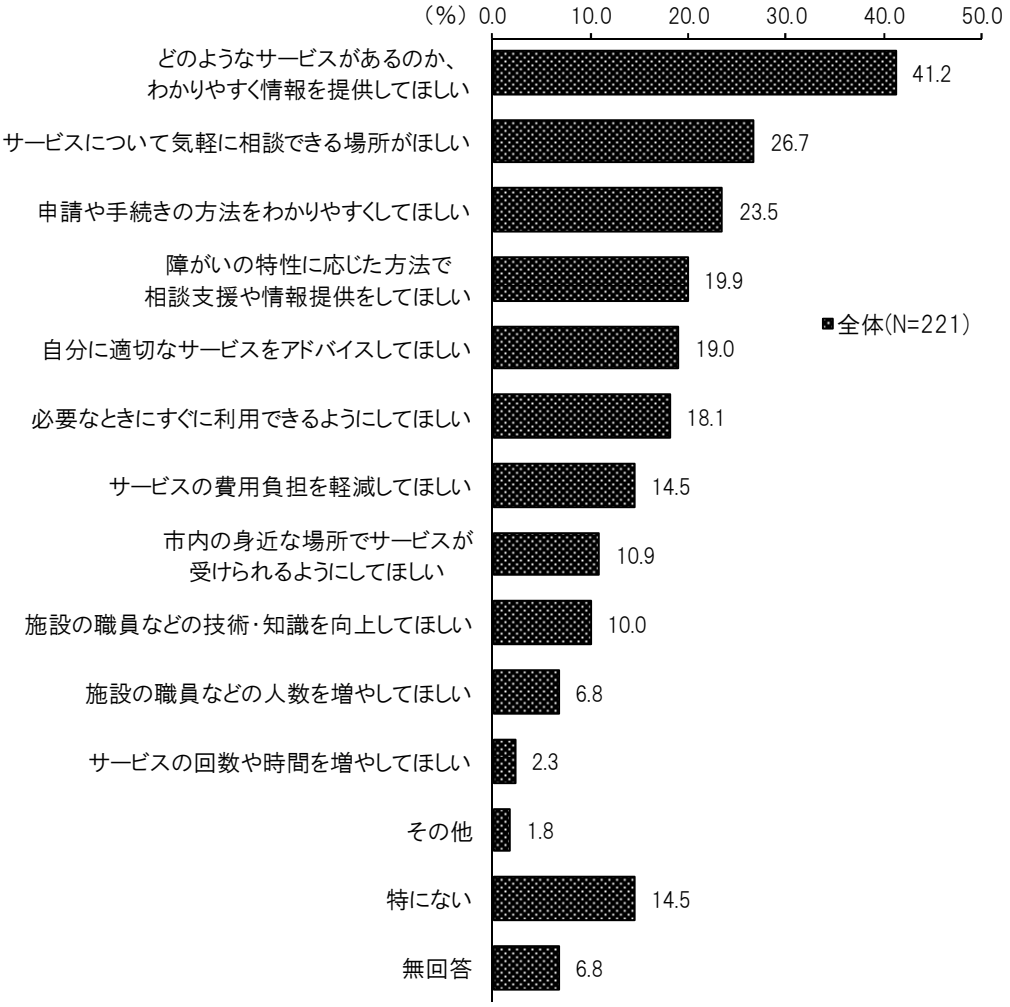


※自立訓練(機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練)

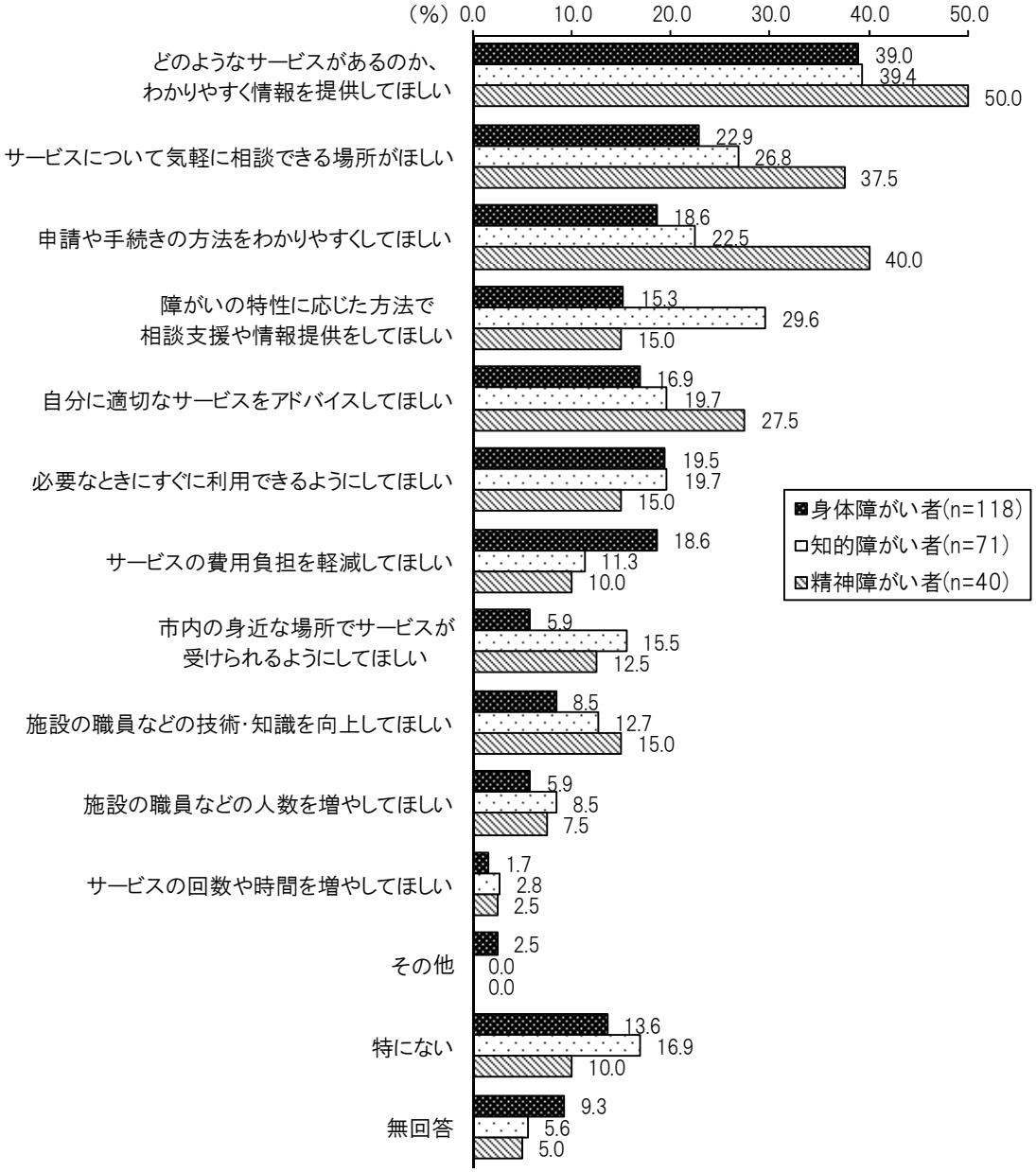
2 サービスを利用しやすくするために必要なこと

問 11　今後、障がい福祉サービスを利用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの３つまでに○）

サービスを利用しやすくするために必要なことについては、「どのようなサービスがあるのか、わかりやすく情報を提供してほしい」の割合が 41.2%と最も高く、次いで「サービスについて気軽に相談できる場所がほしい」（26.7%）、「申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい」（23.5%）、「障がいの特性に応じた方法で相談支援や情報提供をしてほしい」（19.9%）、「自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい」（19.0%）の順となっている。



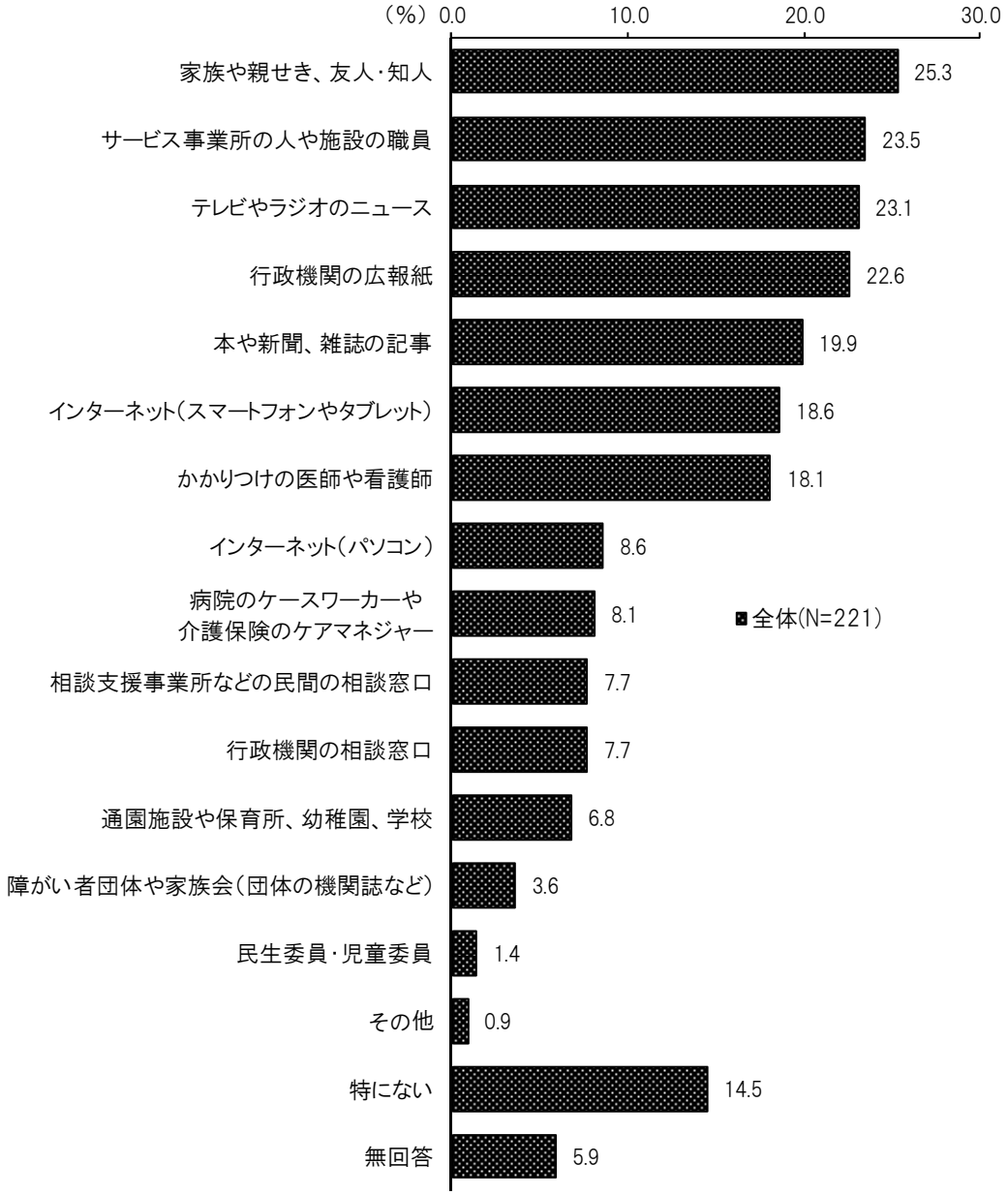
障がい区分別では、身体障がい者で「サービスの費用負担を軽減してほしい」、知的障がい者で「障がいの特性に応じた方法で相談支援や情報提供をしてほしい」、精神障がい者で「どのようなサービスがあるのか、わかりやすく情報を提供してほしい」「サービスについて気軽に相談できる場所がほしい」「申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい」などの割合がそれぞれ他の障がいに比べて高くなっている。



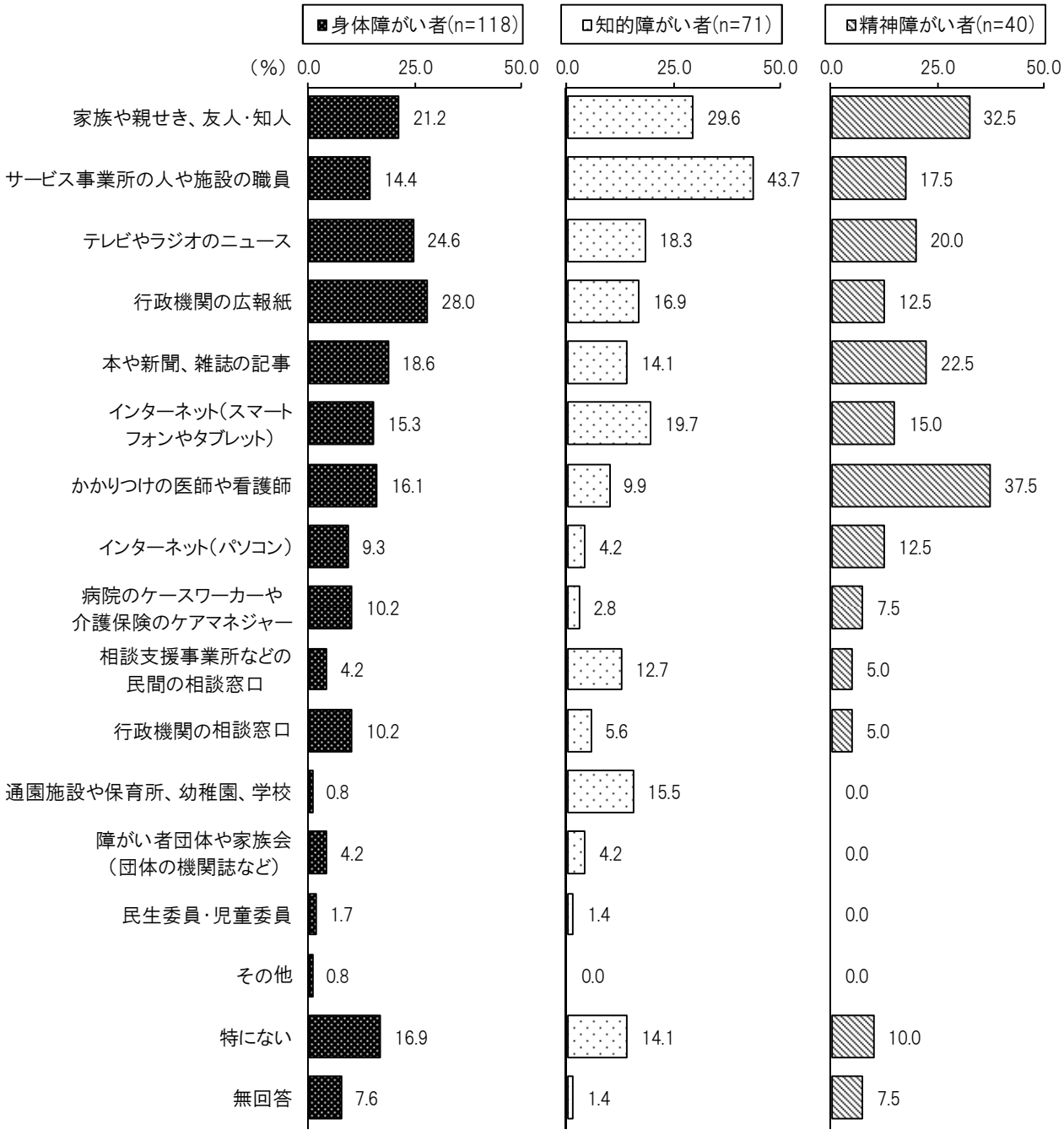
3 情報の入手先

問 12　あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。（あてはまるものすべてに○）

情報の入手先については、「家族や親せき、友人・知人」の割合が 25.3%と最も高く、次いで「サービス事業所の人や施設の職員」（23.5%）、「テレビやラジオのニュース」（23.1%）、「行政機関の広報紙」（22.6%）、「本や新聞、雑誌の記事」（19.9%）の順となっている。



障がい区分別では、身体障がい者で「行政機関の広報紙」、知的障がい者で「サービス事業所の人や施設の職員」、精神障がい者で「かかりつけの医師や看護師」の割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。



年齢別では、18 歳未満で「家族や親せき、友人・知人」「サービス事業所の人や施設の職員」「インターネット（スマートフォンやタブレット）」「通園施設や保育所、幼稚園、学校」、65 歳以上で「テレビやラジオのニュース」などの割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位（%）	家族や親せき、友人・知人	サービス事業所の人や施設の職員	テレビやラジオのニュース	行政機関の広報紙	本や新聞、雑誌の記事	インターネット（スマートフォンやタブレット）	かかりつけの医師や看護師	インターネット（パソコン）	病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	相談支援事業所などの民間の相談窓口	行政機関の相談窓口
全体(N=221)	25.3	23.5	23.1	22.6	19.9	18.6	18.1	8.6	8.1	7.7	7.7
【年齢別】											
18歳未満(n=31)	38.7	35.5	19.4	25.8	22.6	38.7	25.8	9.7	6.5	16.1	6.5
18～64歳(n=143)	25.2	23.1	21.7	21.7	19.6	17.5	16.8	9.8	5.6	7.0	7.0
65歳以上(n=44)	13.6	13.6	29.5	22.7	18.2	6.8	18.2	4.5	15.9	2.3	11.4

単位（%）	通園施設や保育所、幼稚園、学校	障がい者団体や家族会（団体の機関誌など）	民生委員・児童委員	その他	特にない
全体(N=221)	6.8	3.6	1.4	0.9	14.5
【年齢別】					
18歳未満(n=31)	35.5	9.7	3.2	0.0	6.5
18～64歳(n=143)	2.1	2.1	0.0	1.4	17.5
65歳以上(n=44)	0.0	4.5	2.3	0.0	11.4

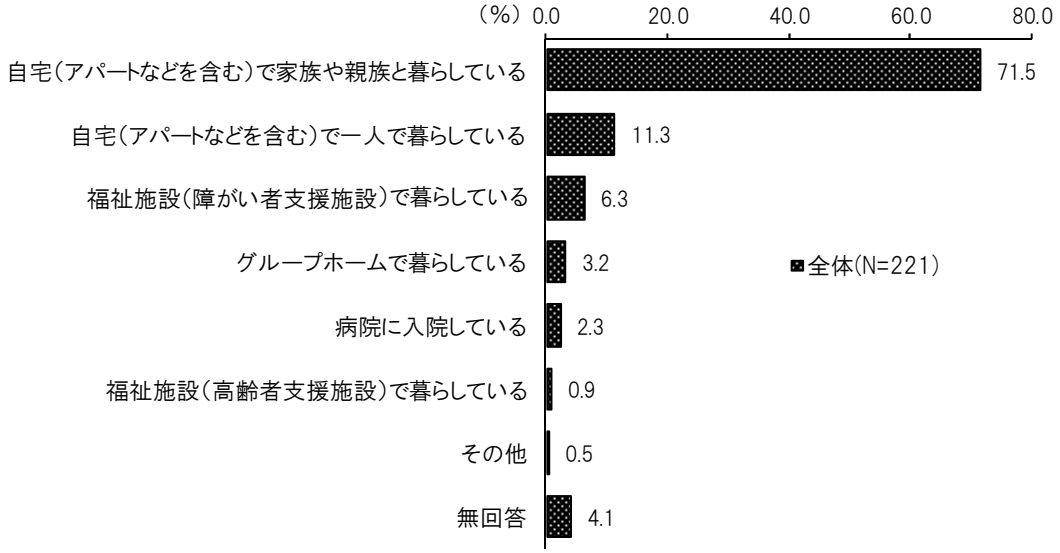
【３】住まいや暮らしについて

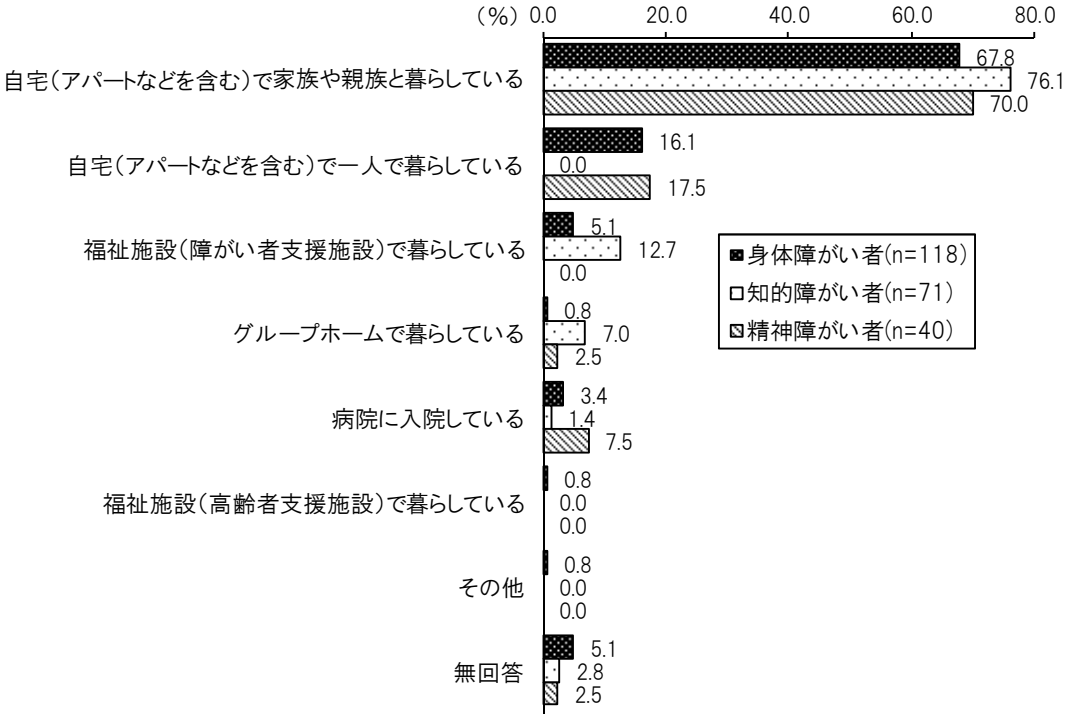
１ 現在の生活の場

問 13　あなたは現在、どのように暮らしていますか。（○は１つだけ）

現在の生活の場については、「自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしている」の割合が 71.5%と最も高く、次いで「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしている」（11.3%）が続いている。

障がい区分別では、知的障がい者で「福祉施設（障がい者支援施設）で暮らしている」、身体障がい者や精神障がい者で「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしている」の割合がそれぞれ他の障がいに比べて高くなっている。



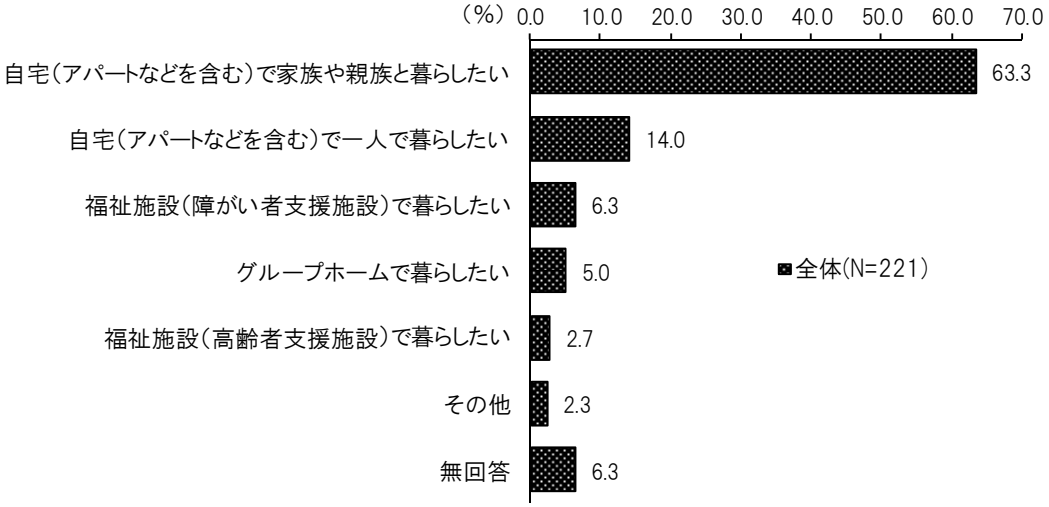


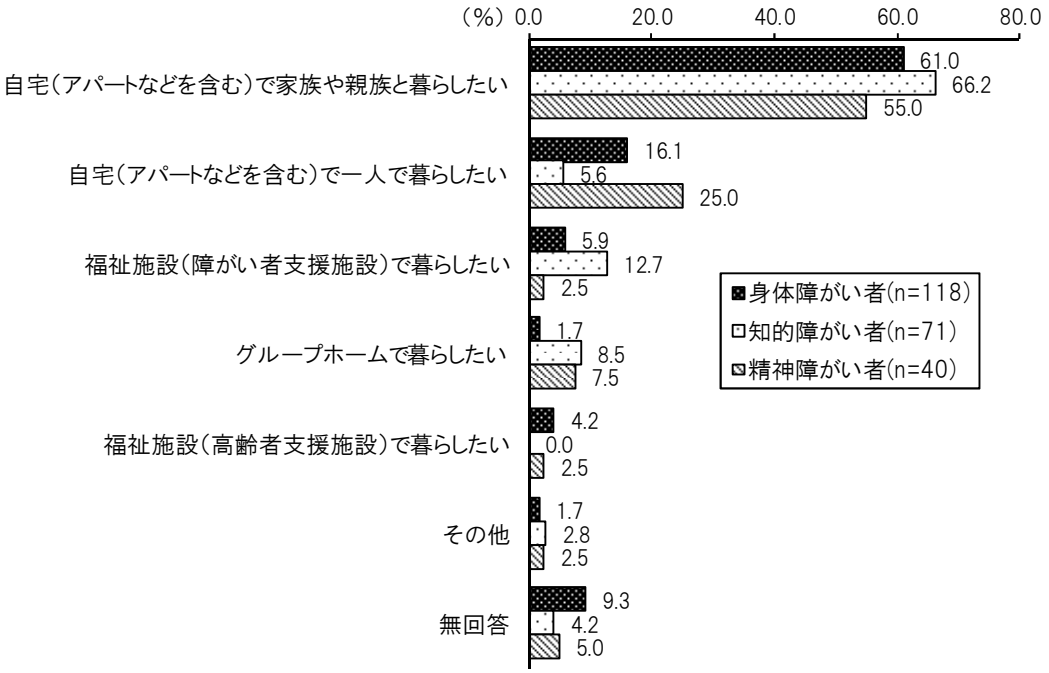
2 今後希望する暮らし方

問 14　あなたは今後、どのように暮らしたいと思いますか。（○は１つだけ）

今後希望する暮らし方については、「自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしたい」の割合が 63.3%と最も高く、次いで「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしたい」（14.0%）が続いている。

障がい区分別では、知的障がい者で「福祉施設（障がい者支援施設）で暮らしたい」、精神障がい者で「自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしたい」の割合がそれぞれ他の障がいに比べて高くなっている。

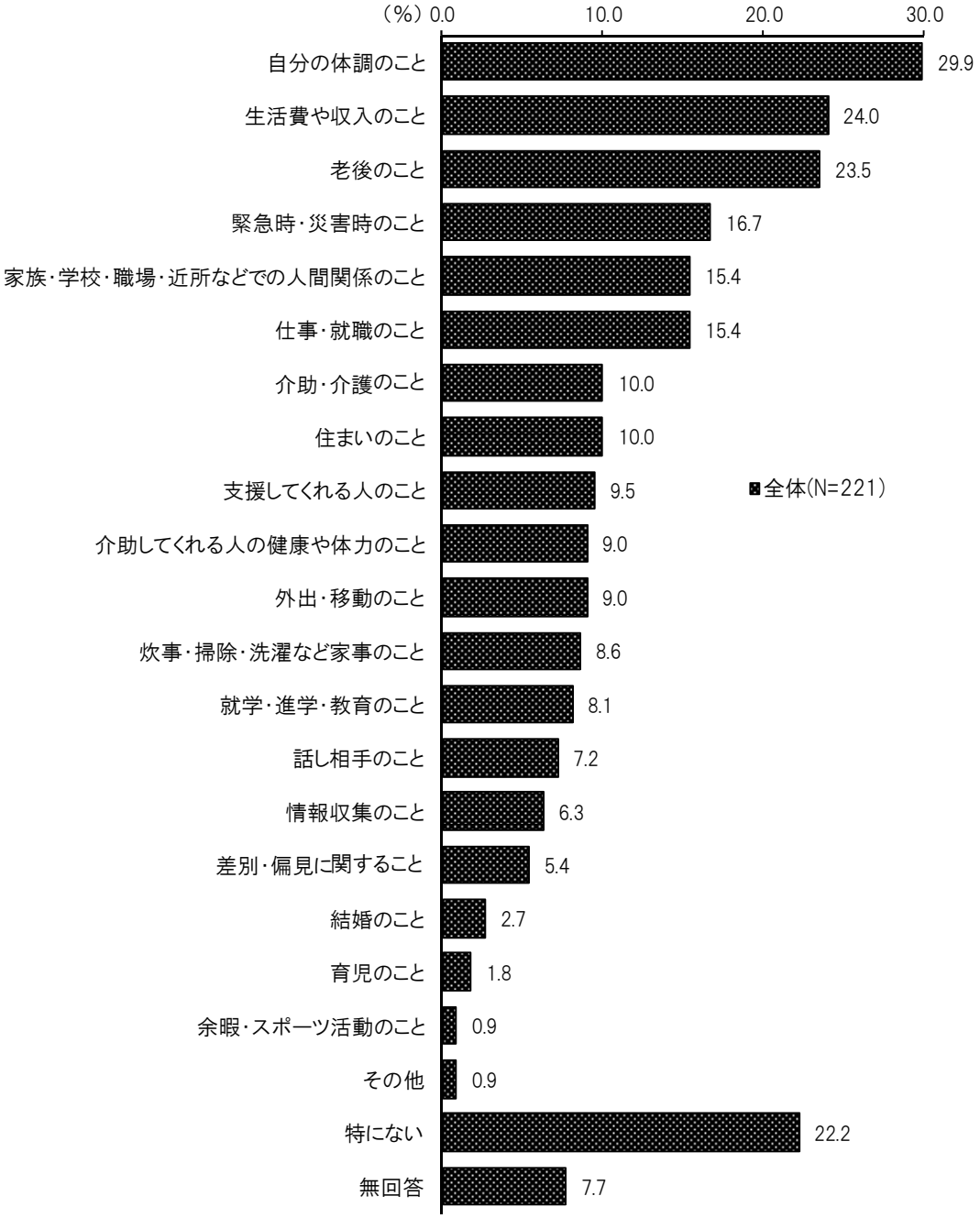




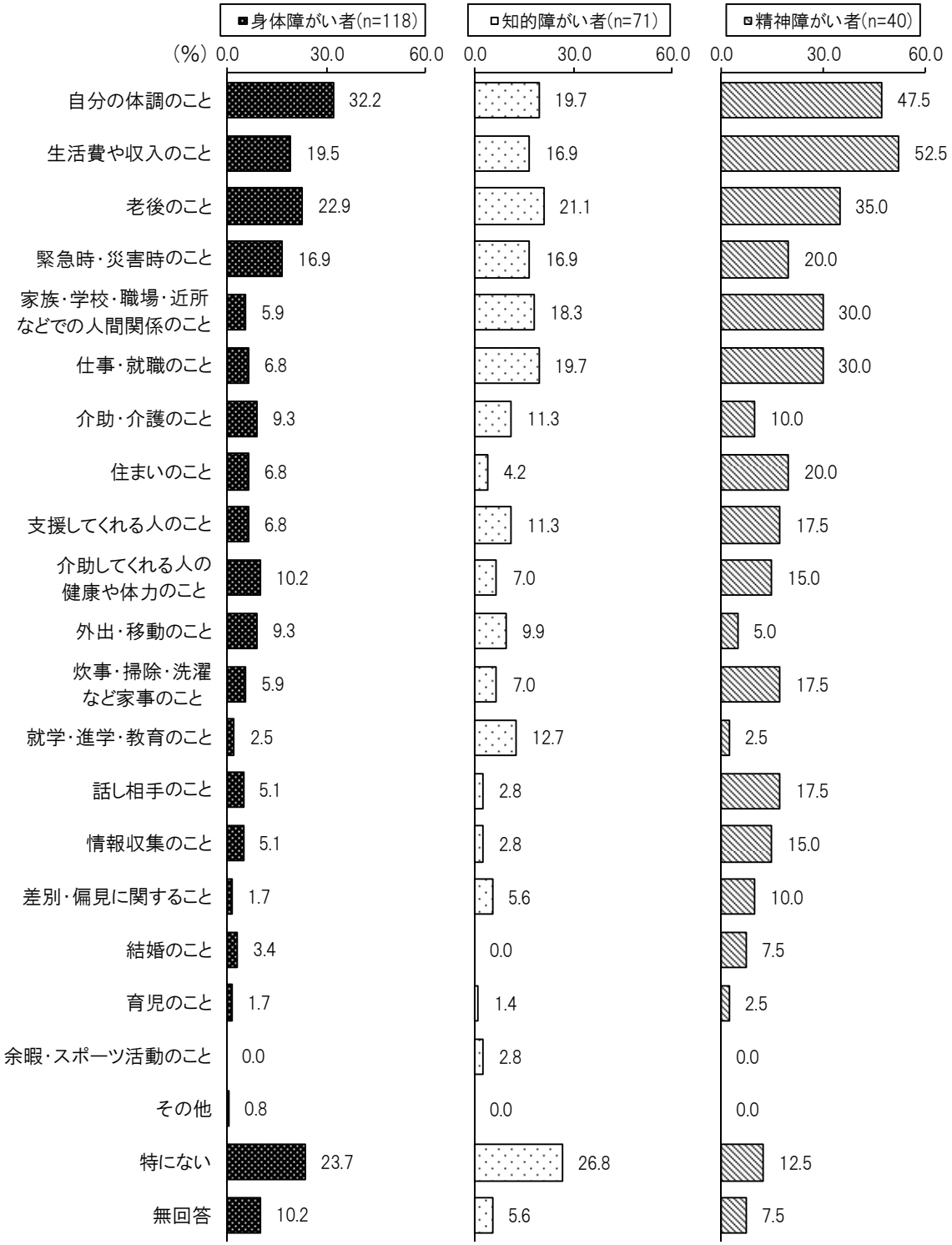
3 相談したいこと

問 15　あなたが相談したいことは、どのようなことですか。
（あてはまるものすべてに〇）

相談したいことについては、「自分の体調のこと」の割合が 29.9%と最も高く、次いで「生活費や収入のこと」（24.0%）、「老後のこと」（23.5%）、「緊急時・災害時のこと」（16.7%）の順となっている。一方、約２割（22.2%）は「特にない」と回答している。



障がい区分別では、知的障がい者で「就学・進学・教育のこと」、精神障がい者で「自分の体調のこと」「生活費や収入のこと」「老後のこと」などの割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。



年齢別では、18 歳未満で「家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと」「仕事・就職のこと」「就学・進学・教育のこと」、18～64 歳で「生活費や収入のこと」「老後のこと」などの割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位（%）	自分の体調のこと	生活費や収入のこと	老後のこと	緊急時・災害時のこと	家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと	仕事・就職のこと	介助・介護のこと	住まいのこと	支援してくれる人のこと	介助してくれる人の健康や体力のこと	外出・移動のこと	炊事・掃除・洗濯など家事のこと
全体(N=221)	29.9	24.0	23.5	16.7	15.4	15.4	10.0	10.0	9.5	9.0	9.0	8.6
【年齢別】												
18歳未満(n=31)	12.9	19.4	12.9	9.7	38.7	35.5	0.0	9.7	12.9	0.0	16.1	9.7
18～64歳(n=143)	34.3	26.6	27.3	18.9	13.3	14.7	10.5	11.2	11.9	11.9	8.4	7.7
65歳以上(n=44)	29.5	18.2	18.2	13.6	2.3	2.3	13.6	6.8	0.0	6.8	6.8	11.4

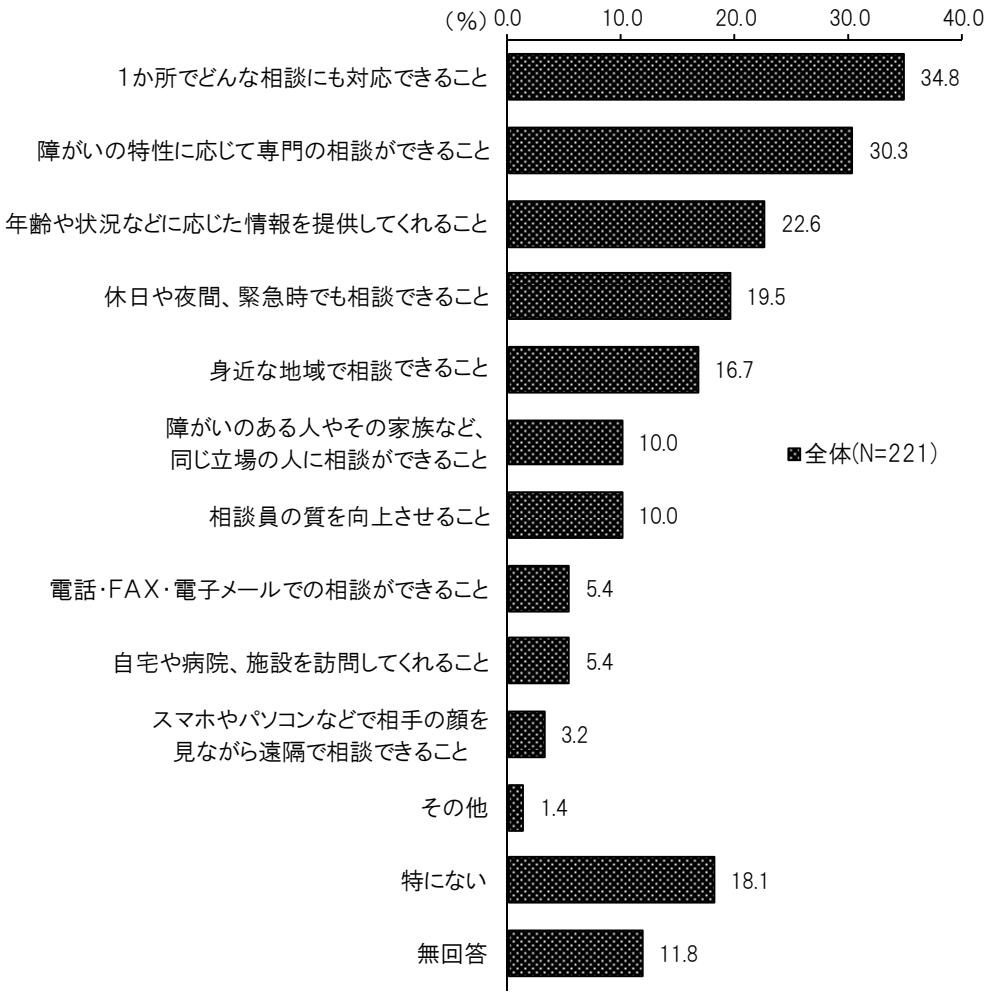
単位（%）	就学・進学・教育のこと	話し相手のこと	情報収集のこと	差別・偏見に関すること	結婚のこと	育児のこと	余暇・スポーツ活動のこと	特にない
全体(N=221)	8.1	7.2	6.3	5.4	2.7	1.8	0.9	22.2
【年齢別】								
18歳未満(n=31)	51.6	6.5	9.7	6.5	0.0	9.7	0.0	16.1
18～64歳(n=143)	0.7	7.7	7.0	5.6	4.2	0.7	0.7	23.8
65歳以上(n=44)	0.0	4.5	2.3	4.5	0.0	0.0	2.3	22.7

注:「その他」は表記から省略している。

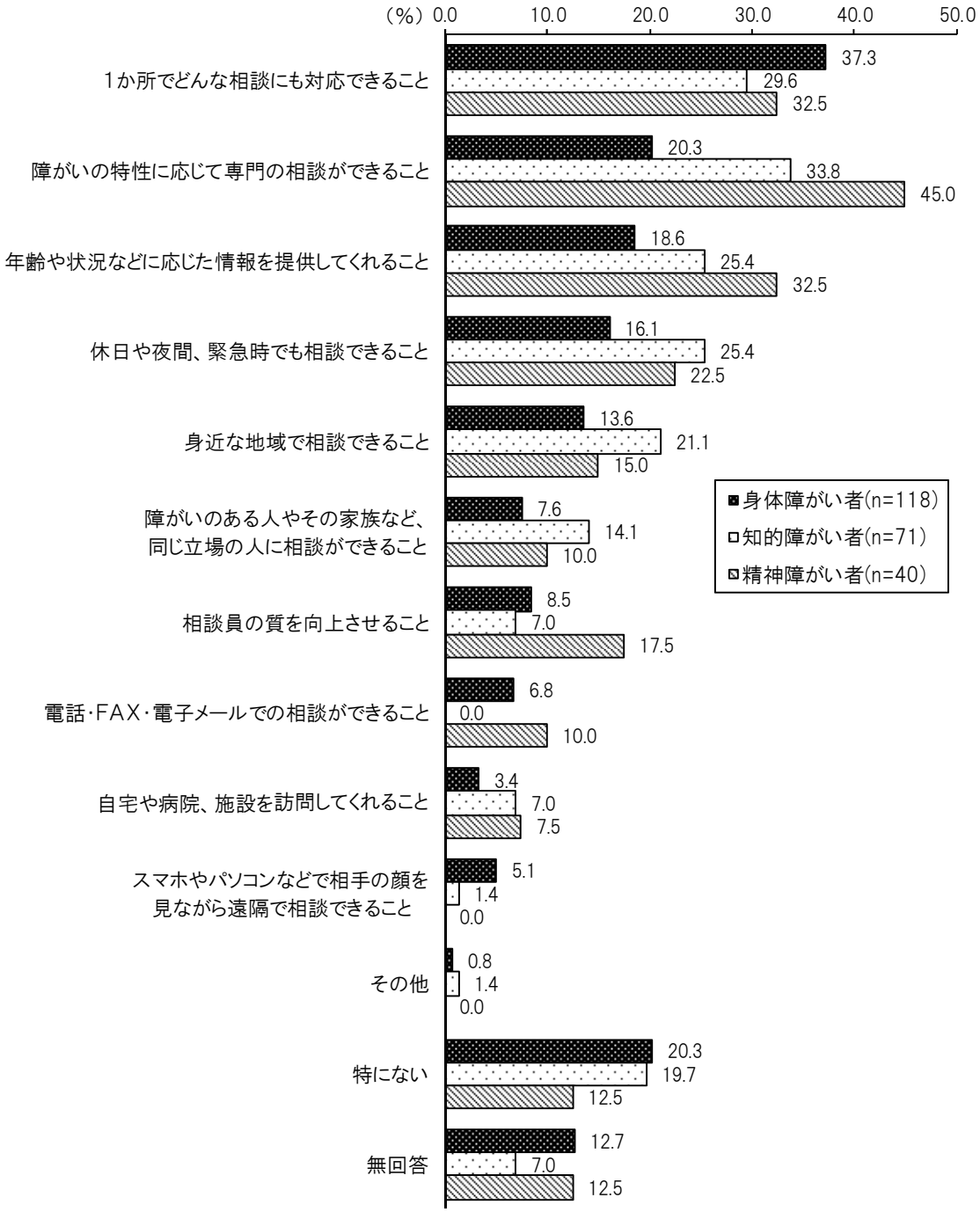
4 相談先に望むこと

問 16　あなたが相談先に望むことは何ですか。（主なもの３つまでに○）

相談先に望むことについては、「１か所でどんな相談にも対応できること」の割合が34.8％と最も高く、次いで「障がいの特性に応じて専門の相談ができること」（30.3％）、「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」（22.6％）、「休日や夜間、緊急時でも相談できること」（19.5％）、「身近な地域で相談できること」（16.7％）の順となっている。



障がい区分別では、知的障がい者で「身近な地域で相談できること」、精神障がい者で「障がいの特性に応じて専門の相談ができること」「年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること」「相談員の質を向上させること」などの割合がそれぞれ他の障がいに比べて高くなっている。



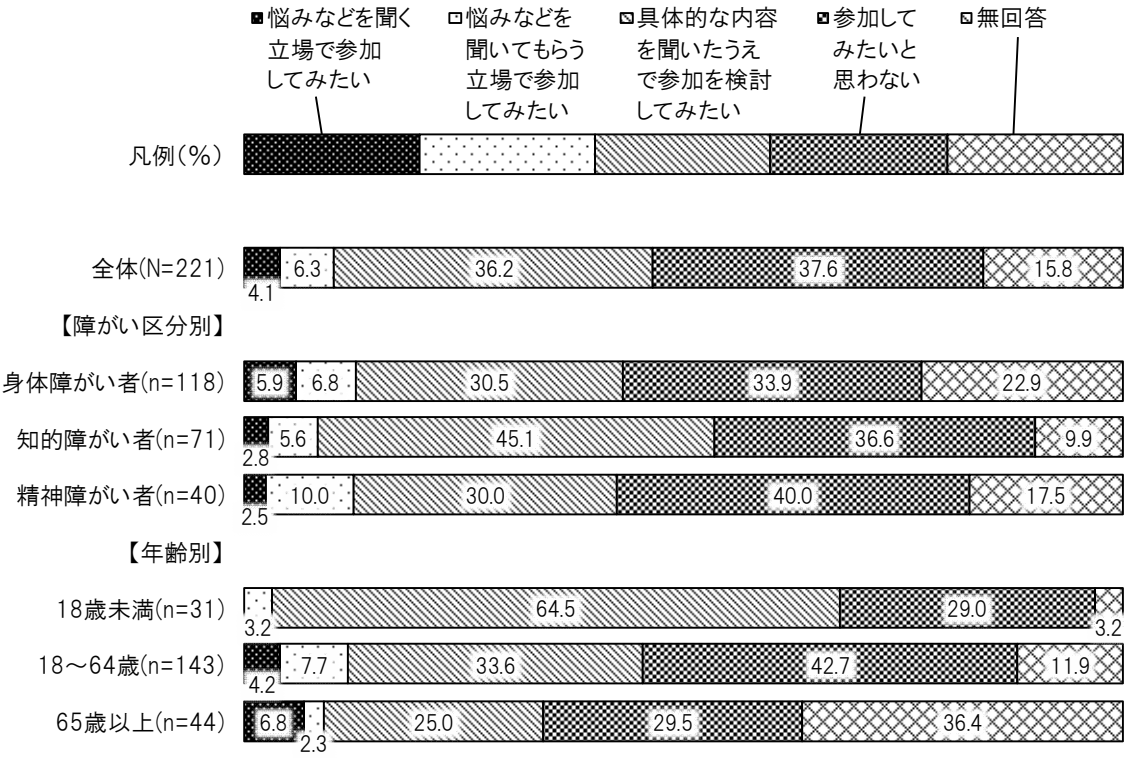
5 他の障がい者の悩みなどを聞く取組への参加意向

問 17　障がいのある人が自らの体験に基づいて、同じ仲間である他の障がいのある人の悩みなどを聞くという取組がありますが、あなたは、この取組に参加してみたいと思いますか。（○は１つだけ）

他の障がい者の悩みなどを聞く取組への参加意向については、「悩みなどを聞く立場で参加してみたい」の割合が 4.1%、「悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい」が 6.3%、合計で 10.4%が『参加してみたい』と回答している。また、「具体的な内容を聞いたうえで参加を検討してみたい」が 36.2%、「参加してみたいと思わない」が 37.6%となっている。

障がい区分別では、知的障がい者で「具体的な内容を聞いたうえで参加を検討してみたい」の割合が他の障がいを大きく上回っている。

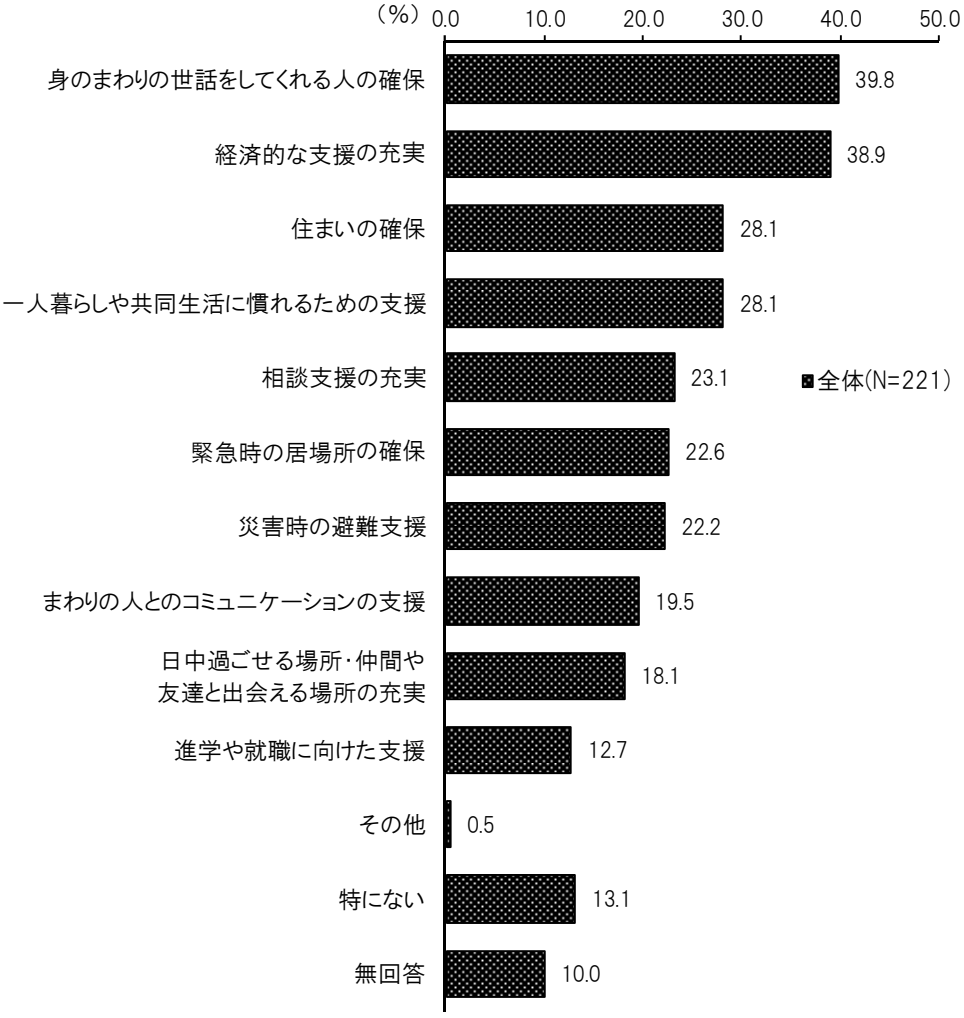
年齢別では、18 歳未満で「具体的な内容を聞いたうえで参加を検討してみたい」、18～64 歳で「参加してみたいと思わない」の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。



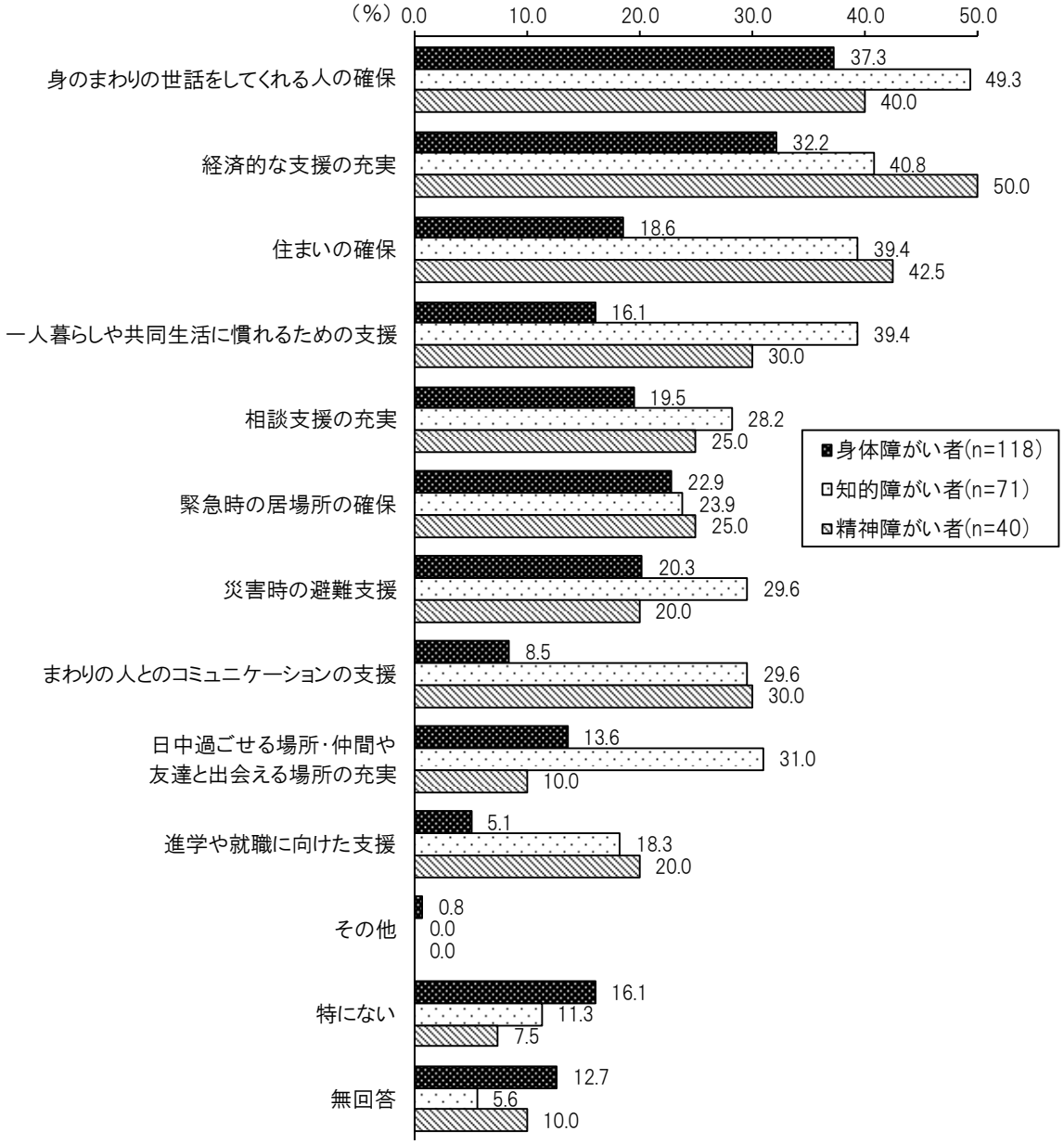
６ 介助者がいなくなった場合に必要な支援

問 18　これから先、あなたを介助してくれる人の高齢化や介助してくれる人がいなくなったときのために、どのような支援が必要になってくると思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

介助者がいなくなった場合に必要な支援については、「身のまわりの世話をしてくれる人の確保」の割合が 39.8％と最も高く、ほぼ並んで「経済的な支援の充実」（38.9％）が続き、以下「住まいの確保」「一人暮らしや共同生活に慣れるための支援」（各 28.1％）、「相談支援の充実」（23.1％）の順となっている。



障がい区分別では、知的障がい者で「身のまわりの世話をしてくれる人の確保」「一人暮らしや共同生活に慣れるための支援」「災害時の避難支援」「日中過ごせる場所・仲間や友達と出会える場所の充実」、精神障がい者で「経済的な支援の充実」の割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。



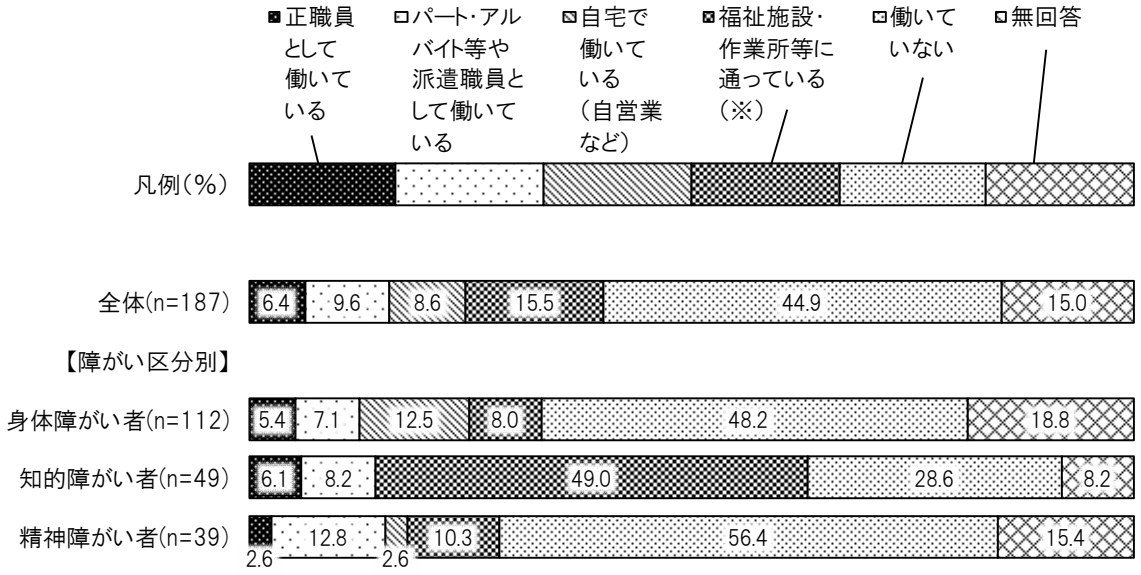
【４】就労や日中の活動について

１ 就労状況（18 歳以上対象）

問 19　あなたは、現在、収入を得て働いていますか。（○は１つだけ）

就労状況については、４割以上（44.9%）が「働いていない」と回答しており、「正職員として働いている」が 6.4%、「パート・アルバイト等や派遣職員として働いている」が 9.6%、「福祉施設・作業所等に通って給料（工賃）をもらっている」が 15.5%となっている。

障がい区分別では、身体障がい者で「自宅で働いている（自営業など)」、知的障がい者で「福祉施設・作業所等に通って給料（工賃）をもらっている」、身体障がい者や精神障がい者で「働いていない」の割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。

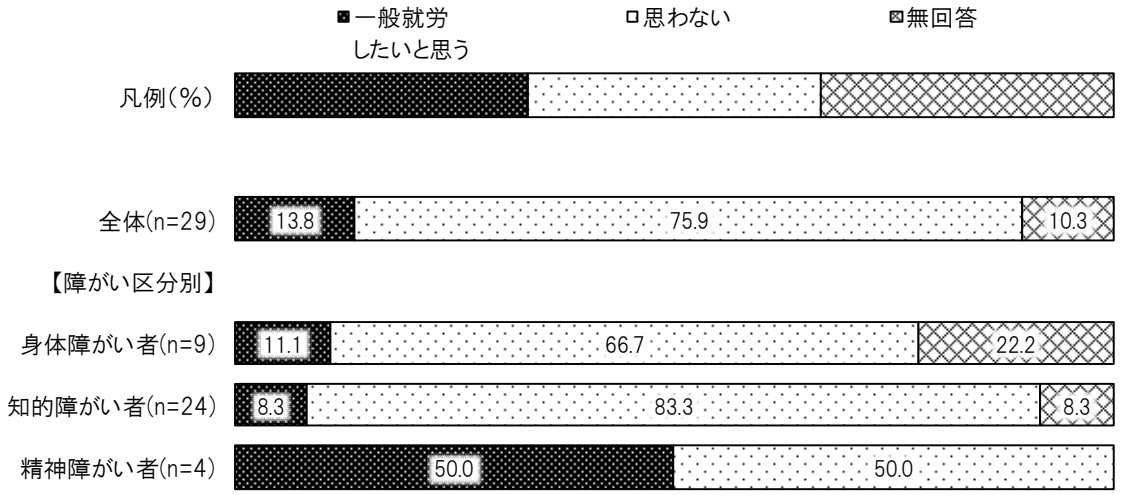


※福祉施設･作業所等に通って給料(工賃)をもらっている

2 一般就労への希望

【問 19 で「４」を選んだ方のみにおたずねします。】
問 20　あなたは今後、一般就労（一般企業などで働く）をしたいと思いますか。
（○は１つだけ）

一般就労への希望については、「一般就労したいと思う」が 13.8%、「思わない」が 75.9%となっている。

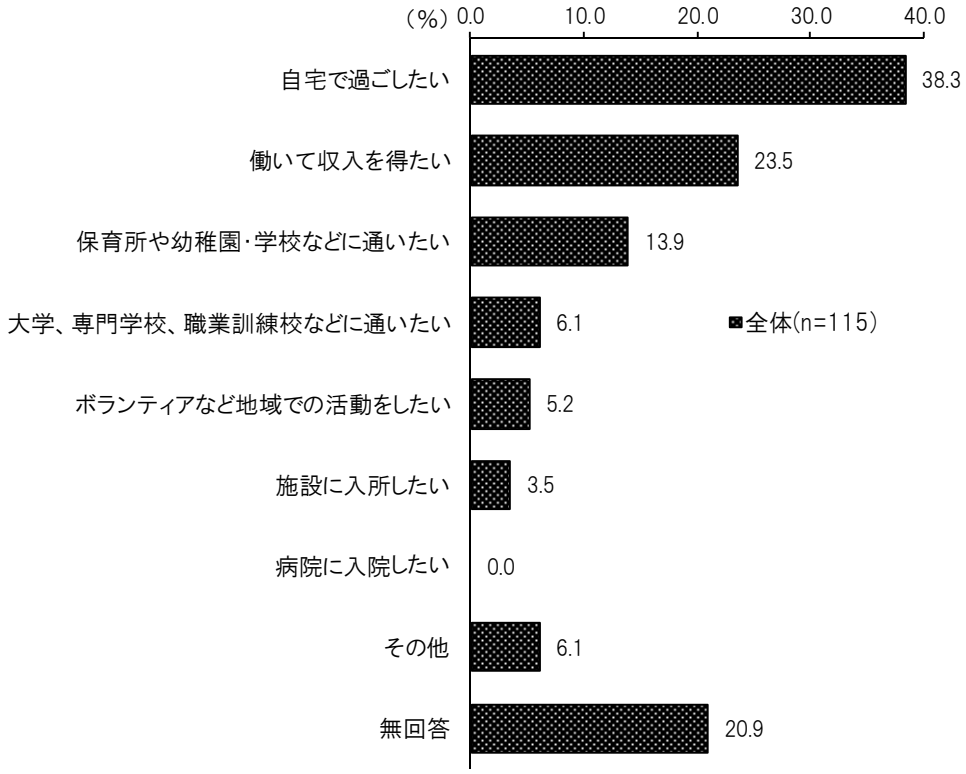


注：身体障がい者や精神障がい者については、件数(n=)が少ないため参考値として参照。

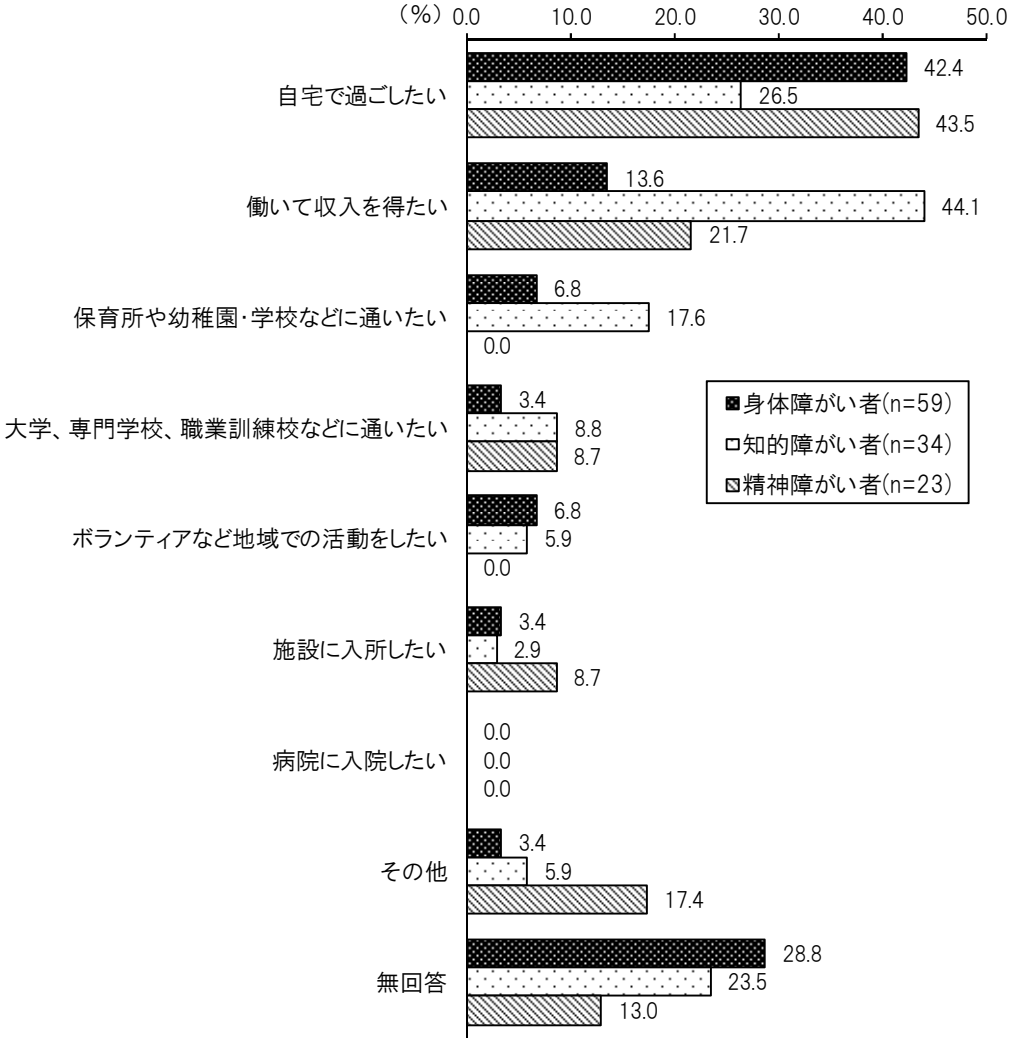
3 希望する日中の過ごし方

【問 19 で「５」を選んだ方及び 18 歳未満の方のみにおたずねします。】
問 21　あなたは、今後、日中をどのように過ごしたいと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

希望する日中の過ごし方については、「自宅で過ごしたい」の割合が 38.3%と最も高く、次いで「働いて収入を得たい」(23.5%)、「保育所や幼稚園・学校などに通いたい」(13.9%)の順となっている。



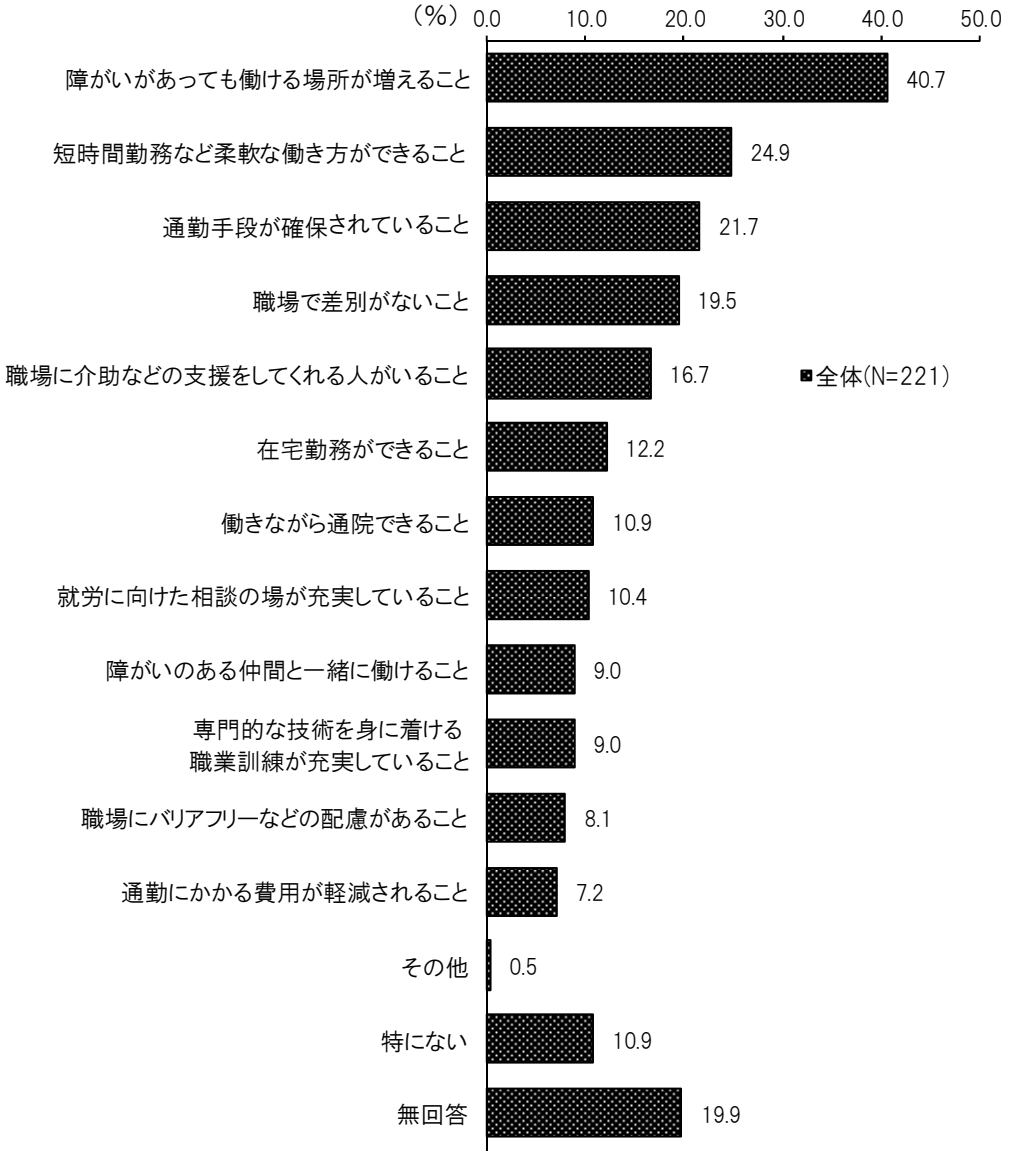
障がい区分別では、知的障がい者で「働いて収入を得たい」「保育所や幼稚園・学校などに通いたい」、身体障がい者や精神障がい者で「自宅で過ごしたい」の割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。



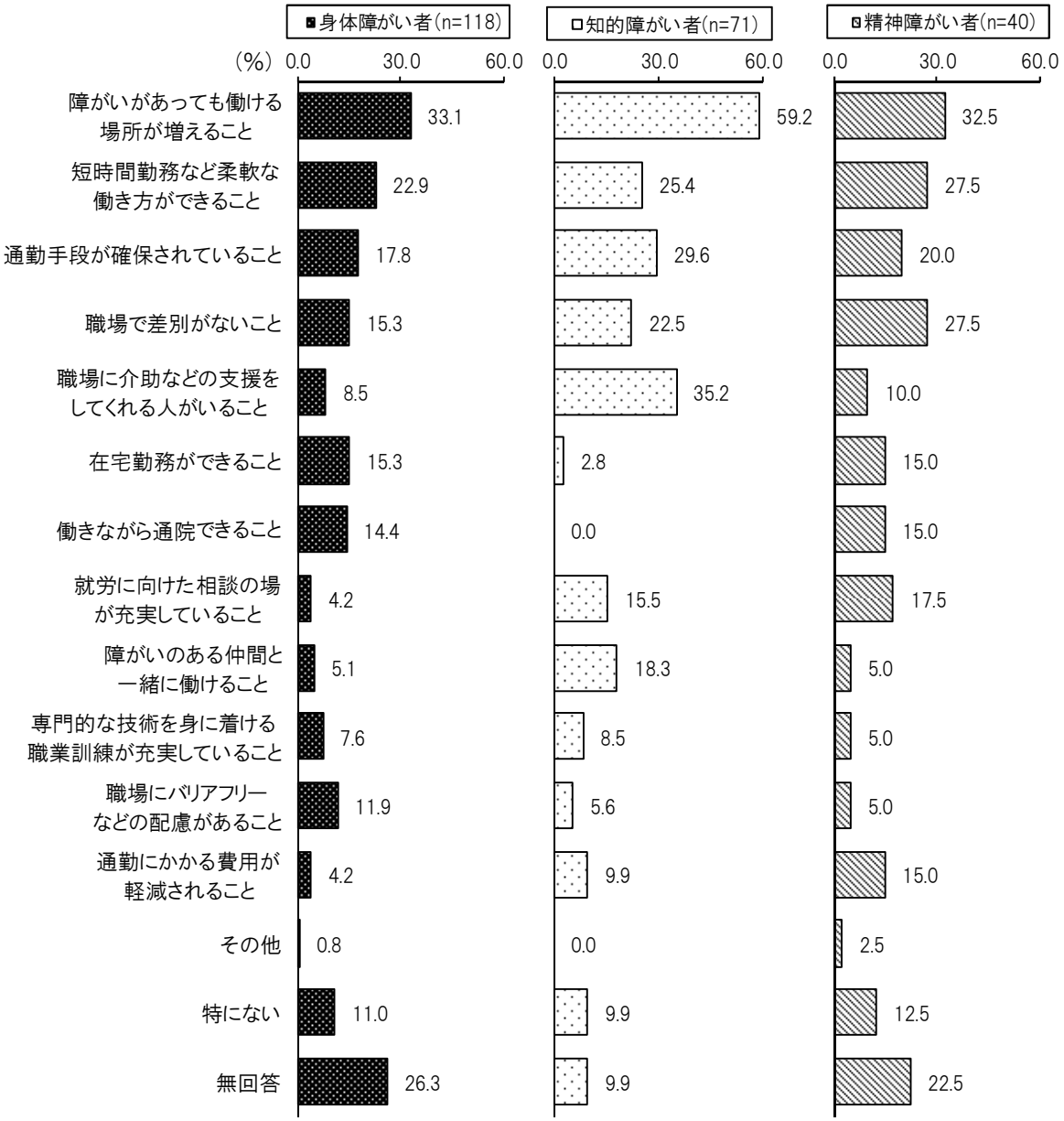
4 働きやすくなるために必要なこと

問 22　障がいがあっても働きやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの３つまでに○）

働きやすくなるために必要なことについては、「障がいがあっても働ける場所が増えること」の割合が 40.7%と最も高く、次いで「短時間勤務など柔軟な働き方ができること」(24.9%)、「通勤手段が確保されていること」(21.7%)、「職場で差別がないこと」(19.5%)、「職場に介助などの支援をしてくれる人がいること」(16.7%) の順となっている。



障がい区分別では、知的障がい者で「障がいがあっても働ける場所が増えること」「通勤手段が確保されていること」「職場に介助などの支援をしてくれる人がいること」などの割合が他の障がいを大きく上回っている。



【５】人とのコミュニケーションや社会参加について

１ コミュニケーションをとるときに困ることの有無

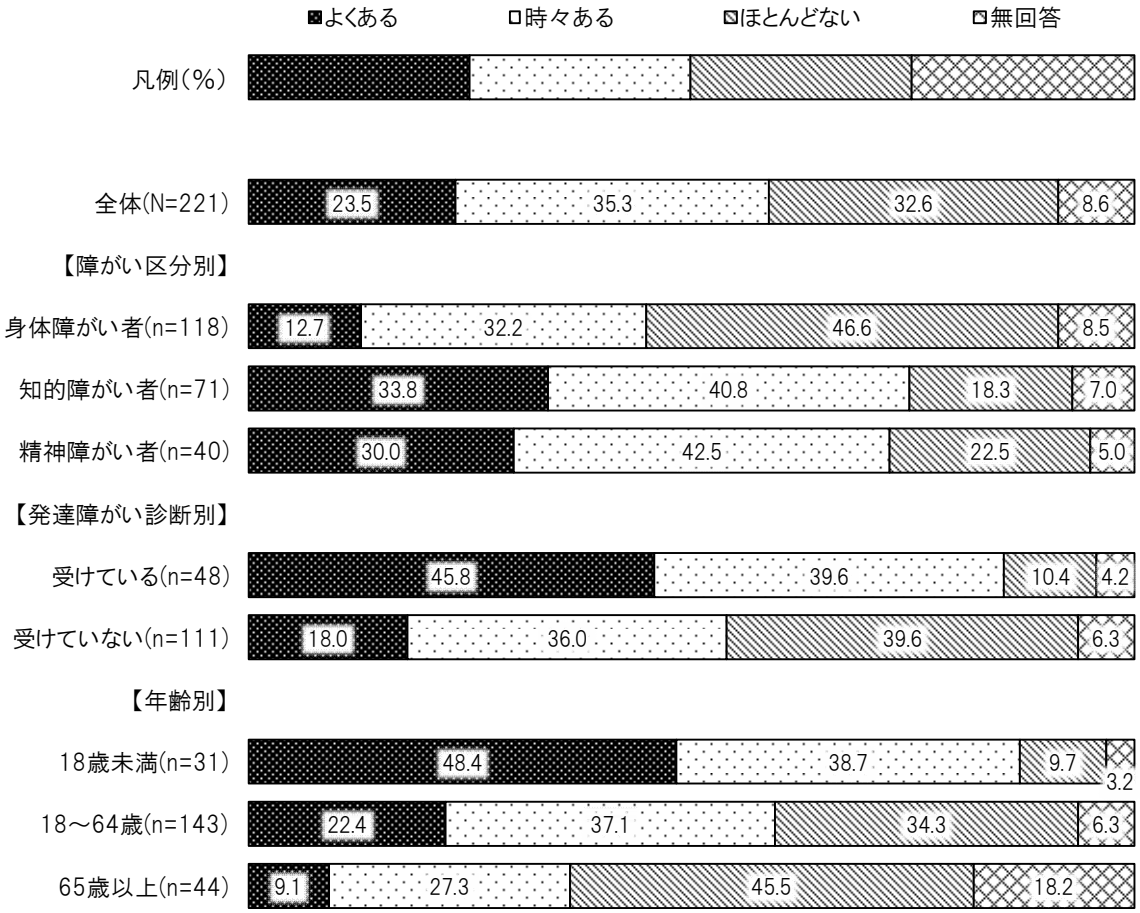
問 23　あなたは、人とコミュニケーションをとるときに困ることがありますか。
（○は１つだけ）

コミュニケーションをとるときに困ることについては、「よくある」の割合が 23.5%、「時々ある」が 35.3%、合計で約６割（58.8%）が『ある』と回答している。一方、「ほとんどない」は 32.6%となっている。

障がい区分別では、知的障がい者や精神障がい者の約３割が「よくある」と回答している。

発達障がいの診断を受けている人の４割以上が「よくある」と回答している。

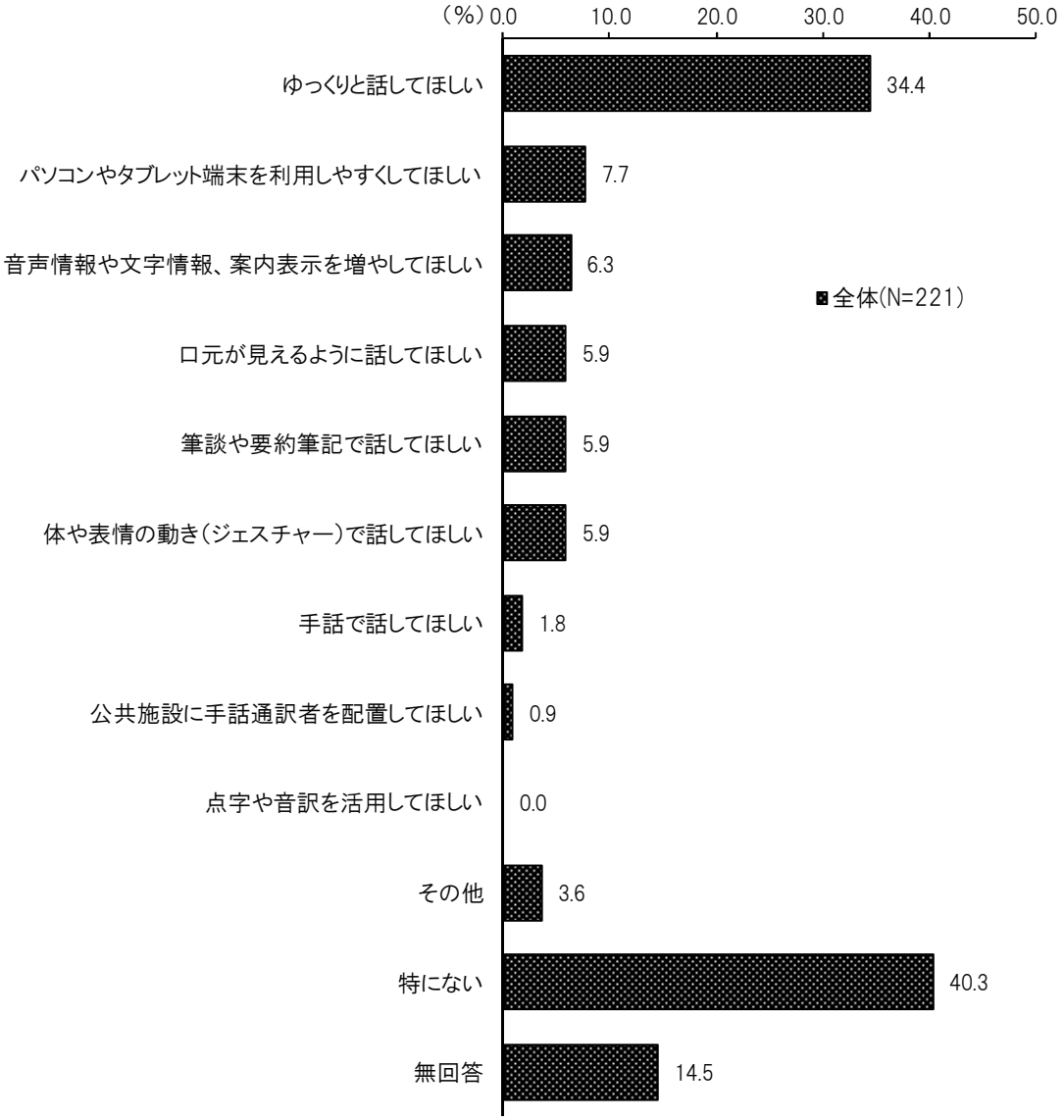
年齢別では、18 歳未満で「よくある」の割合が約半数を占めている。



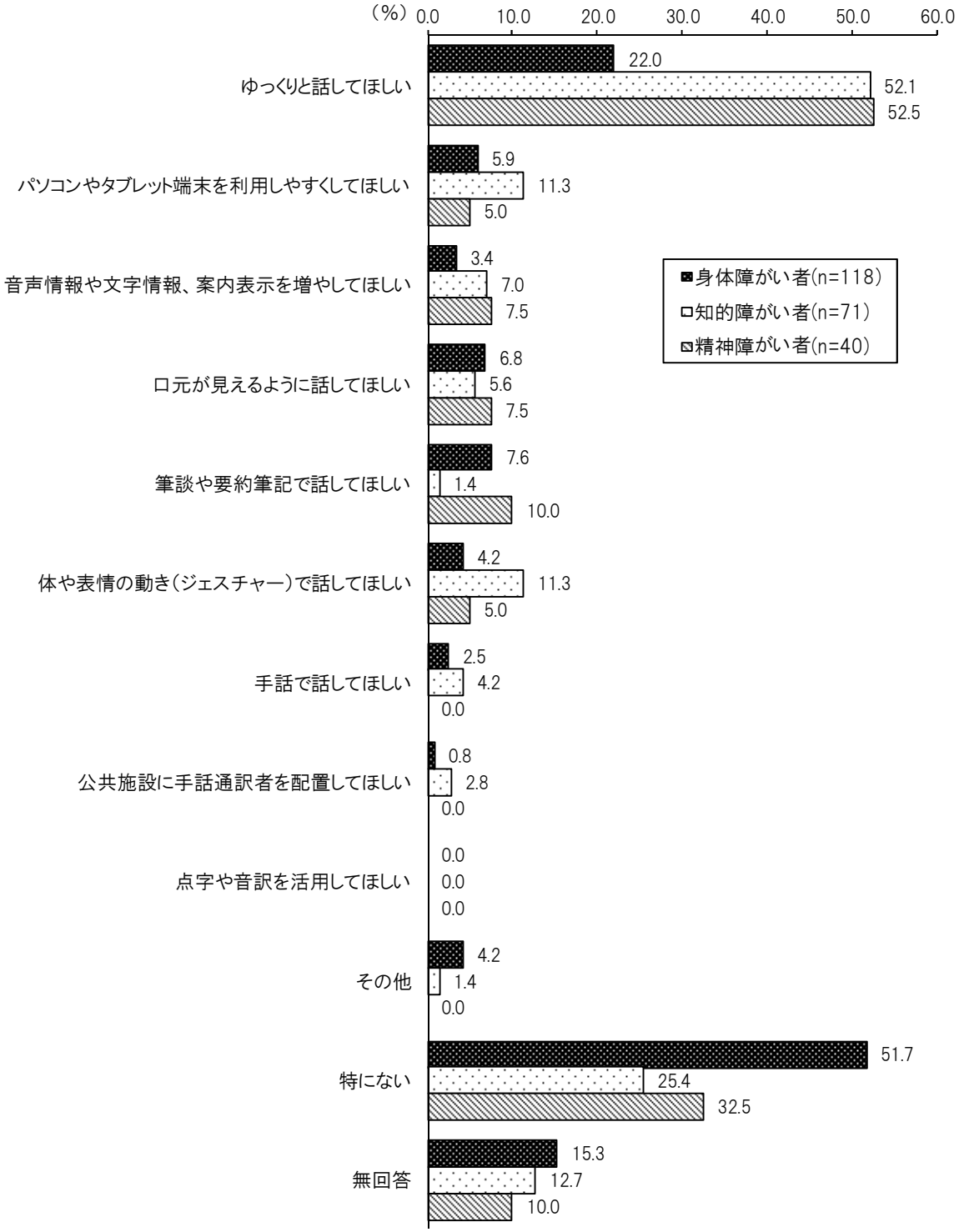
2 コミュニケーションをとるときに配慮してほしいこと

問 24　あなたが、人とのコミュニケーションをとりやすくするためには、どのようなことに配慮してほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

コミュニケーションをとるときに配慮してほしいことについては、「ゆっくりと話してほしい」の割合が 34.4%と最も高く、次いで「パソコンやタブレット端末を利用しやすくしてほしい」（7.7%）、「音声情報や文字情報、案内表示を増やしてほしい」（6.3%）の順となっている。一方、４割（40.3%）は「特にない」と回答している。



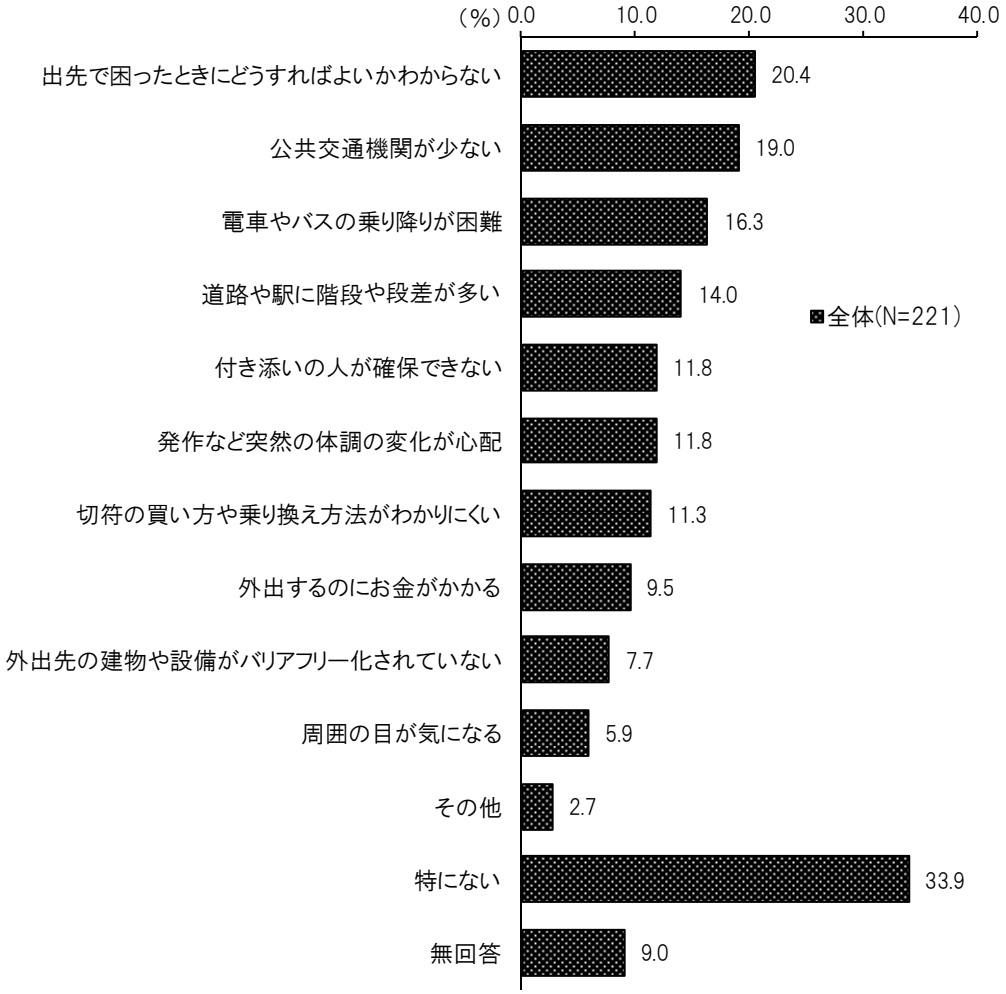
障がい区分別では、身体障がい者で「特にない」、知的障がい者や精神障がい者で「ゆっくりと話してほしい」の割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。



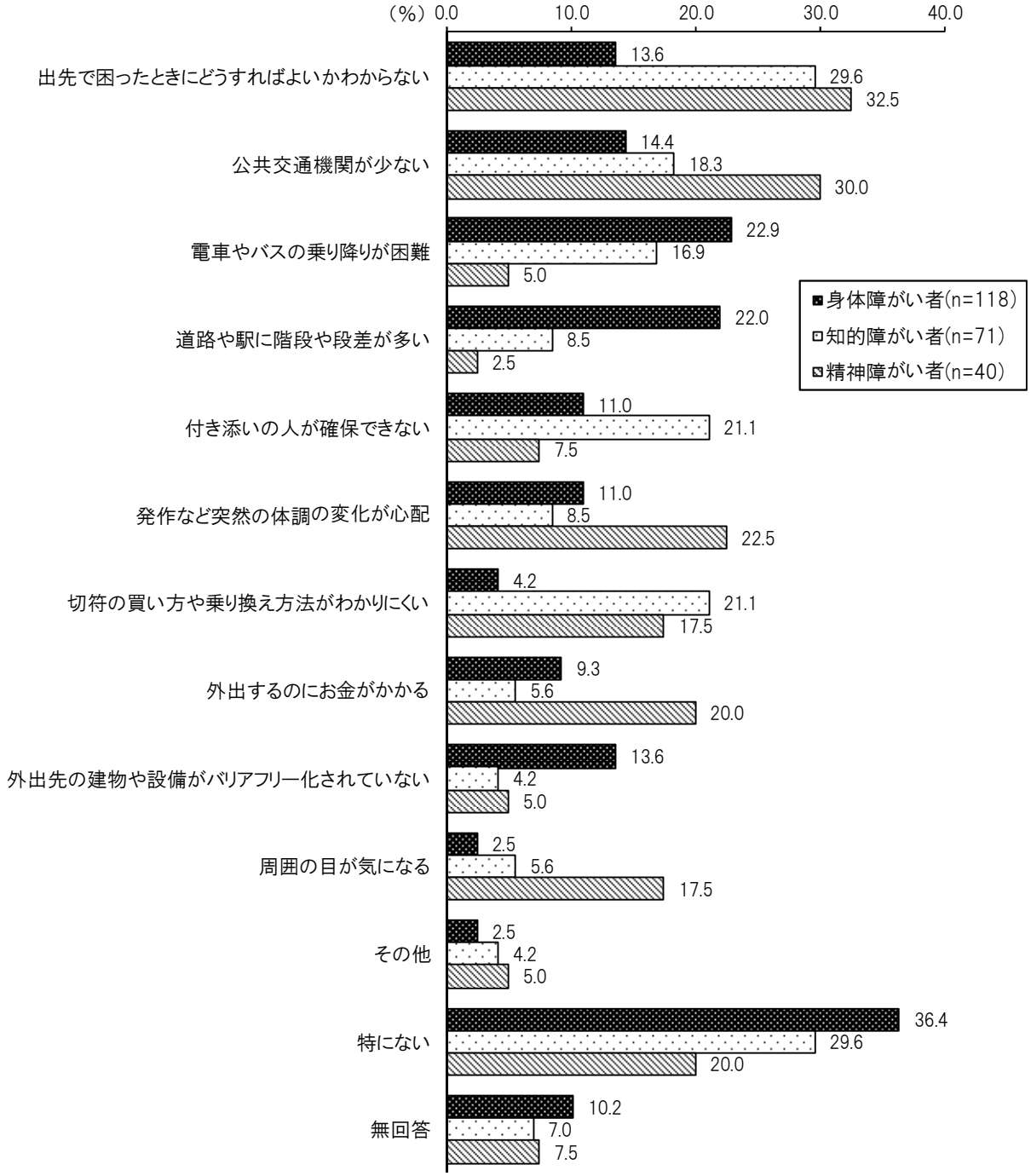
3 外出するときに困ること

問 25　あなたが、外出するときに困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

外出するときに困ることについては、「出先で困ったときにどうすればよいかわからない」の割合が 20.4％と最も高く、次いで「公共交通機関が少ない」（19.0％）、「電車やバスの乗り降りが困難」（16.3％）、「道路や駅に階段や段差が多い」（14.0％）の順となっている。一方、３割以上（33.9％）が「特にない」と回答している。



障がい区分別では、身体障がい者で「道路や駅に階段や段差が多い」、知的障がい者で「付き添いの人が確保できない」、精神障がい者で「公共交通機関が少ない」「発作など突然の体調の変化が心配」「外出するのにお金がかかる」などの割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。



4 近所の人とのつきあい程度

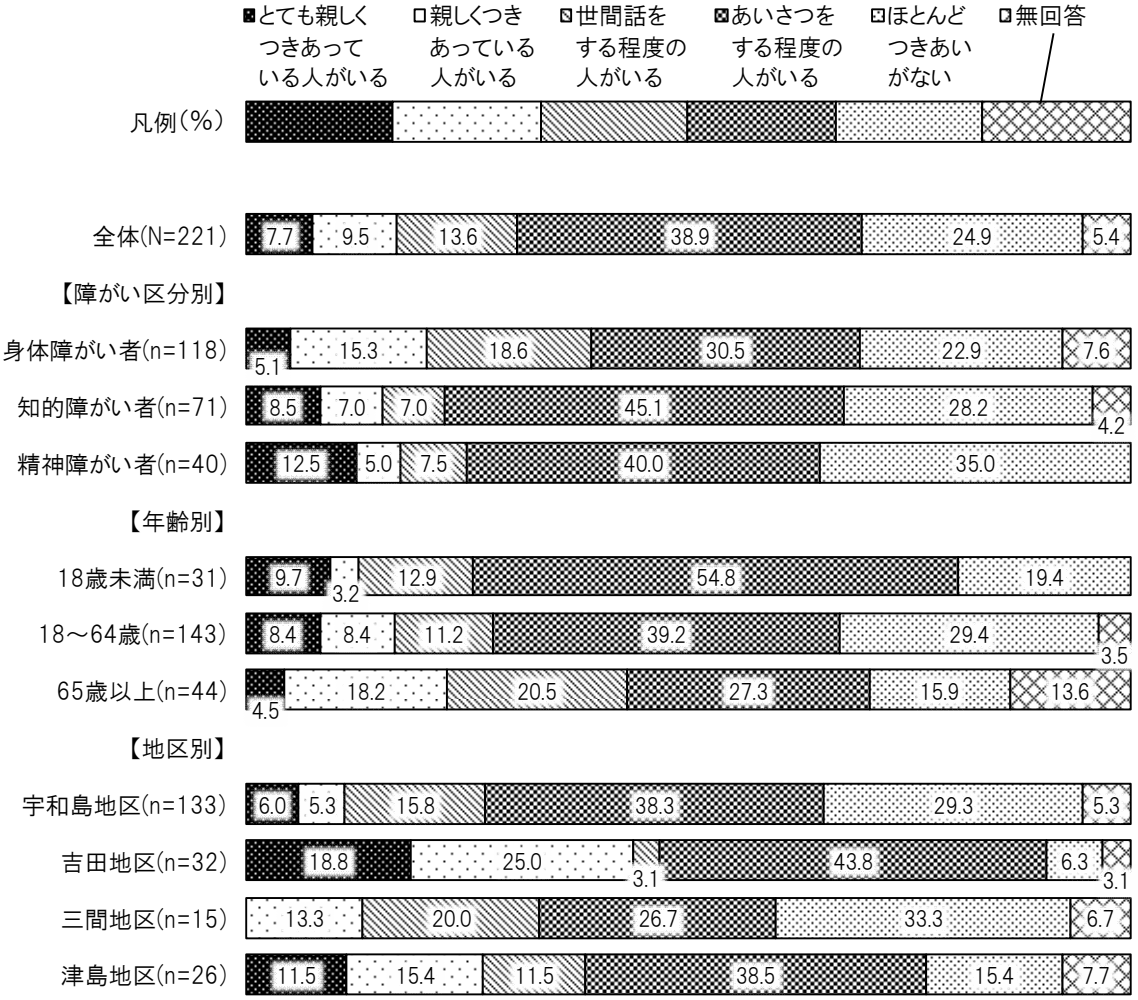
問 26　あなたの、近所の人や地域の人とのつきあいはどの程度ですか。（○は 1 つだけ）

近所の人とのつきあい程度については、「とても親しくつきあっている人がいる」が 7.7%、「親しくつきあっている人がいる」が 9.5%で、合計 17.2%が『親しくつきあっている人がいる』と回答している。一方、「ほとんどつきあいがない」が 24.9%、「あいさつをする程度の人がいる」が 38.9%となっている。

障がい区分別では、身体障がい者で「親しくつきあっている人がいる」「世間話をする程度の人がいる」、精神障がい者で「ほとんどつきあいがない」の割合がそれぞれ他の障がいに比べて高くなっている。

年齢別では、18 歳未満で「あいさつをする程度の人がいる」、18～64 歳で「ほとんどつきあいがない」、65 歳以上で「親しくつきあっている人がいる」の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。

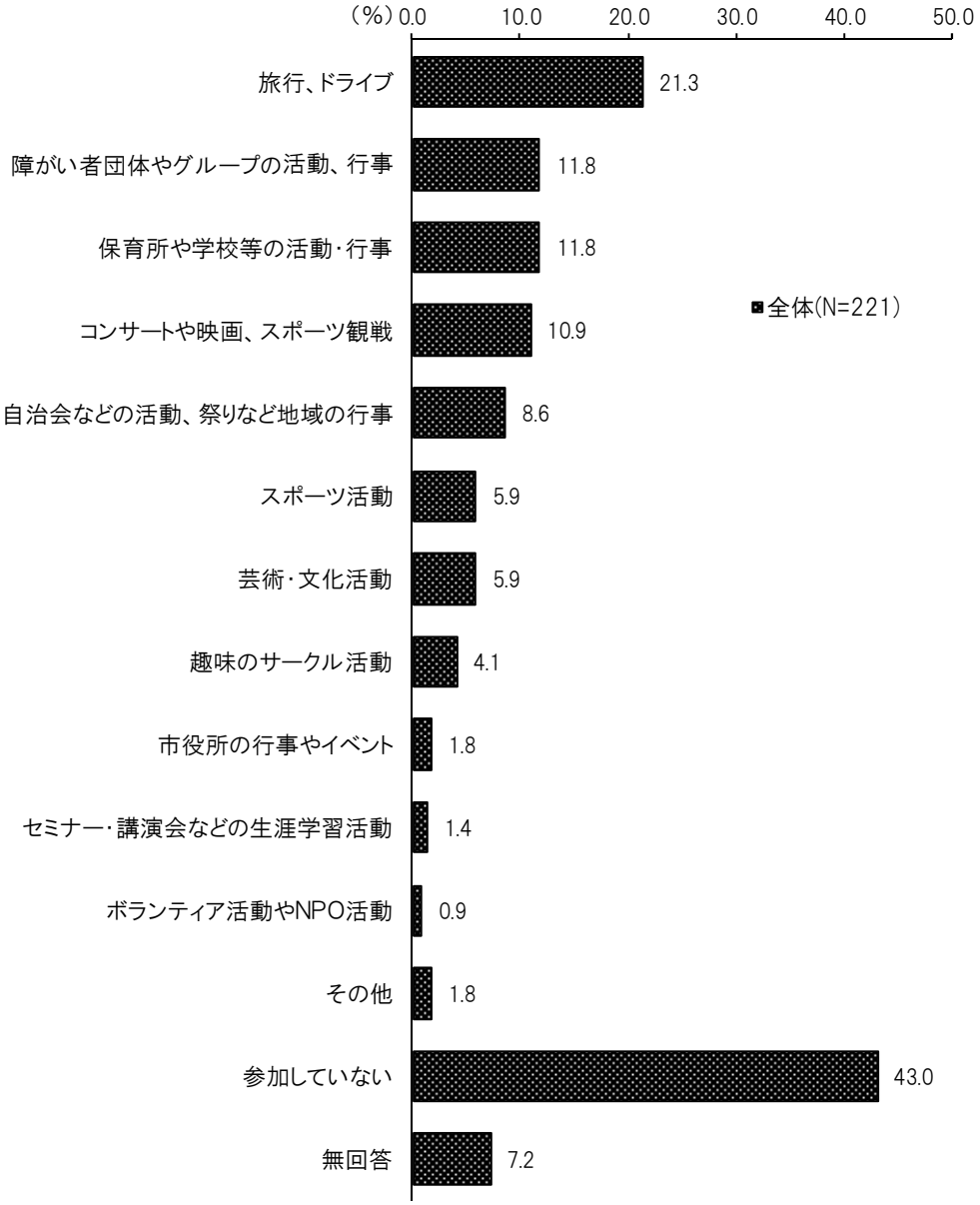
地区別では、吉田地区で『親しくつきあっている人がいる（合計）』の割合が他の地区を大きく上回っている。



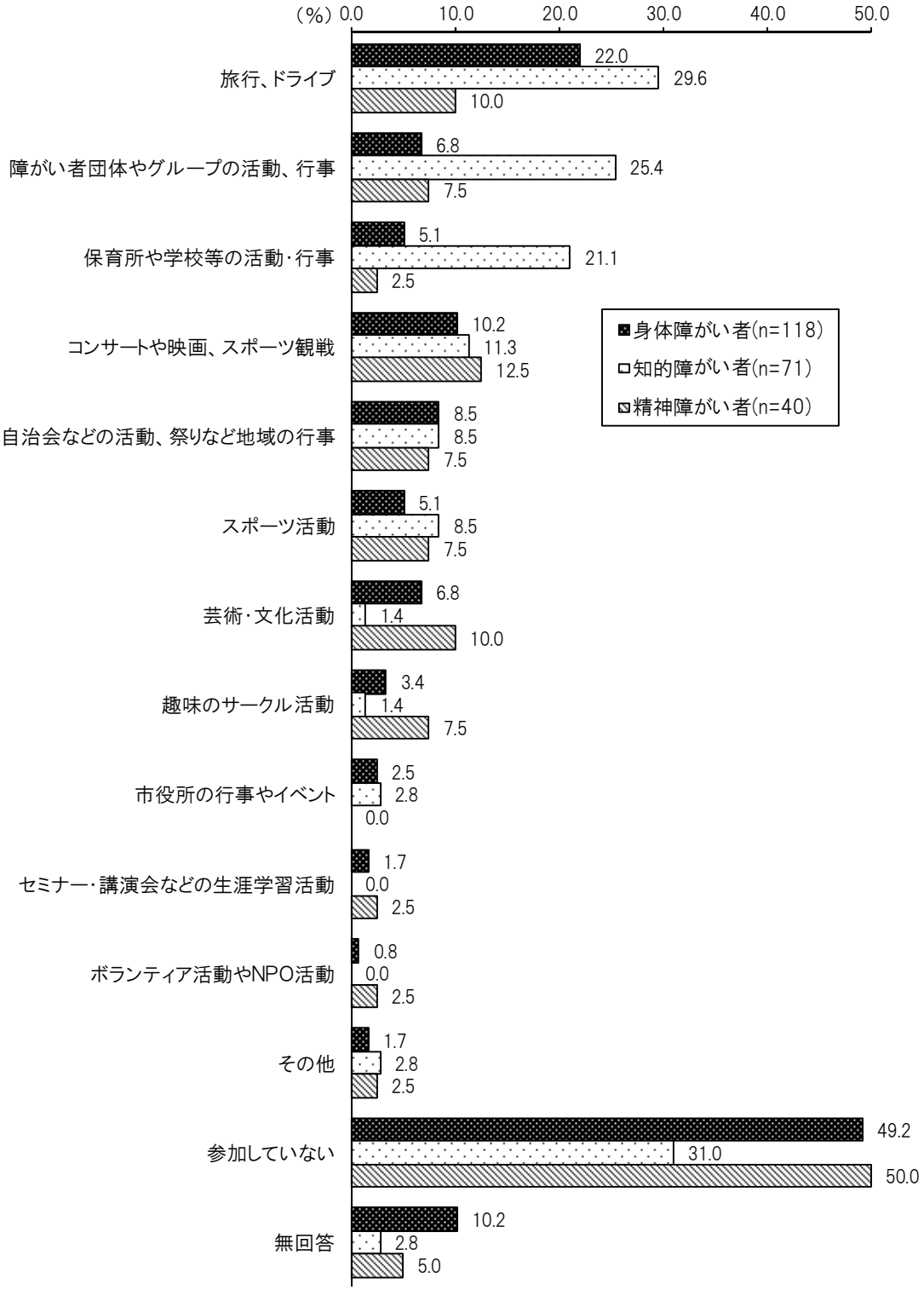
5 社会活動への参加状況

問 27　この１年間に、あなたは、趣味やスポーツ、芸術文化活動などの社会活動に参加しましたか。（あてはまるものすべてに○）

社会活動への参加状況については、４割以上（43.0%）が「参加していない」と回答しているが、参加している活動では「旅行、ドライブ」の割合が 21.3%と最も高く、次いで「障がい者団体やグループの活動、行事」「保育所や学校等の活動・行事」（各 11.8%）、「コンサートや映画、スポーツ観戦」（10.9%）の順となっている。



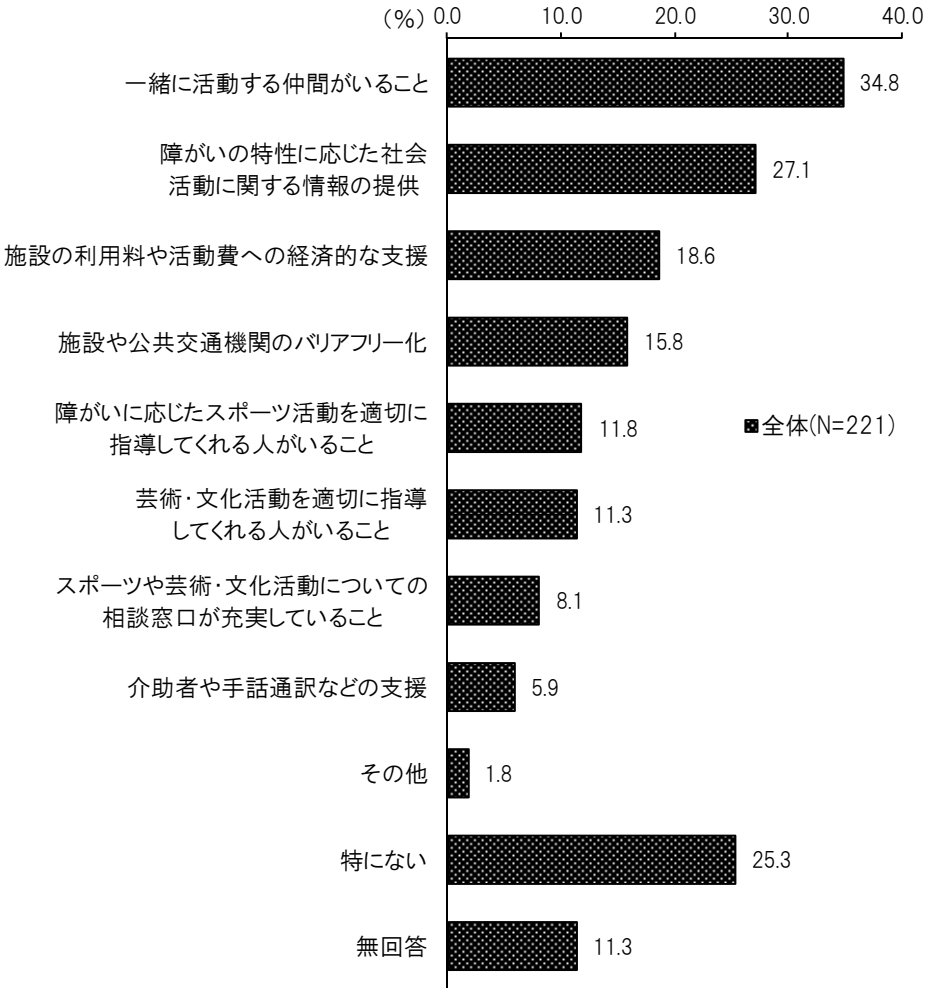
障がい区分別では、知的障がい者で「旅行、ドライブ」「障がい者団体やグループの活動、行事」「保育所や学校等の活動・行事」の割合が他の障がいを大きく上回っている。



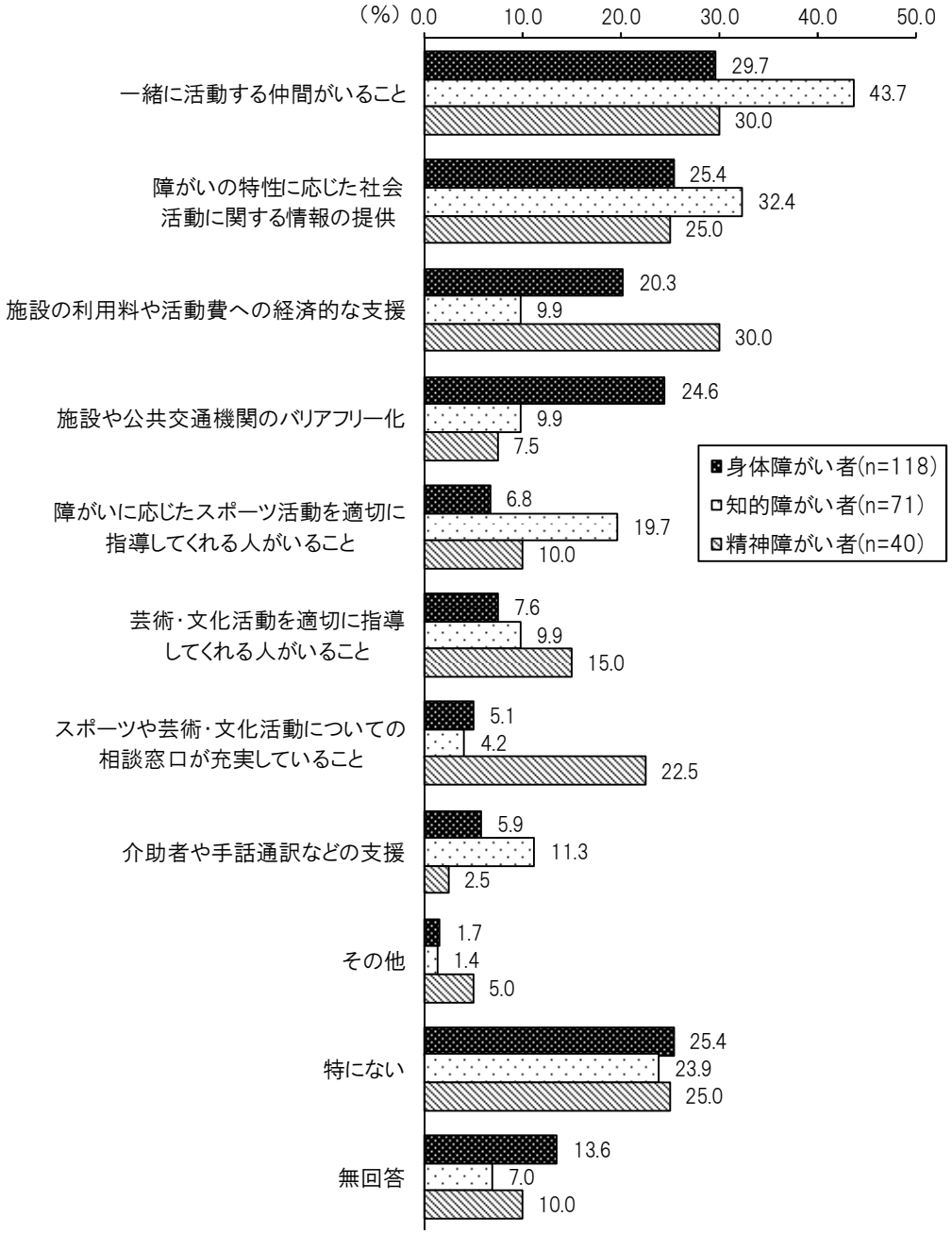
６ 社会活動に参加しやすくなるために必要なこと

問 28　障がいがあっても、地域の社会活動などにもっと参加しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの３つまでに○）

社会活動に参加しやすくなるために必要なことについては、「一緒に活動する仲間がいること」の割合が 34.8%と最も高く、次いで「障がいの特性に応じた社会活動に関する情報の提供」（27.1%）、「施設の利用料や活動費への経済的な支援」（18.6%）、「施設や公共交通機関のバリアフリー化」（15.8%）、「障がいに応じたスポーツ活動を適切に指導してくれる人がいること」（11.8%）の順となっている。



障がい区分別では、身体障がい者で「施設や公共交通機関のバリアフリー化」、知的障がい者で「一緒に活動する仲間がいること」、精神障がい者で「施設の利用料や活動費への経済的な支援」「スポーツや芸術・文化活動についての相談窓口が充実していること」の割合がそれぞれ他の障がいを大きく上回っている。



【６】障がいのある人への理解と権利擁護について

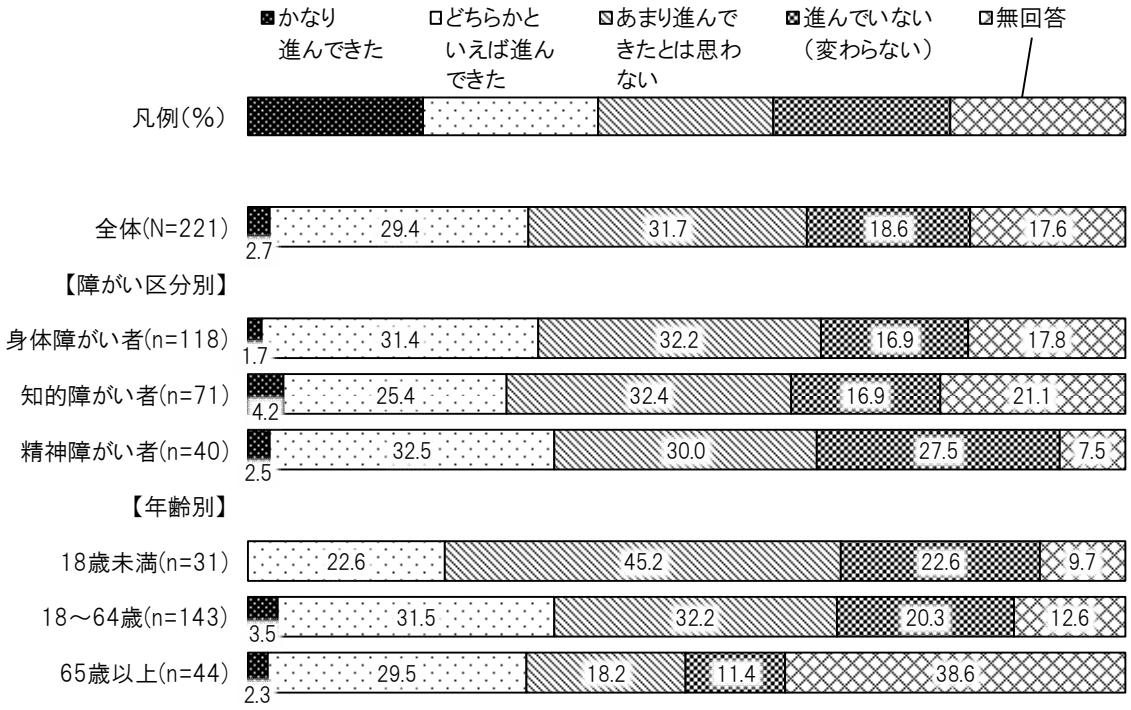
１ 障がい者に対する地域の人の理解について

問 29　平成 28 年に「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」が施行されましたが、あなたは、障がいのある人に対する、地域の人の理解は進んできたと思いますか。（○は１つだけ）

障がい者に対する地域の人の理解については、「かなり進んできた」が 2.7%、「どちらかといえば進んできた」が 29.4%で、合計 32.1%が『進んできた』と回答している。一方、「あまり進んできたとは思わない」(31.7%)、「進んでいない（変わらない）」(18.6%)の合計は 50.3%であった。

障がい区分別では、精神障がい者で「進んでいない（変わらない）」の割合が他の障がいを大きく上回っている。

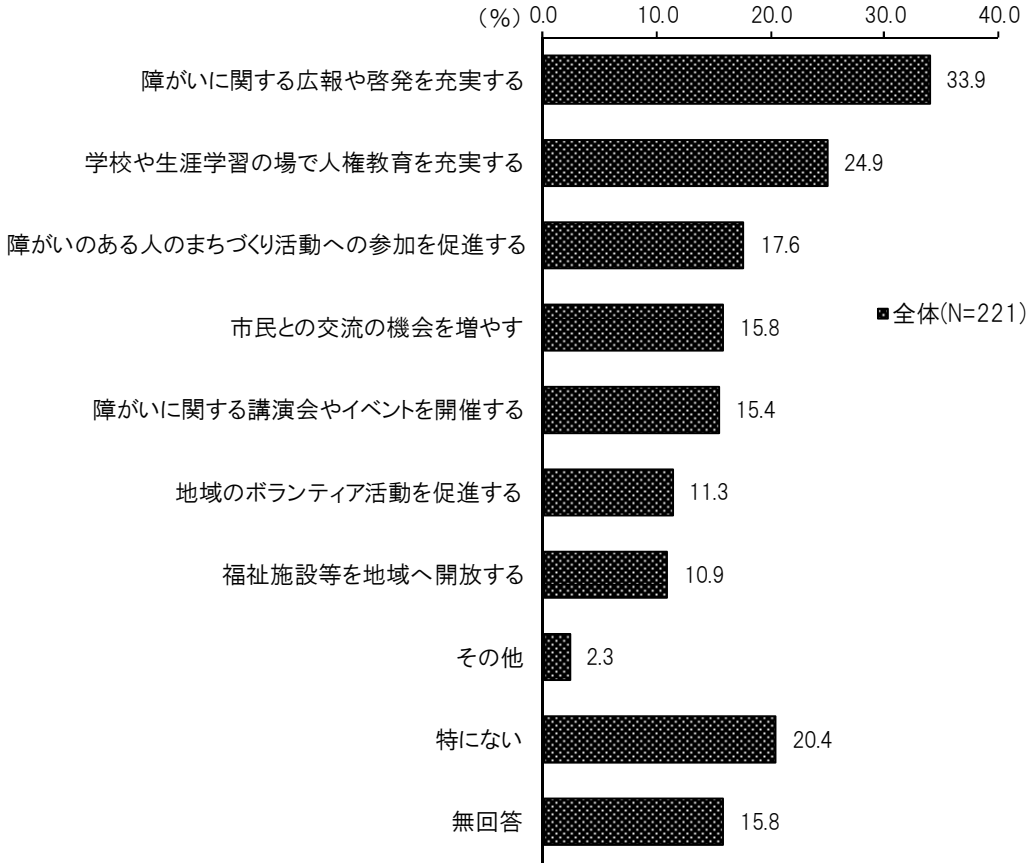
年齢別では、18 歳未満で「あまり進んできたとは思わない」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



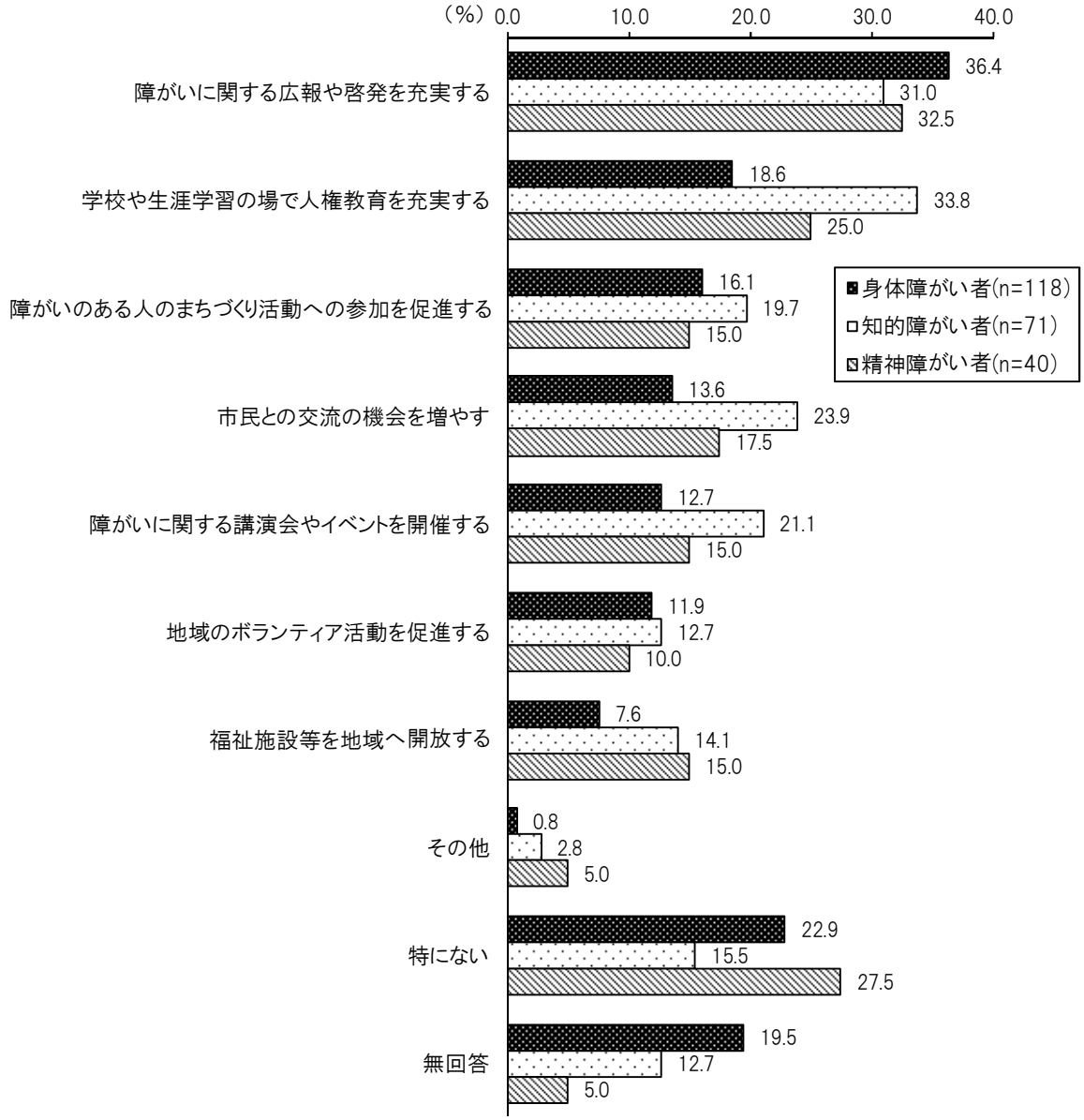
2 障がい者に対する理解を深めるために必要な取組

問 30　あなたは、障がいのある人に対する市民の理解を深めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。（主なもの３つまでに○）

障がい者に対する理解を深めるために必要な取組については、「障がいに関する広報や啓発を充実する」の割合が 33.9%と最も高く、次いで「学校や生涯学習の場で人権教育を充実する」(24.9%)、「障がいのある人のまちづくり活動への参加を促進する」(17.6%)、「市民との交流の機会を増やす」(15.8%)、「障がいに関する講演会やイベントを開催する」(15.4%) の順となっている。



障がい区分別では、知的障がい者で「学校や生涯学習の場で人権教育を充実する」「市民との交流の機会を増やす」「障がいに関する講演会やイベントを開催する」などの割合が他の障がいに比べて高くなっている。



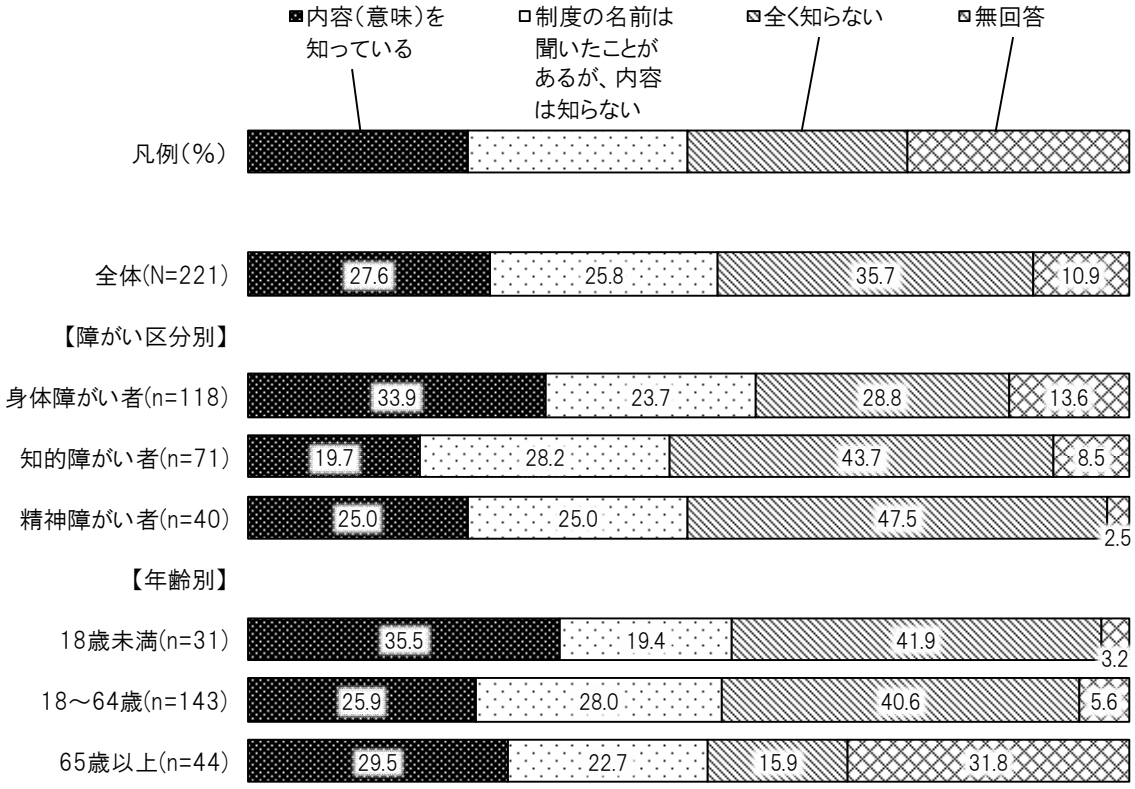
3 成年後見制度の認知状況

問 31　あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。（○は１つだけ）

成年後見制度の認知状況については、「内容（意味）を知っている」の割合が 27.6%、「制度の名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」が 25.8%、合計で 53.4%となっている。一方、３割以上（35.7%）が「全く知らない」と回答している。

障がい区分別では、身体障がい者で「内容（意味）を知っている」、知的障がい者や精神障がい者で「全く知らない」の割合がそれぞれ他の障がいに比べて高くなっている。

年齢別では、18 歳未満で「内容（意味）を知っている」、18～64 歳で「制度の名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



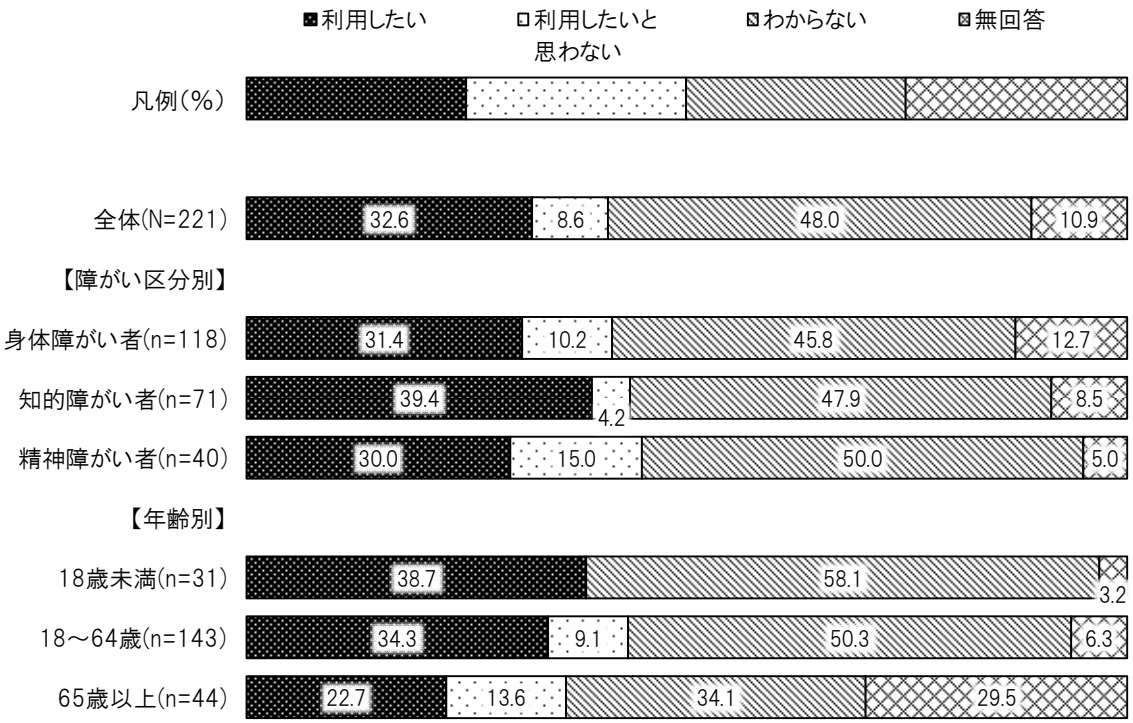
4 成年後見制度の利用意向

問 32　あなたは、成年後見制度が必要になったときに利用したいと思いますか。
（○は１つだけ）

成年後見制度の利用意向については、「利用したい」の割合が 32.6%、「利用したいと思わない」が 8.6%、「わからない」が 48.0%となっている。

障がい区分別では、知的障がい者で「利用したい」の割合が他の障がいに比べて高くなっている。

年齢別では、64 歳以下で「利用したい」の割合が高くなっている。



【７】災害時のことについて

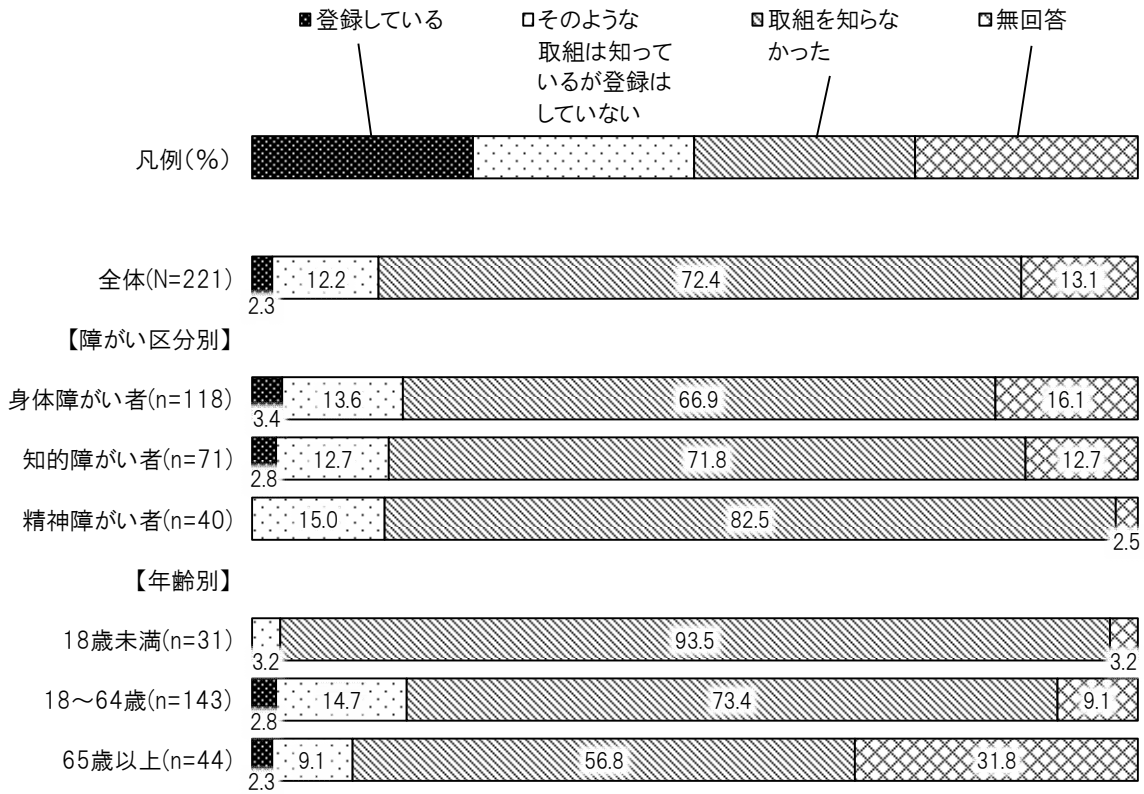
１ 宇和島市避難行動要支援者への登録状況

問 33　あなたは、「宇和島市避難行動要支援者」に登録していますか。（○は１つだけ）

宇和島市避難行動要支援者への登録状況については、「登録している」の割合が 2.3%、「そのような取組は知っているが登録はしていない」が 12.2%、「取組を知らなかった」が 72.4%となっている。

障がい区分別では、精神障がい者で「取組を知らなかった」の割合が他の障がいを大きく上回っている。

年齢別では、18 歳未満で「取組を知らなかった」、18～64 歳で「そのような取組は知っているが登録はしていない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



2 近所で助けてくれる人の有無

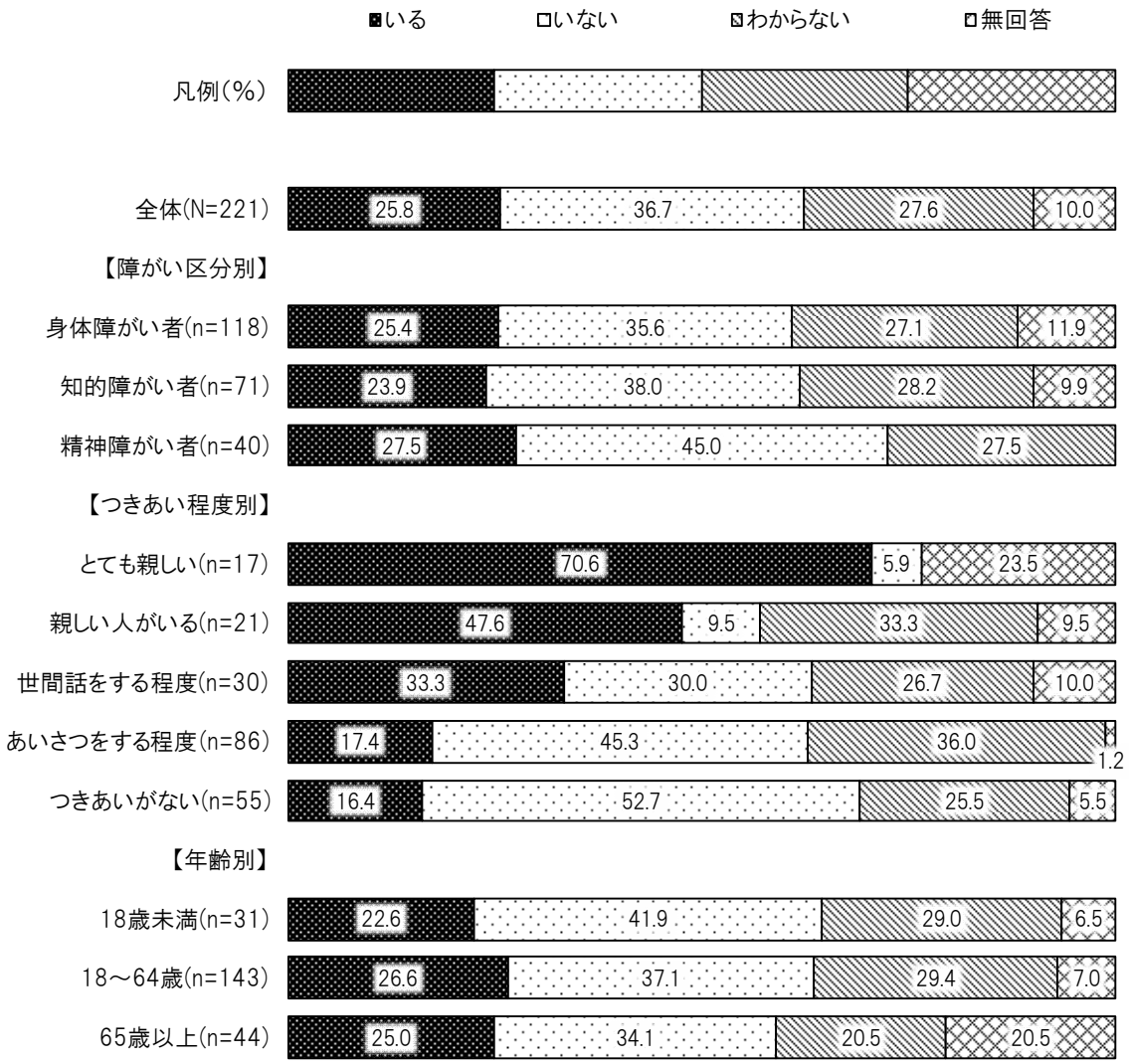
問 34　家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。（○は 1 つだけ）

近所で助けてくれる人については、「いる」の割合が 25.8%、「いない」が 36.7%、「わからない」が 27.6%となっている。

障がい区分別では、精神障がい者で「いない」の割合が他の障がいに比べて高くなっている。

つきあい程度別では、つきあいが親しい層ほど「いる」の割合が高くなっている。

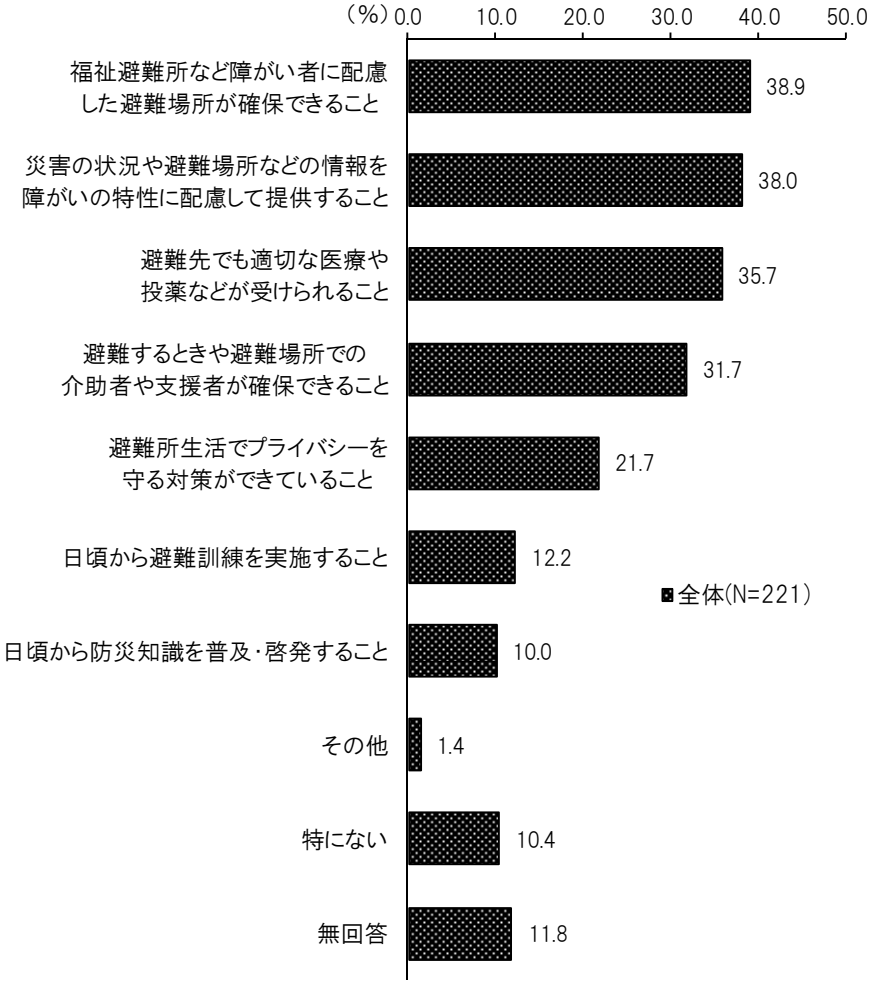
年齢別では、18 歳未満で「いない」の割合が他の年齢層に比べてやや高くなっている。



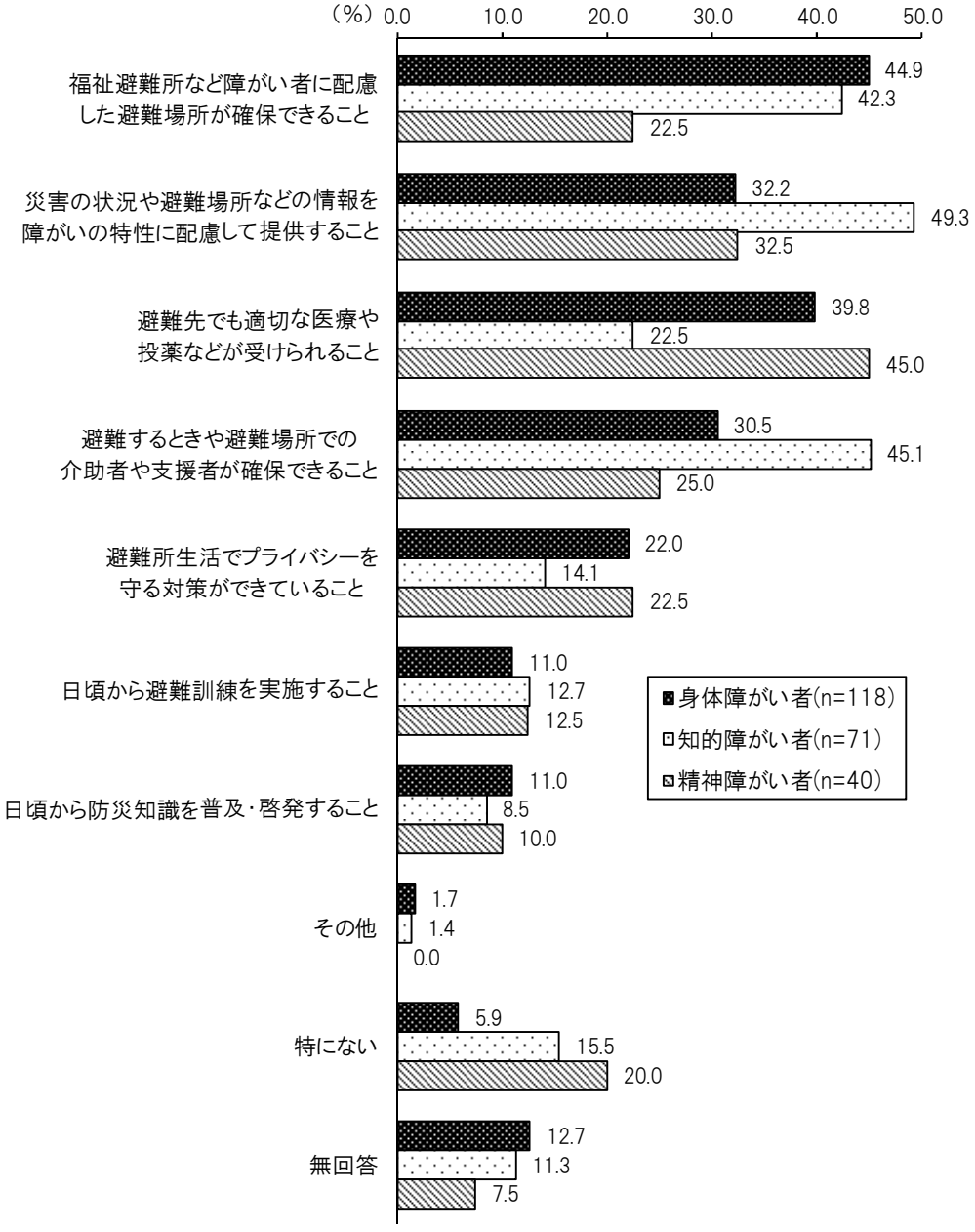
3 災害時に必要な対策

問 35　地震や豪雨、台風などの災害時に備えて、どのような対策が必要だと思いますか。
（主なもの３つまでに○）

災害時に必要な対策については、「福祉避難所など障がい者に配慮した避難場所が確保できること」の割合が 38.9%と最も高く、ほぼ並んで「災害の状況や避難場所などの情報を障がいの特性に配慮して提供すること」（38.0%）が続き、以下「避難先でも適切な医療や投薬などが受けられること」（35.7%）、「避難するときや避難場所での介助者や支援者が確保できること」（31.7%）、「避難所生活でプライバシーを守る対策ができていること」（21.7%）の順となっている。



障がい区分別では、知的障がい者で「災害の状況や避難場所などの情報を障がいの特性に配慮して提供すること」「避難するときや避難場所での介助者や支援者が確保できること」の割合が他の障がいを大きく上回っている。

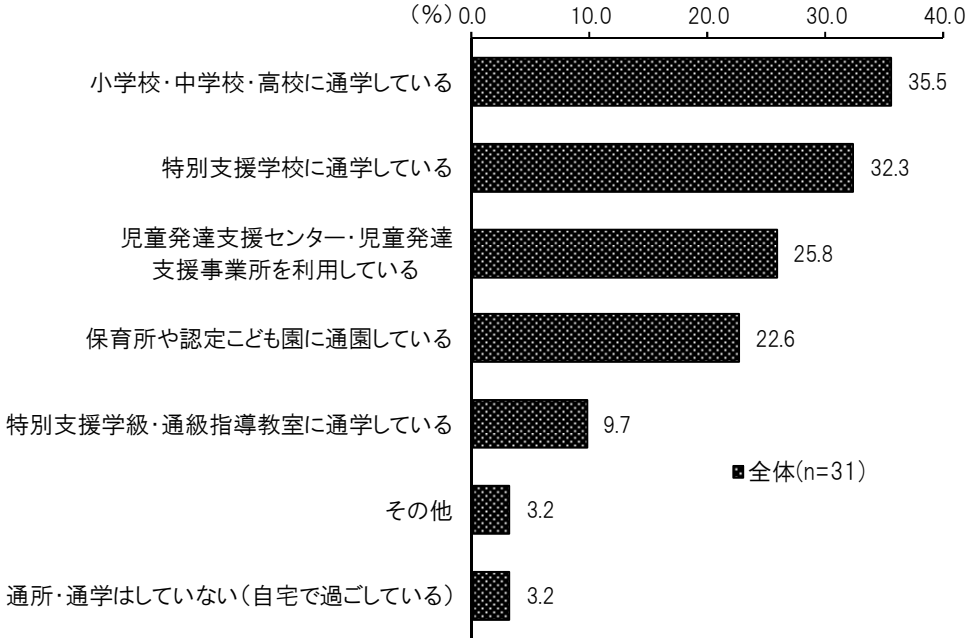


【８】療育や保育・教育について（18 歳未満対象）

１ 通所・通学先

問 36　お子さんの通所・通学先はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

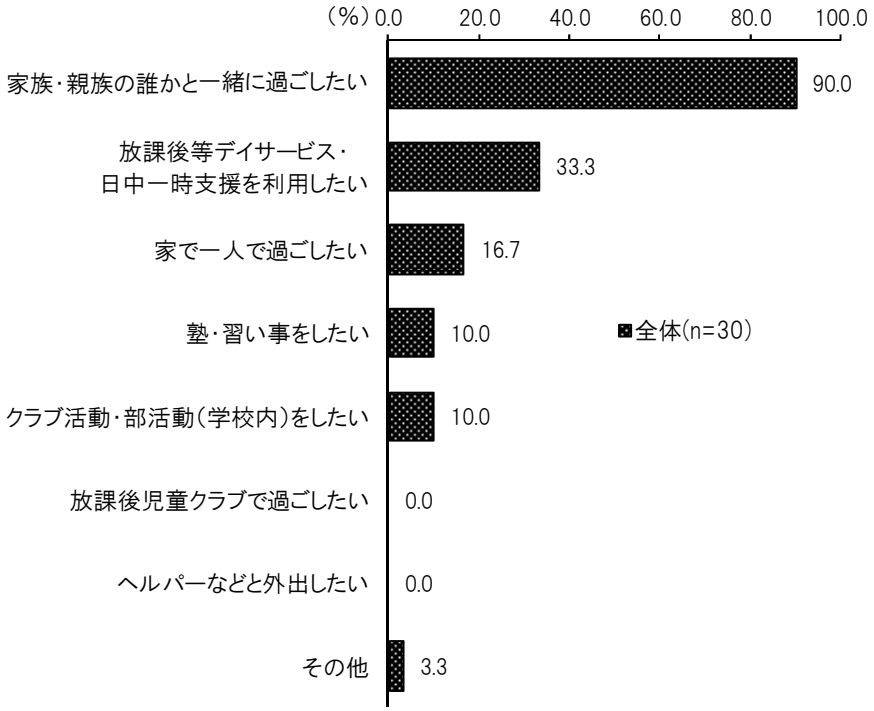
通所・通学先については、「小学校・中学校・高校に通学している」の割合が 35.5％と最も高く、次いで「特別支援学校に通学している」（32.3％）、「児童発達支援センター・児童発達支援事業所を利用している」（25.8％）、「保育所や認定こども園に通園している」（22.6％）の順となっている。



２ 希望する長期休業中の過ごし方

【問 36 で「１～６」を選んだ方におたずねします。】
問 37　お子さんは、放課後や夏休みなどの長期休業中をどのように過ごしたいと思っていますか。（主なもの３つまでに○）

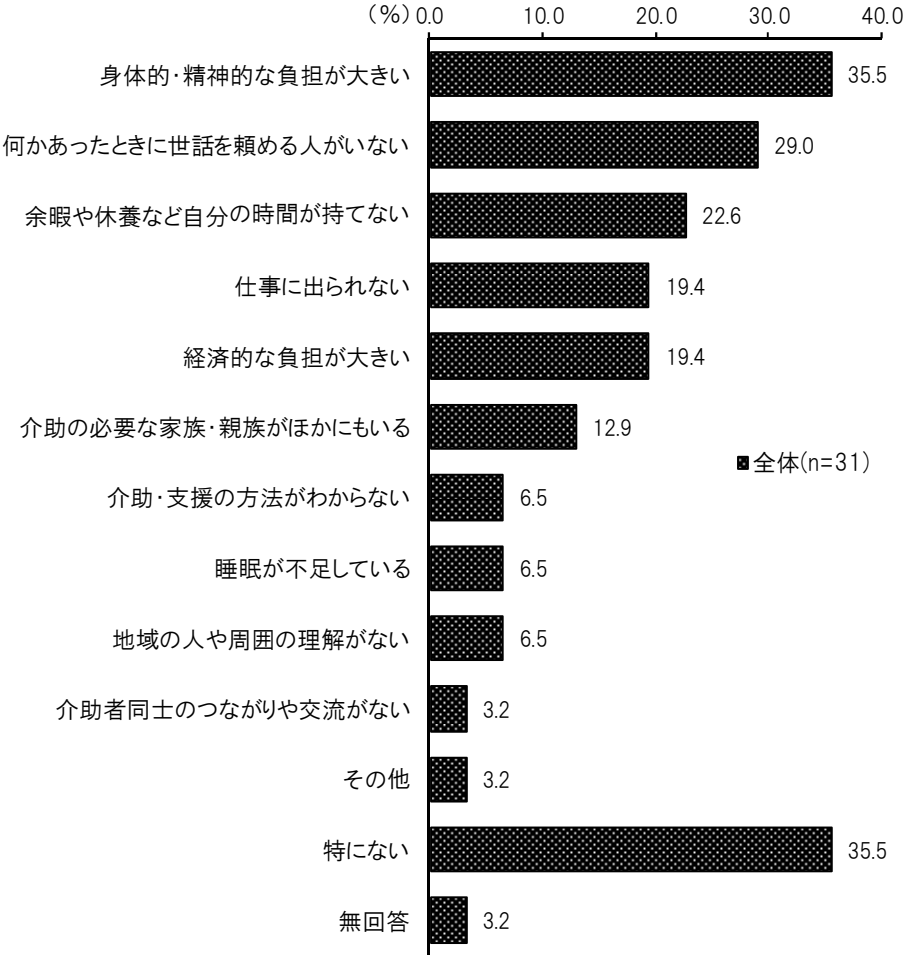
希望する長期休業中の過ごし方については、「家族・親族の誰かと一緒に過ごしたい」の割合が 90.0％と最も高く、次いで「放課後等デイサービス・日中一時支援を利用したい」（33.3％）、「家で一人で過ごしたい」（16.7％）、「塾・習い事をしたい」「クラブ活動・部活動（学校内）をしたい」（各 10.0％）の順となっている。



3 介助や支援に関する不安や悩み

問 38　お子さんの介助や支援にあたって、どのような不安や悩みがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

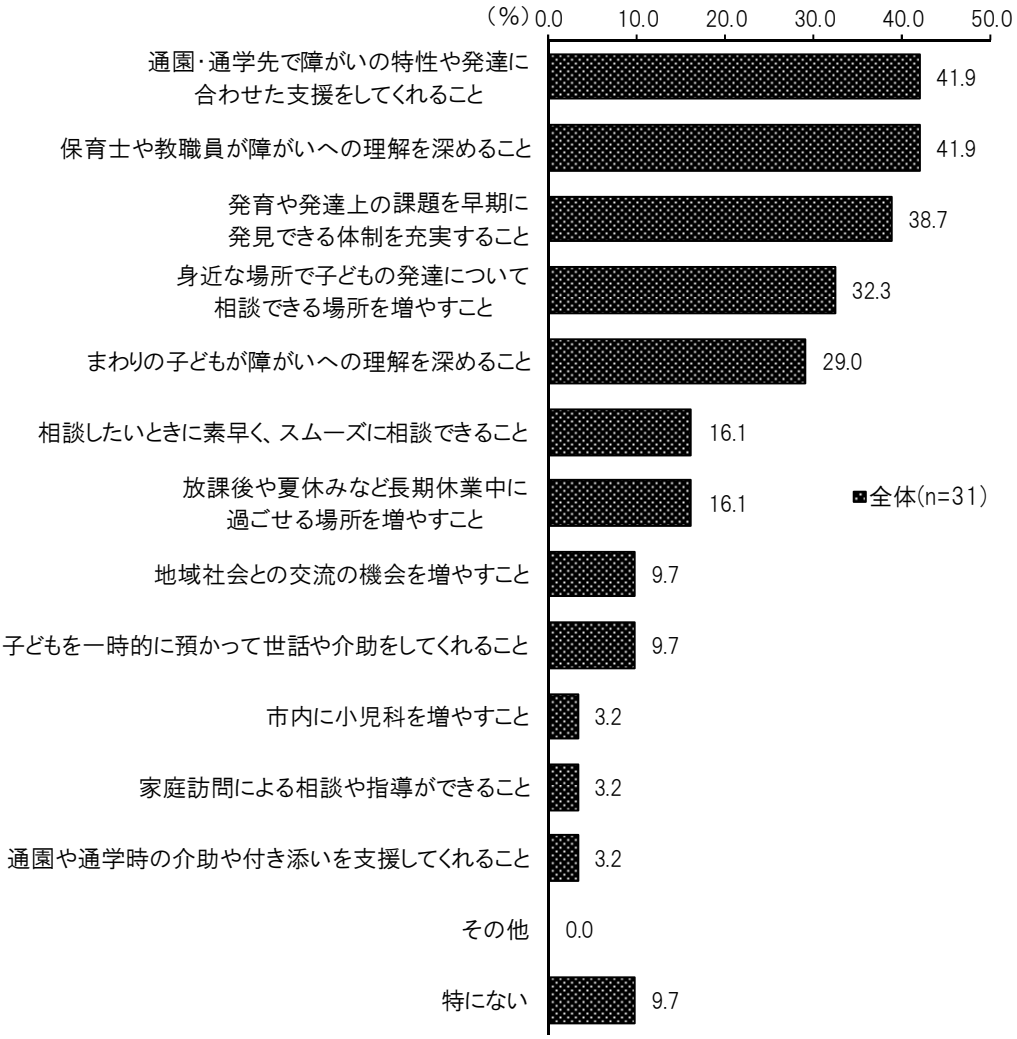
介助や支援に関する不安や悩みについては、「身体的・精神的な負担が大きい」の割合が 35.5%と最も高く、次いで「何かあったときに世話を頼める人がいない」(29.0%)、「余暇や休養など自分の時間が持てない」(22.6%)、「仕事に出られない」「経済的な負担が大きい」(各 19.4%) の順となっている。



4 支援が必要な子どもに必要なこと

問 39　発育・発達上の支援が必要な子どものために、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの３つまでに○）

支援が必要な子どもに必要なことについては、「通園・通学先で障がいの特性や発達に合わせた支援をしてくれること」「保育士や教職員が障がいへの理解を深めること」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「発育や発達上の課題を早期に発見できる体制を充実すること」（38.7%）、「身近な場所で子どもの発達について相談できる場所を増やすこと」（32.3%）、「まわりの子どもが障がいへの理解を深めること」（29.0%）の順となっている。

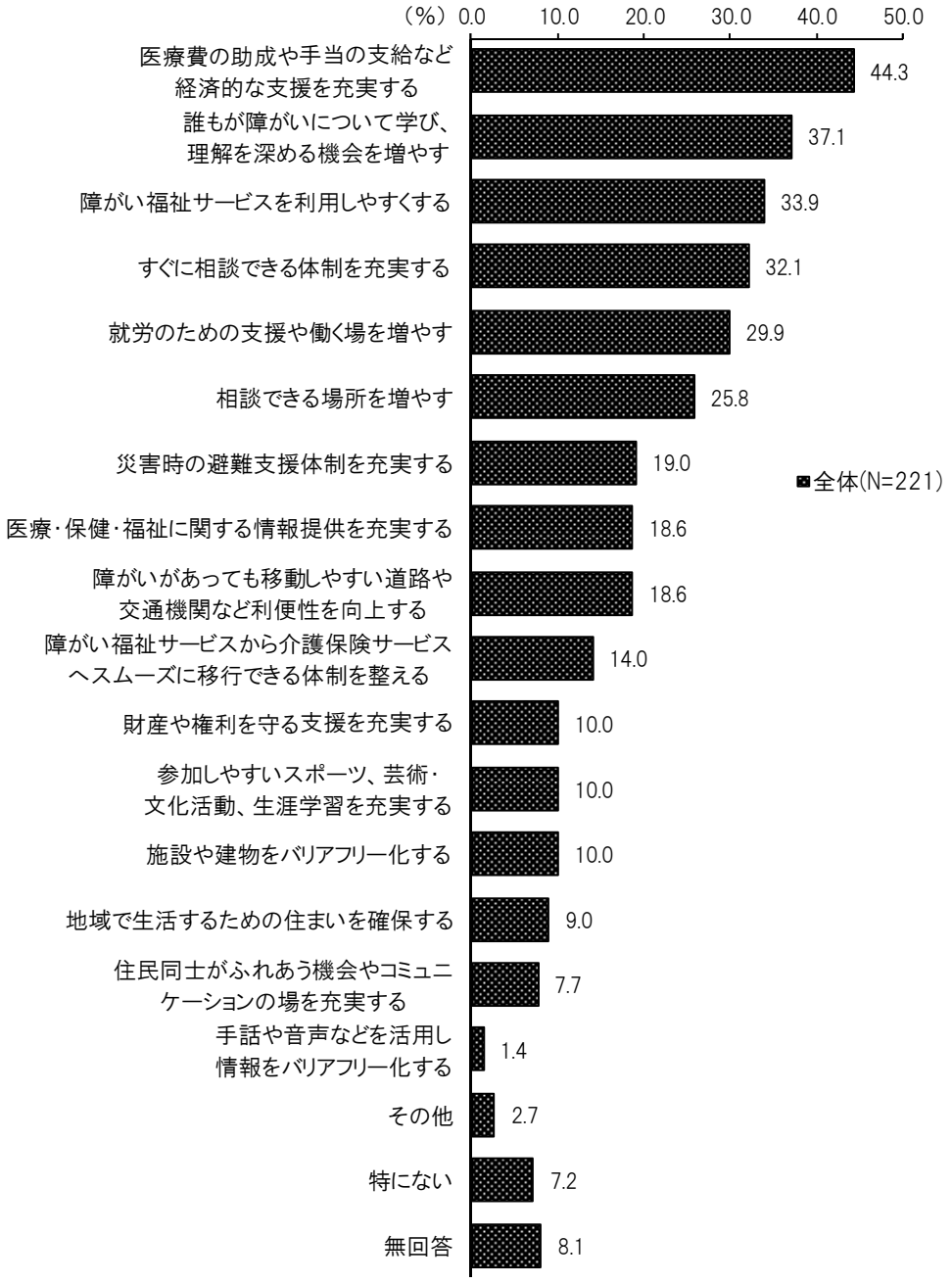


【９】福祉の取組について

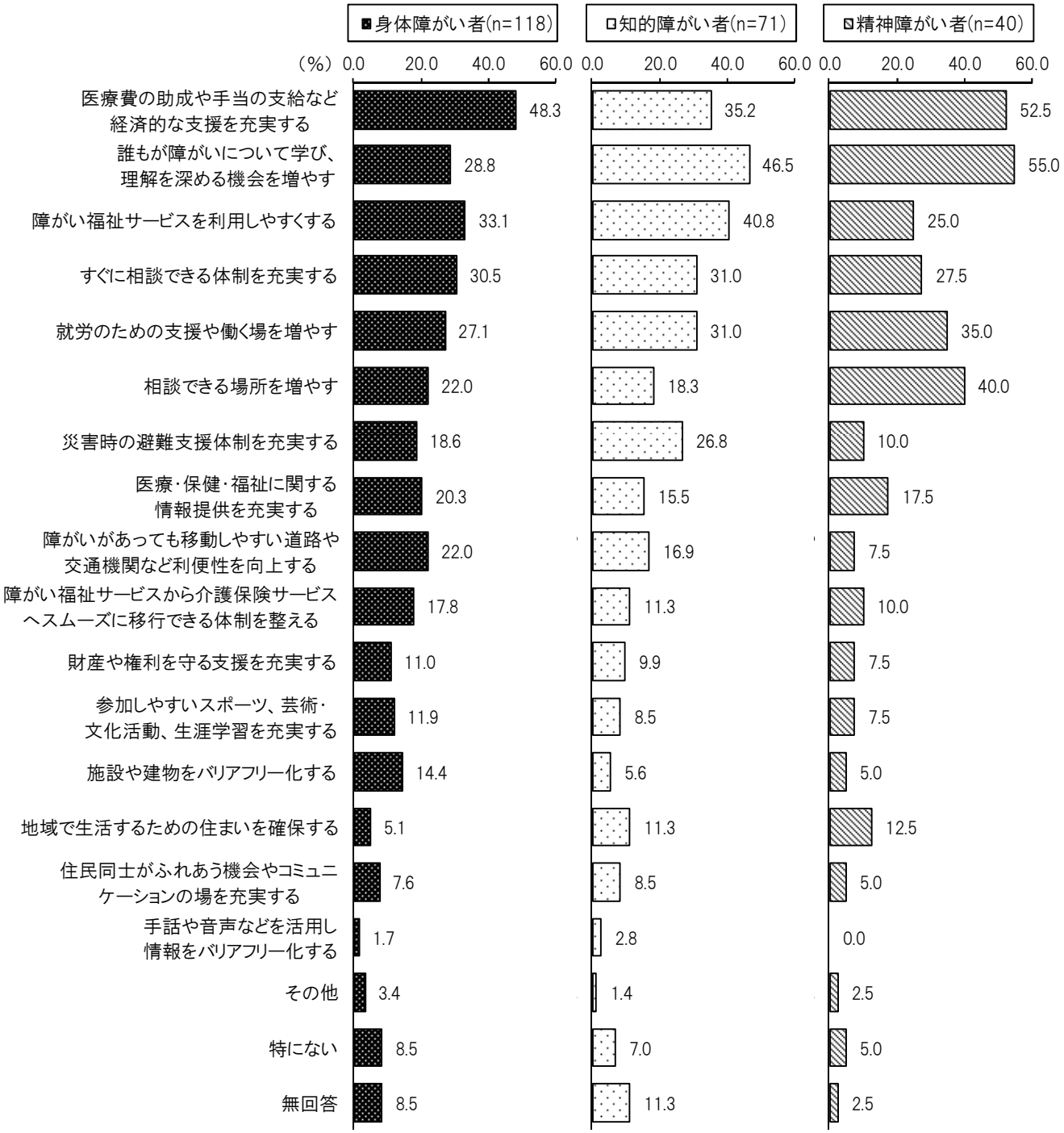
１ 市が力を入れるべき取組

問 40　あなたは、障がい者にとって住みやすいまちをつくるためには、宇和島市はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。（主なもの５つまでに○）

市が力を入れるべき取組については、「医療費の助成や手当の支給など経済的な支援を充実する」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「誰もが障がいについて学び、理解を深める機会を増やす」(37.1%)、「障がい福祉サービスを利用しやすくする」(33.9%)、「すぐに相談できる体制を充実する」(32.1%)、「就労のための支援や働く場を増やす」(29.9%)の順となっている。



障がい区分別では、身体障がい者で「施設や建物をバリアフリー化する」、知的障がい者で「障がい福祉サービスを利用しやすくする」「災害時の避難支援体制を充実する」、精神障がい者で「誰もが障がいについて学び、理解を深める機会を増やす」「相談できる場所を増やす」などの割合がそれぞれ他の障がいに比べて高くなっている。



【10】自由記述回答集約結果

問 41　宇和島市の障がい福祉の取組について、ご意見がありましたら、自由にご記入ください。

障がい福祉の取組について、自由記述方式で尋ねたところ、以下のような意見がみられた。なお、自由記述については、誤字等の修正を除き、原文に基づいて手帳種類別に掲載している。

【18 歳未満】

身体障害者手帳

・段差やトイレなど、施設の整備が都市部に比べ、満たされていないなあと感じるところです。田舎にいても、住みやすいようになれば良いなと思います。また、障がいを持つ人が、そこらどこにでも共にいるという“当たり前感”がないため、田舎の方が偏見が多いように感じます。特に大人の方が。気軽に情報など収集できると良いなと私自身は思います。（10～17 歳）

療育手帳

・宛名の本人が４歳で、意思を伝えるのが難しいため、アンケートは親の考えが中心で記入しています。（１～５歳）

・災害があったとき、避難所に障がいの子がいて、パニックになり他の人に、嫌なことを言われた人がかなりいます。障がい児用の部屋をつくるなど、いろいろと配慮していただきたい。赤ちゃんもそうで、泣き声に怒鳴る人がいます。優しい宇和島であってほしいです。（６～９歳）

・気軽に話をできる場、全体的な障がい福祉の座談なり、個々でなく講演なりで先進的取組をしている事例をその現場の親なり、事業者が語る内容に耳を傾けられる機会、場がほしい。（10～17 歳）

・障がい福祉だけではなく、教育等、中予と比べるとあまりにも、格差がありすぎます。障がい者が地域で働き、地域で生涯安心して暮らしていけるようにしてほしい。働く場所や種類、グループホームとか少なすぎる。（10～17 歳）

【18 歳以上】

身体障害者手帳

・同じくらいの障がいの度合いで、20 歳前後のコミュニティの場があれば良いと考えます。気兼ねなく、外に出て楽しめる友人がいれば希望が出てきます。そこで一緒に生きていってくれる相手が見つかると、親として安心です。宇和島だけでなく、松山や高松などでも良いので、障がい者のスポーツ交流やイベントがあれば、ありがたいです。（20 歳代）

・私は身体障がい者ではありますが、障がいそのものへの支援を必要とすることがありません。それよりも、精神的なケアを希望する機会が多いです。具体的な問題（依存症など）の解消を目指すものではなく、気軽に相談できるカウンセリングの場がほしいです。電話でのカウンセリングは少し利用しづらいので、感染症対策から現在は難しいとは思うのですが、対面でのカウンセリングを利用できるようになれば嬉しいです。（20 歳代）
・家族の高齢化で、いざという時の入所できる場所を早くお願いしたい。（30 歳代）
・障がい者に対するイジメをなくしてほしいです。障がい者を見かけたら、手を差し伸べてほしいと思います。安心して働ける場所が増えたら良いと思っています。もう少し、障がい者の思いを聞いて、必要に応じた対策を考えてほしいと思っています。（40 歳代）
・タクシー割引券の１回に使用できる枚数を自由にしてほしい。（50 歳代）
・障がい者が安心して暮らせる町づくりに力を入れてほしいです。宇和島は、外の自治体の話を聞くとまだまだだと思います。何回も転居を考えましたが、どうするすべもなく、現在に至ります。本当に切実なことですので、お願いしたいと思っています。（追伸）市内のスーパーで障がい者用の駐車場に、健常者の方が使っていて使えません。どこの店舗でもあります。モラルが低いですね。（50 歳代）
・施設に入所しても、昼間は今までの通所の事業所に通うことはできませんか？夜と昼の生活を別にするということなのですが。（60 歳代）
・低年金の障害年金生活者のために月額３万円程度の支援を要求します。月当たり７万円の年金では、生活が非常に苦しい訳です。働こうにも１分ほど立っているだけで、ぶっ倒れる体なのでとても働くことができません。助けてください。現在、透析で病院に通っている身ですが、病院に通院するためのタクシー代を無料にしてください。（60 歳代）
・公的な福祉サービスにはまだまだ限界があるので、ボランティアの充実がもっと必要だと思う。そのためには、行政の支援が必要と思う。（70 歳代）
・私は交通事故の後遺症で耳が全然聞こえません。長い年月、年に一度は入院があります。辛いですが、まだ一人で生活しています。こんなになってもまだ、生きていたいと思います。耳から入ってこないので、目からですので、大事なことや大変なことはやはりすぐ知りたいですね。どこまでどうお願いしていいか分かりませんが、世の中に起こったことは早く知りたいです。（70 歳代）
・福祉の方は、よくやっていただいています。（80 歳以上）

療育手帳

・介護者の体調が悪くなったり、入院することになったりしたときに、即、障がい児、障がい者を預かってくれる場所を設置していただけたら有り難いです。（20 歳代）
・うちの子は 20 年前からゲームの依存症になっていて、毎日、一日中ゲームばかりしていてうまくいかなくなると、物を壊したり、ガラスを割ったりと危険な状況になり三浦半島の下波の施設にアプローチしたのですが、ぜんぜん相手にしてもらえませんでした。これから先、私達も老いていき、限界になった時すぐに入れる施設を増やしてほしいです。現在は、静かになり裸になって仰向けになって足をバンバン叩いたりの程度になっていて、ホッとしている。（30 歳代）
・豪雨災害など特別な災害が起きたときに、支援してほしい。大変でした。（30 歳代）

精神障害者保健福祉手帳

・松山の友達に会いに行くのに、バスの料金が精神だけ割引が受けられずに悲しくなった。体調を崩しやすいから、パートでしか働けないし、頑張って働いても少ない額なのに精神だけ差別されてると感じた。（20 歳代）

・40 歳以上の年代で特に、発達障がいへの理解が乏しい。また、医療者であっても、発達障がいに対する理解がかなり乏しい。（認知症と誤診されるなど）発達障がいではどのような症状があるのか、ということを周知し早期に発見し、適切な支援と診療を受けられるような社会にしてほしい。周りの人、一般の人は難なくできることが自分にはできない。どれだけ頑張っても、何年努力してもできない。周りにもできないことへの理解を得られないという状況の発達障がい者も、まだまだ沢山いると思います。「発達障がいかな？」と思ったら、ここへ受診したら診断できるといった情報もインターネットでは出て来ません。一般の精神科などでは、診断できないと電話口で言われます。まずはそこを整えてほしいです。（30 歳代）

・作業所の賃金の時給をもう少し増やしてほしいです。タクシー券が発行されるようになって助かる。（40 歳代）

・障害福祉課のお姉さんが優しくて、いろいろお世話になっています。バスを半額にしてもらったり、タクシーチケットをもらったり、ハーティ割引（スマホ等）、いろいろありがとうございます。汚い字で読みにくくてごめんなさい。なにか参考になったら幸いです。ありがとうございました。（40 歳代）

・皆さん良くやってくれていると思います。（50 歳代）

・障がい福祉にいろいろと取り組んでいただき、有り難いことだと思っています。（50 歳代）

・障がい者への偏見や差別をなくし、障がい者にやさしい社会になってほしい。（50 歳代）

・日頃、世話になってばかりで、申し訳ない。（60 歳代）

・宇和島市では、障がい福祉は充実しているのではないかと思う。これからも福祉の方々、職員の方々には頑張ってほしい。（80 歳以上）

手帳種別不明

・障がいを持っているとなかなか、保育園、幼稚園に通うことが難しい。すぐに断られてしまう。職員を募集するなり、通えるようにしてほしい。あと、気楽に相談できる場をもっと増やしてほしい。（１～５歳）

・アンケートの質問が、理解できない人には適応しないと思います。障がいの程度を調べてから郵送してほしい！（60 歳代）

資料　調査票

宇和島市　障がい福祉に関するアンケート調査

【ご協力のお願い】

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

宇和島市では、障がい福祉施策をより一層充実させていくために「宇和島市障がい者計画」等の策定に取り組んでいます。

この調査は、計画の策定にあたって、市内にお住まいの障がいのある方や福祉サービスを利用されている方を対象に、日常生活の様子や福祉サービスに対するご意見などをお伺いし、計画づくりに役立てる基礎資料とするものです。

調査は、無記名でご回答いただきますので、回答された方が特定されたり個人の回答内容が明らかにされたりすることはありません。また、調査票は宇和島市個人情報保護条例にしたがい、適切な管理をいたします。

ご多用のところ誠にお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和２年７月

宇和島市長　岡原文彰

【調査に関する問い合わせ先】

宇和島市 保健福祉部 福祉課 障害福祉係
〒798-8601 愛媛県宇和島市 曙 町 １番地
ＴＥＬ：（０８９５）４９－７０１６　ＦＡＸ（０８９５）２４－１１６０
メール　fukushi @city.uwajima.lg.jp

この調査票は、８月１７日（月曜日）までに、同封の返信用封筒に入れて、無記名で返送してください（切手は不要です）。

【ご記入にあたってのお願い】

宛名のご本人が「１８歳以上」の場合

１　ご本人が直接お答えいただくことが難しい場合には、ご家族や介助者の方などが、ご本人のお考えをお聞きの上、又は、ご意向を尊重してお答えください。

２　令和２年７月１日現在の内容をお答えください。

宛名のご本人が「１８歳未満」の場合

１　このアンケートは、宛名のご本人（以下「あなた」又は「お子さん」と言います。）のことについてお伺いしています。質問には、難しい言葉で書かれた内容もありますので、できるだけ保護者（又は、保護者の立場に近い方）にご記入をお願いします。その場合、お子さんのお考えをお聞きの上、又は、ご意向を尊重してお答えください。

２　令和２年７月１日現在の内容をお答えください。

はじめに、記入される方についておたずねします

問１　このアンケートにお答えいただくのは、どなたですか。（○は１つだけ）

１　宛名のご本人（この調査票が郵送された宛名の方）
２　宛名のご本人の家族
３　家族以外の介助者

あなた（宛名のご本人）のことについておたずねします

問２　あなたの年齢をお答えください。（○は１つだけ）

１　０歳	５　18～19歳	９　50～59歳	13　80歳以上
２　１～５歳	６　20～29歳	10　60～64歳	
３　６～９歳	７　30～39歳	11　65～69歳	
４　10～17歳	８　40～49歳	12　70～79歳	

問３　あなたがお住まいの地区はどこですか。（○は１つだけ）

１　宇和島地区	３　三間地区	５　その他（　　）
２　吉田地区	４　津島地区	６　わからない

問４　あなたを介助してくれる人は、主にどなたですか。（○は１つだけ）

１　父または母
２　配偶者（夫または妻）
３　子ども
４　きょうだい
５　親せき
６　友人・知人
７　福祉施設の職員・ホームヘルパー
８　その他（　　）
９　介助は必要ない

↓

次は問６へお進みください

問５　【問４で「１～６」を選んだ方のみにおたずねします。】介助してくれる人の年齢、健康状態についてお答えください。（○は１つずつ）

① 介助者の年齢	１　29歳以下　２　30歳代　３　40歳代　４　50歳代　５　60歳代　６　70歳代　７　80歳以上
② 介助者の健康状態	１　健康である　２　健康に不安がある

あなたの障がいの状況についておたずねします

問６　あなたは次の手帳をお持ちですか。（あてはまるものすべてに○）

1　身体障害者手帳１級
2　身体障害者手帳２級
3　身体障害者手帳３級
4　身体障害者手帳４級
5　身体障害者手帳５級
6　身体障害者手帳６級
7　療育手帳Ａ
8　療育手帳Ｂ
9　精神障害者保健福祉手帳１級
10　精神障害者保健福祉手帳２級
11　精神障害者保健福祉手帳３級

↓

次は問８へお進みください

問７　【問６で「１～６」を選んだ方におたずねします。】手帳に記載されている障がい名をお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1　視覚障がい
2　聴覚障がい
3　平衡機能障がい
4　音声・言語・そしゃく
5　肢体不自由※1
6　内部障がい※2

※１　上肢・下肢・体幹の障がい・運動機能障がい

※２　心臓・腎臓・呼吸器・膀胱・直腸・小腸・免疫・肝臓機能の障がい

問８　あなたは、次にあげる項目それぞれについて、医師からの診断や認定などを受けていますか。
（○は１つずつ）

① 難病※1の診断	1　受けている	2　受けていない
② 発達障がい※2の診断	1　受けている	2　受けていない
③ 特別児童扶養手当の受給	1　受けている	2　受けていない
④ 高次脳機能障がい※3の診断	1　受けている	2　受けていない
⑤ 自立支援医療（精神通院）の受給者証	1　持っている	2　持っていない
⑥ 介護保険制度の要支援・要介護認定	1　受けている	2　受けていない
⑦ 障害支援区分認定	1　受けている	2　受けていない

※１ 難病（特定疾患）とは、パーキンソン病や筋ジストロフィーなどの治療法が確立していない疾病その他の特殊な疾病をいいます。

※２ 発達障がいとは、自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいなどをいいます。

※３ 高次脳機能障がいとは、一般に、外傷性脳損傷、脳血管障がい等により脳に損傷を受け、その後遺症等として生じた記憶障がい、注意障がい、社会的行動障がいなどの認知障がい等を指します。

問９　あなたが、現在受けている医療的ケアをお答えください。（あてはまるものすべてに○）

1　医療的ケアは受けていない
2　気管切開
3　人工呼吸器
4　吸入・ネブライザー
5　吸引
6　経管栄養（胃ろう・腸ろう・経鼻）
7　中心静脈栄養（ＩＶＨ）
8　カテーテル留置
9　ストーマ（人工肛門・人工膀胱）
10　透析
11　服薬管理
12　酸素療法
13　その他（　　）

障がい福祉サービスの利用についておたずねします

問10　あなたが、現在利用している障がい福祉サービスについておたずねします。

①現在、利用しているサービスをすべてお答えください。

※受給者証の記載内容を参考にしてください。

②今後新たに利用したいサービスはありますか。（あてはまるものすべてに○）

（あてはまるものすべてに○）		① 現在、利用しているサービスに○印→	② 今後、新たに利用したいサービスに○印→
1　居宅介護 （ホームヘルプ）	ホームヘルパーが自宅を訪問して、入浴や排せつ、食事、洗濯、掃除等の介助を行うサービスです。	1	1
2　重度訪問介護	重度の障がいがあり、常に介護が必要な人に、自宅で入浴や排せつ、食事などの介助や外出時の移動補助を行うサービスです。	2	2
3　同行援護	視覚障がいにより移動が著しく困難な人に、外出に必要な情報の提供や移動の援護などを行うサービスです。	3	3
4　行動援護	知的障がいや精神障がいにより行動が困難で常に介護が必要な人に、食事や排せつなどの介助や外出時の移動補助などを行うサービスです。	4	4
5　重度障害者等包括支援	寝たきりなどで常に介護が必要な人で、介護の必要の程度が著しく高い人に、居宅介護（ホームヘルプ）などのサービスを包括的に提供するサービスです。	5	5

（あてはまるものすべてに○）		① 現在、利用しているサービスに○印→	② 今後、新たに利用したいサービスに○印→
6 短期入所（ショートステイ）	介護する人が病気の時などに、障がいのある人が施設に短期間入所し、入浴や排せつ、食事の介護などを行うサービスです。	6	6
7 生活介護	常に介護が必要な人に、施設で入浴や排せつ、食事の介護や創作的活動などの機会を提供するサービスです。	7	7
8 療養介護	医療が必要で常に介護を必要とする人に、主に昼間に病院などで、機能訓練や療養上の管理、看護などを提供するサービスです。	8	8
9 自立訓練（機能訓練、生活訓練、宿泊型自立訓練）	自立した日常生活や社会生活ができるよう、一定期間、身体機能や生活能力の向上のために必要な訓練を行うサービスです。	9	9
10 就労移行支援	一般就労したい人に、一定の期間、就労に必要な知識や能力向上のための訓練を行うサービスです。	10	10
11 就労継続支援（A型）	一般就労が困難な人が、働く場として事業所と雇用契約を結び、就労の機会や生産活動などの機会を提供し、知識や能力の向上のための訓練を行うサービスです。	11	11
12 就労継続支援（B型）	一般就労が困難な人に、事業所と雇用契約を結ばずに、就労の機会や生産活動などの機会を提供し、知識や能力の向上のための訓練を行うサービスです。	12	12

（あてはまるものすべてに〇）		① 現在、利用しているサービスに〇印↓	② 今後、新たに利用したいサービスに〇印↓
13 就労定着支援	就労移行支援などを利用して一般就労した人に対して、日常生活や就労で困っていることについて、その問題の解決に必要な指導や助言などを行うサービスです。	13	13
14 自立生活援助	障がい者施設などを利用していた人で、一人暮らしを希望する人に、必要な情報の提供や助言、支援を行うサービスです。	14	14
15 共同生活援助（グループホーム）	夜間や休日に、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助などを行うサービスです。	15	15
16 施設入所支援	主として夜間に、施設に入所する人に対し入浴や排せつ、食事の介護などの支援を行うサービスです。	16	16
17 計画相談支援	障がい福祉サービス等を利用するための、計画の作成や利用についての支援を行うサービスです。	17	17
18 移動支援	一人で移動することが困難な人に、自立した日常生活や社会参加のための外出の支援を行うサービスです。	18	18
19 日中一時支援	日中、介護者の休息や不在の時に、見守りと日中活動の場を提供するサービスです。	19	19

（あてはまるものすべてに○）		① 現在、利用しているサービスに○印↓	② 今後、新たに利用したいサービスに○印↓
【18歳未満のみ対象】 20　児童発達支援	日常生活における基本的な動作の指導、知識や技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援を行うサービスです。	20	20
【18歳未満のみ対象】 21　居宅訪問型児童発達支援	重度の障がいがあり、外出することが非常に困難な児童の自宅を訪問し、日常生活に必要な動作の指導や、知識や技能を身に着けるための援助を行うサービスです。	21	21
【18歳未満のみ対象】 22　医療型児童発達支援	医療的管理下で支援を行う必要がある児童に、知識や技能の付与、集団生活への適応訓練などの支援と治療を行うサービスです。	22	22
【18歳未満のみ対象】 23　放課後等デイサービス	学校の授業終了後や休校日に、施設に通い、生活能力の向上のために必要な訓練や、社会との交流促進などの支援を行うサービスです。	23	23
【18歳未満のみ対象】 24　保育所等訪問支援	保育所などを訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援などを行うサービスです。	24	24
【18歳未満のみ対象】 25　計画相談支援・障害児相談支援	障がい児通所支援を利用する児童に、サービスの利用計画案を作成し、サービス提供事業者との連絡調整を行うサービスです。	25	25
26　利用しているサービスはない・利用したいサービスはない		26	26

問11　今後、障がい福祉サービスを利用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。
（主なもの３つまでに○）

1　どのようなサービスがあるのか、わかりやすく情報を提供してほしい
2　サービスについて気軽に相談できる場所がほしい
3　申請や手続きの方法をわかりやすくしてほしい
4　障がいの特性に応じた方法で相談支援や情報提供をしてほしい
5　自分に適切なサービスをアドバイスしてほしい
6　必要なときにすぐに利用できるようにしてほしい
7　サービスの回数や時間を増やしてほしい
8　市内の身近な場所でサービスが受けられるようにしてほしい
9　施設の職員などの技術・知識を向上してほしい
10　施設の職員などの人数を増やしてほしい
11　サービスの費用負担を軽減してほしい
12　その他（　　）
13　特にない

問12　あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。
（あてはまるものすべてに○）

1　本や新聞、雑誌の記事
2　テレビやラジオのニュース
3　行政機関の広報紙
4　インターネット（スマートフォンやタブレット）
5　インターネット（パソコン）
6　家族や親せき、友人・知人
7　サービス事業所の人や施設の職員
8　相談支援事業所などの民間の相談窓口
9　行政機関の相談窓口
10　障がい者団体や家族会（団体の機関誌など）
11　かかりつけの医師や看護師
12　病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー
13　民生委員・児童委員
14　通園施設や保育所、幼稚園、学校
15　その他（　　）
16　特にない

住まいや暮らしについておたずねします

問13　あなたは現在、どのように暮らしていますか。（○は１つだけ）

1　自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしている
2　自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしている
3　グループホームで暮らしている
4　福祉施設（障がい者支援施設）で暮らしている
5　福祉施設（高齢者支援施設）で暮らしている
6　病院に入院している
7　その他（　　）

問14　あなたは今後、どのように暮らしたいと思いますか。（○は１つだけ）

1　自宅（アパートなどを含む）で一人で暮らしたい
2　自宅（アパートなどを含む）で家族や親族と暮らしたい
3　グループホームで暮らしたい
4　福祉施設（障がい者支援施設）で暮らしたい
5　福祉施設（高齢者支援施設）で暮らしたい
6　その他（　　）

問15　あなたが相談したいことは、どのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

1　自分の体調のこと
2　家族・学校・職場・近所などでの人間関係のこと
3　介助してくれる人の健康や体力のこと
4　支援してくれる人のこと
5　生活費や収入のこと
6　介助・介護のこと
7　老後のこと
8　炊事・掃除・洗濯など家事のこと
9　育児のこと
10　住まいのこと
11　外出・移動のこと
12　就学・進学・教育のこと
13　仕事・就職のこと
14　差別・偏見に関すること
15　余暇・スポーツ活動のこと
16　緊急時・災害時のこと
17　話し相手のこと
18　結婚のこと
19　情報収集のこと
20　その他（　　）
21　特にない

問16　あなたが相談先に望むことは何ですか。（主なもの３つまでに○）

1　１か所でどんな相談にも対応できること
2　身近な地域で相談できること
3　障がいの特性に応じて専門の相談ができること
4　障がいのある人やその家族など、同じ立場の人に相談ができること
5　休日や夜間、緊急時でも相談できること
6　電話・ＦＡＸ・電子メールでの相談ができること
7　スマホやパソコンなどで相手の顔を見ながら遠隔で相談できること
8　自宅や病院、施設を訪問してくれること
9　年齢や状況などに応じた情報を提供してくれること
10　相談員の質を向上させること
11　その他（　　）
12　特にない

問17　障がいのある人が自らの体験に基づいて、同じ仲間である他の障がいのある人の悩みなどを聞くという取組がありますが、あなたは、この取組に参加してみたいと思いますか。

（○は１つだけ）

1　悩みなどを聞く立場で参加してみたい
2　悩みなどを聞いてもらう立場で参加してみたい
3　具体的な内容を聞いたうえで参加を検討してみたい
4　参加してみたいと思わない

問18　これから先、あなたを介助してくれる人の高齢化や介助してくれる人がいなくなったときのために、どのような支援が必要になってくると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1　住まいの確保
2　身のまわりの世話をしてくれる人の確保
3　一人暮らしや共同生活に慣れるための支援
4　緊急時の居場所の確保
5　災害時の避難支援
6　経済的な支援の充実
7　相談支援の充実
8　まわりの人とのコミュニケーションの支援
9　日中過ごせる場所・仲間や友達と出会える場所の充実
10　進学や就職に向けた支援
11　その他（　　）
12　特にない

就労や日中の活動についておたずねします

※あなた（宛名のご本人）が１８歳以上の方のみにおたずねします。
１８歳未満の方は、問２１へお進みください。

問19　あなたは、現在、収入を得て働いていますか。（○は１つだけ）

1　正職員として働いている
2　パート・アルバイト等や派遣職員として働いている　→ 次は問22へお進みください
3　自宅で働いている（自営業など）
4　福祉施設・作業所等に通って給料（工賃）をもらっている
5　働いていない → 次は問21へお進みください

問20　【問19で「４」を選んだ方のみにおたずねします。】あなたは今後、一般就労（一般企業などで働く）をしたいと思いますか。（○は１つだけ）

1　一般就労したいと思う
2　思わない

↓

次は問22へお進みください

問21　【問19で「５」を選んだ方及び18歳未満の方のみにおたずねします。】あなたは、今後、日中をどのように過ごしたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1　働いて収入を得たい
2　自宅で過ごしたい
3　保育所や幼稚園・学校などに通いたい
4　大学、専門学校、職業訓練校などに通いたい
5　ボランティアなど地域での活動をしたい
6　施設に入所したい
7　病院に入院したい
8　その他（　　）

問22　障がいがあっても働きやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの３つまでに○）

1　通勤手段が確保されていること
2　通勤にかかる費用が軽減されること
3　職場にバリアフリーなどの配慮があること
4　短時間勤務など柔軟な働き方ができること
5　働きながら通院できること
6　職場で差別がないこと
7　障がいのある仲間と一緒に働けること
8　職場に介助などの支援をしてくれる人がいること
9　障がいがあっても働ける場所が増えること
10　就労に向けた相談の場が充実していること
11　専門的な技術を身に着ける職業訓練が充実していること
12　在宅勤務ができること
13　その他（　　）
14　特にない

人とのコミュニケーションや社会参加についておたずねします

問23　あなたは、人とコミュニケーションをとるときに困ることがありますか。（○は１つだけ）

1　よくある	2　時々ある	3　ほとんどない

問24　あなたが、人とのコミュニケーションをとりやすくするためには、どのようなことに配慮してほしいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1　ゆっくりと話してほしい
2　口元が見えるように話してほしい
3　手話で話してほしい
4　筆談や要約筆記で話してほしい
5　点字や音訳を活用してほしい
6　体や表情の動き（ジェスチャー）で話してほしい
7　音声情報や文字情報、案内表示を増やしてほしい
8　パソコンやタブレット端末を利用しやすくしてほしい
9　公共施設に手話通訳者を配置してほしい
10　その他（　　）
11　特にない

問25　あなたが、外出するときに困ることは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1　公共交通機関が少ない
2　電車やバスの乗り降りが困難
3　道路や駅に階段や段差が多い
4　切符の買い方や乗り換え方法がわかりにくい
5　外出先の建物や設備がバリアフリー化されていない
6　付き添いの人が確保できない
7　外出するのにお金がかかる
8　周囲の目が気になる
9　発作など突然の体調の変化が心配
10　出先で困ったときにどうすればよいかわからない
11　その他（　　）
12　特にない

問26　あなたの、近所の人や地域の人とのつきあいはどの程度ですか。（○は１つだけ）

1　とても親しくつきあっている人がいる	4　あいさつをする程度の人がいる
2　親しくつきあっている人がいる	5　ほとんどつきあいがない
3　世間話をする程度の人がいる	

問27　この１年間に、あなたは、趣味やスポーツ、芸術文化活動などの社会活動に参加しましたか。（あてはまるものすべてに○）

1　コンサートや映画、スポーツ観戦	8　自治会などの活動、祭りなど地域の行事
2　スポーツ活動	9　障がい者団体やグループの活動、行事
3　芸術・文化活動	10　保育所や学校等の活動・行事
4　旅行、ドライブ	11　ボランティア活動やＮＰＯ活動
5　セミナー・講演会などの生涯学習活動	12　その他（　　）
6　趣味のサークル活動	13　参加していない
7　市役所の行事やイベント	

問28　障がいがあっても、地域の社会活動などにもっと参加しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（主なもの３つまでに○）

1　施設や公共交通機関のバリアフリー化
2　施設の利用料や活動費への経済的な支援
3　障がいの特性に応じた社会活動に関する情報の提供
4　介助者や手話通訳などの支援
5　一緒に活動する仲間がいること
6　障がいに応じたスポーツ活動を適切に指導してくれる人がいること
7　芸術・文化活動を適切に指導してくれる人がいること
8　スポーツや芸術・文化活動についての相談窓口が充実していること
9　その他（　　）
10　特にない

障がいのある人への理解と権利擁護についておたずねします

問29　平成28年に「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）※」が施行されましたが、あなたは、障がいのある人に対する、地域の人の理解は進んできたと思いますか。（○は１つだけ）

※「障害者差別解消法」とは、国、地方自治体や企業、店舗などの事業者が、障がい者に対して正当な理由なく障がいを理由として差別することを禁止することを趣旨とした法律です。

1　かなり進んできた
2　どちらかといえば進んできた
3　あまり進んできたとは思わない
4　進んでいない（変わらない）

問30　あなたは、障がいのある人に対する市民の理解を深めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。（主なもの３つまでに○）

1　障がいに関する広報や啓発を充実する
2　地域のボランティア活動を促進する
3　市民との交流の機会を増やす
4　学校や生涯学習の場で人権教育を充実する
5　障がいに関する講演会やイベントを開催する
6　福祉施設等を地域へ開放する
7　障がいのある人のまちづくり活動への参加を促進する
8　その他（　　）
9　特にない

問31　あなたは、「成年後見制度※」について知っていますか。（○は１つだけ）

※「成年後見制度」とは、認知症や知的障がい、精神障がいなどによって物事を判断する能力が十分でない方について、本人の権利を守る援助者（後見人等）を選ぶことで本人を法律的に支援する制度です。

1　内容（意味）を知っている
2　制度の名前は聞いたことがあるが、内容は知らない
3　全く知らない

問32　あなたは、成年後見制度が必要になったときに利用したいと思いますか。（○は１つだけ）

1　利用したい
2　利用したいと思わない
3　わからない

災害時のことについておたずねします

問33　あなたは、「宇和島市避難行動要支援者※」に登録していますか。（○は１つだけ）

※「宇和島市避難行動要支援者」とは、民生・児童委員や自主防災組織の方が日頃から災害時に、避難支援が必要な方を見守るために、登録者の情報を共有する制度です。

１　登録している
２　そのような取組は知っているが登録はしていない
３　取組を知らなかった

問34　家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

（○は１つだけ）

１　いる　　２　いない　　３　わからない

問35　地震や豪雨、台風などの災害時に備えて、どのような対策が必要だと思いますか。

（主なもの３つまでに○）

１　災害の状況や避難場所などの情報を障がいの特性に配慮して提供すること
２　避難するときや避難場所での介助者や支援者が確保できること
３　福祉避難所など障がい者に配慮した避難場所が確保できること
４　避難所生活でプライバシーを守る対策ができていること
５　避難先でも適切な医療や投薬などが受けられること
６　日頃から防災知識を普及・啓発すること
７　日頃から避難訓練を実施すること
８　その他（　　）
９　特にない

療育や保育・教育についておたずねします

※あなた（宛名のご本人）が<u>１８歳未満</u>の方のみにおたずねします。
<u>１８歳以上</u>の方は、問４０へお進みください。

問36　お子さんの通所・通学先はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

1　保育所や認定こども園に通園している
2　小学校・中学校・高校に通学している
3　特別支援学校に通学している
4　特別支援学級・通級指導教室に通学している
5　児童発達支援センター・児童発達支援事業所を利用している
6　その他（　　）
7　通所・通学はしていない（自宅で過ごしている）→ 次は問38へお進みください

問37　【問36で「１～６」を選んだ方におたずねします。】お子さんは、放課後や夏休みなどの長期休業中をどのように過ごしたいと思っていますか。（主なもの３つまでに○）

1　家で一人で過ごしたい
2　家族・親族の誰かと一緒に過ごしたい
3　塾・習い事をしたい
4　クラブ活動・部活動（学校内）をしたい
5　放課後児童クラブで過ごしたい
6　放課後等デイサービス・日中一時支援を利用したい
7　ヘルパーなどと外出したい
8　その他（　　）

問38　お子さんの介助や支援にあたって、どのような不安や悩みがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1　介助・支援の方法がわからない
2　余暇や休養など自分の時間が持てない
3　仕事に出られない
4　身体的・精神的な負担が大きい
5　睡眠が不足している
6　経済的な負担が大きい
7　介助の必要な家族・親族がほかにもいる
8　地域の人や周囲の理解がない
9　何かあったときに世話を頼める人がいない
10　介助者同士のつながりや交流がない
11　その他（　　）
12　特にない

問39　発育・発達上の支援が必要な子どものために、どのようなことが必要だと思いますか。
（主なもの３つまでに○）

1　身近な場所で子どもの発達について相談できる場所を増やすこと
2　相談したいときに素早く、スムーズに相談できること
3　発育や発達上の課題を早期に発見できる体制を充実すること
4　市内に小児科を増やすこと
5　家庭訪問による相談や指導ができること
6　通園・通学先で障がいの特性や発達に合わせた支援をしてくれること
7　保育士や教職員が障がいへの理解を深めること
8　まわりの子どもが障がいへの理解を深めること
9　放課後や夏休みなど長期休業中に過ごせる場所を増やすこと
10　通園や通学時の介助や付き添いを支援してくれること
11　地域社会との交流の機会を増やすこと
12　子どもを一時的に預かって世話や介助をしてくれること
13　その他（　　）
14　特にない

福祉の取組についておたずねします

問40　あなたは、障がい者にとって住みやすいまちをつくるためには、宇和島市はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。（主なもの５つまでに○）

1　誰もが障がいについて学び、理解を深める機会を増やす
2　相談できる場所を増やす
3　すぐに相談できる体制を充実する
4　財産や権利を守る支援を充実する
5　障がい福祉サービスを利用しやすくする
6　医療費の助成や手当の支給など経済的な支援を充実する
7　災害時の避難支援体制を充実する
8　地域で生活するための住まいを確保する
9　医療・保健・福祉に関する情報提供を充実する
10　障がい福祉サービスから介護保険サービスへスムーズに移行できる体制を整える
11　就労のための支援や働く場を増やす
12　参加しやすいスポーツ、芸術・文化活動、生涯学習を充実する
13　障がいがあっても移動しやすい道路や交通機関など利便性を向上する
14　施設や建物をバリアフリー化する
15　手話や音声などを活用し情報をバリアフリー化する
16　住民同士がふれあう機会やコミュニケーションの場を充実する
17　その他（　　）
18　特にない

問41　宇和島市の障がい福祉の取組について、ご意見がありましたら、自由にご記入ください。

～ ご協力ありがとうございました ～